

明治四十三年一月一日發行

# 十全會雜誌

第五十六號

全澤醫學專門學校十全會

# 十全會雜誌第五十六號目次

●墨川靜淵先生小傳及肖像

## ●原著及實驗

●「トラホーム」病原菌研究

●早期月經

河野 勇  
諸橋 林太郎

## ●雜纂

●新生藥摘錄

謙 中 生

## ●抄錄

●脚氣血清が蛙の瞳孔に對する「アドレナリン」類似的反應、島國順次郎  
「スピロヘーテ、ペルリダ」の分離培養試験、ゲー、アルハイム  
●組織中に存在する「トラホーム」小体の證明、ハンスヘルツォーグ

## ●學會

●金澤醫學會第四例會 ●東京醫學會 ●大阪醫學會 ●北越醫學會 ●第十一回萬國眼科學會、田上清良 ●第十六回國醫學會概況 ●第二回萬國癩病豫防會議 ●萬國放射電氣學々會 ●第三回萬國學校衛生會議。

## ●內地雜報

●獎進醫會 ●醫鐵 ●關化講演 ●臨時脚氣病調查會 ●脚氣病原説 ●新潟縣醫師會 ●新潟縣藥劑師會 ●新潟縣齒科醫師會 ●山梨縣地方病研究に對する縣費補助 ●山梨縣醫師會地方病研究 ●東北醫學會發展 ●試驗廢止前後策 ●齒科醫育に關する意見 ●齒科醫育問題 ●東京市施療病院工程 ●大阪市施療病院計劃 ●大阪市施療病院設立建議 ●京都施療院敷地 ●石川縣「トラホーム」豫防 ●横濱の「ベスト」豫防的猫飼育 ●台北醫院近況 ●臺北仁濟園の施療患者 ●藥劑師一人對醫師數 ●開業醫千名以上の府縣 ●病原菌及劇藥郵送規則 ●長崎醫專校規則改正 ●大日本私立衛生會 ●新藥取締 ●藥局巡視 ●大連藥

業株式會社 ●關八州藥業大會 ●學位授與 ●三博士在職祝賀會 ●松浦博士片山病に罹る

## ●海外雜報

●ロンブロー博士病歿 ●海外近信 ●海外に於ける我醫師 ●ホフマイエル博士逝去

## ●學校雜報

●京都醫科大學講習科 ●同大學の業績及新築 ●福岡醫大學々術集談會 ●金澤仙臺醫專改築費 ●新潟醫專校工程 ●名古屋醫專の改築難 ●名古屋病院燒失 ●大阪高醫工事進捗 ●大阪高醫論文試驗 ●大阪高醫卒業式 ●京都醫專校近事 ●遼東醫校 ●岡山藥學校卒業式 ●同校卒業式 ●中村氏 ●楠氏 ●塚口氏

## ●校內雜報

●卒業證書授與式 ●卒業生諸君を送る ●第十六回解剖祭

## ●會報

●講話會例會記事 ●庭球秋季大會 ●弓術秋季大會

## ●人事

●送櫻井教授 ●同教授送別會及茶話會 ●臨坂講師歡迎の辭 ●逝ける大田雪嶺翁 ●石坂直次郎氏 ●明治四十一年度軍醫任地 ●萩原茂次郎氏 ●本校卒業生消息

## ●通信

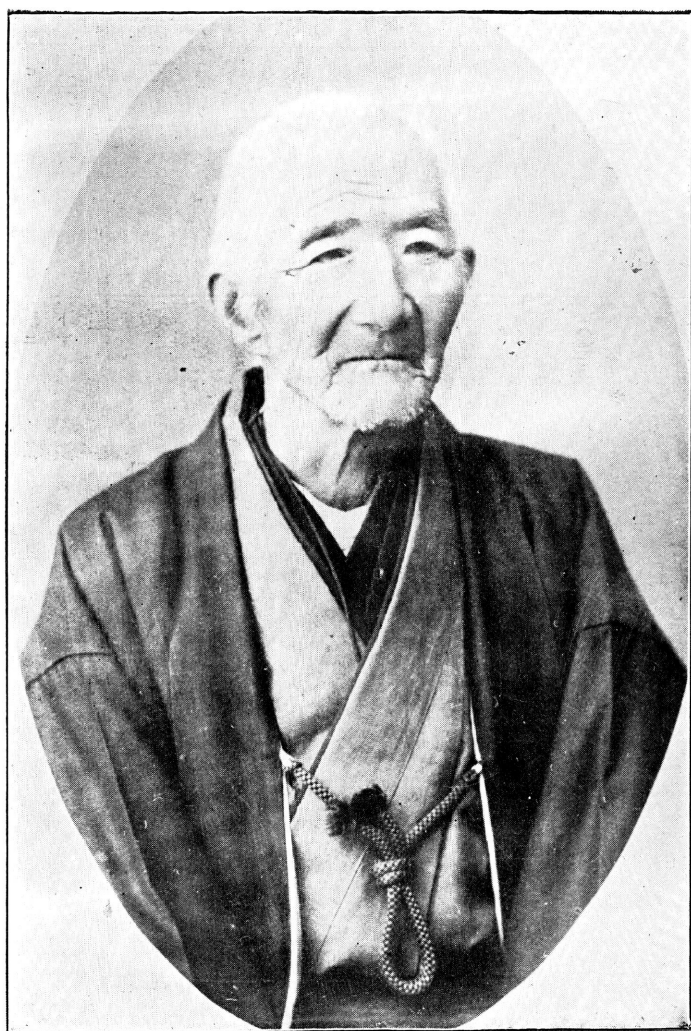
●丹羽直氏通信二通 ●厲家福君通信

## ●漫錄

●北米合衆國醫育、久保田德太郎 ●沿海州歸客談 ●在清國本邦醫師 ●在歐醫學留學生消息 ●北里博士歐洲視察談 ●學窓雜觀 ●屠蘇の話

## ●會告

●會計報告



## 黒川靜淵先生小傳

先生名ハ彌字ハ其安、靜淵ハ其號ナリ父ヲ玄龍ト云ヒ富山藩ノ御目見醫師タリ文化十四年貳月四日富山ノ藩邸ニ生ル年甫メテ十三、父ニ從ヒ長崎ニ至リ通譯吉雄權之助ニ從ヒ蘭語ヲ學ビ尋テ蘭醫 シーボルト ニ就キ醫學ヲ修ム、當時高島秋帆等ト交リ深シ成業ノ後江戸ニ出テ坪井信道翁ノ塾監トナリ諸生ヲ嘉陶スルヲ五年緒方洪庵、青木周彌、杉田成郷、赤澤寬堂ノ輩相前後シテ信道ノ門ヨリ出ツ皆莫逆ノ友タリ、諸國遊歴ノ途次、佐久間象山ノ家ニ寓シ授クルニ蘭書ヲ以テシ又象山ヨリ漢學ヲ受ク、天保十一年八月金澤ニ遊フヤ時ノ執政、青山將監、先生ノ人ト成リヲ欽慕シ自祿中ヨリ五十石ヲ分給シ后藩公ニ推薦ス新知八十石ヲ賜フ、弘化三年七月侍醫ニ擢ラレ安政元年壯猶館職譯方兼務ヲ命セラレ壯猶館ハ藩ニ蘭學及洋式兵學ヲ授クル處ニシテ、先生モ亦創立者ノ一人タリ、安政四年中納言公ニ陪從シテ江戸藩邸ニ在勤中、幕府ヨリ藩書調所教授手傳ヲ命セラレ金拾五兩ヲ給セラレ、杉田成郷、箕作阮甫、川本孝民、村田藏大等ト同僚タリ此歲十二月藩祿五十石ヲ加賜セラレ、文久三年藩ノ軍艦御用兼務ヲ命セラレ元治二年種痘所頭取ニ任シ始メテ牛痘ヲ公施ス、幼君多慶若侯ニ奉種セシハ即チ先生ニシテ北陸地方ニ種痘ヲ類メタルモ又タ先生ヲ以テ嚆矢トス慶應三年養生所詰ヲ命セラレ同年八月祿五十石加賜、明治元年二月正三位公ノ執ヒ拜命、同七月紙塑人体模型購求ノ爲メ長崎ニ遣ハサル、息誠一郎亦隨行ス在崎申誠一郎ヲ佛國ニ留學セシムヘキ命アリ因テ之ヲ送り使命ヲ卒ヘテ歸國ス時ニ明治二年五月二十五日ナリ、同年十一月家從ニ列セラレ同年醫學館創設ニ際シ計畫主任ヲ拜命シ且ツ之レガ教師ニ擧ケラル廢藩置縣ノ際文學二等教師ヲ命セラレ職俸トシテ五十石賜ハル、翌辛未八月職ヲ辭シ爾來世塵ヲ避ケ風月ヲ友トセルヲ約二十年明治二十三年九月二十八日腦溢血ヲ以テ歿ス享年七十有四、其安院靜淵居士ト諡ス、先生爲人穎悟強記、善ク人ヲ容レ平素溫良寡言ナリト雖モ事ヲ論スルモ雄辯縱橫往々壯者ヲ凌ク嘗テ中納言公ニ侍シ時勢ノ變遷ヲ論シ口ヲ極メテ自然ノ勢ナルヲ説ク公即チ自然ノ名ヲ賜フ、以來自然ヲ以テ通稱トナスト云フ、先生ハ蘭學ノ他究理、化學、天文、地理、歴史、兵學、倫理、ノ諸書ニ精シク當時舶來ノ蘭書ハ一トシテ攻究セサルナク且ツ衆醫ノ難スル處ノ病理及診斷ハ先生ノ最モ特意トスル處ナリシト曾テ崎陽ニ在ルヤ燐ヲ製シ又移東ノ時入腦ヲ解剖セリ此事世上ニ喧傳シ先生ノ卓技ヲ歎賞セサル者ナカリキ是ヨリ前、加藩ニ吉田長叔、福井方貞ノ如キ蘭學者アリシト雖モ常ニ江戸ニ住シ其學ヲ領地ニ播クヲ能ハス先生ニ至リテ始メテ金澤ニ西洋ノ學術ヲ移植シ前後三十年孜々トシテ三洲ノ子弟ヲ教育薰陶シ我金澤ナシテ文化ニ遅レサラシメタルハ實ニ先生力達觀識見ノ賜ト云ハサルベカラズ宜ナルカナ明治四十二年九月 皇太子殿下ノ北陸ニ駕ヲ往ラル、ヤ特ニ贈正五位ヲ賜ヒ其功績ヲ表彰セララル先生タルモノ以テ地下ニ瞑スヘキナリ



雜纂

新生藥摘録

謙中生

本録は植物界中新生藥として成分、應用等の既知に屬するものに就き主として邦産種を撰び亦外國産のものと雖須要のものは掲載する事をふせり順序は「ラテン」名の「アルファベット」に従ふ。

●相思子 「タウアツキ」

*Abrus precatorius* L. 蝴蝶形科 Papilionaceae

本來東印度産あれども現今は一般に熱帶地方に産す果實は莢果にして四乃至六個の稍長形を有する豌豆大の種子を藏す該種子は猩紅色を呈する硬皮より黒色の臍點を具ふ而して此種子は以前より有毒作用ある事を認めり Warden 及 Waddell 氏の試験に據れば種子は胃中に於ては有毒にあらざれども之に反して〇、「グラム」を皮下に注入するときは四十八時間後斃死すべしと、種子の有毒作用ある成分は蛋白質體なる Abrin (Jequiritin) にして之れは體重「キログラム」毎に〇、〇〇〇〇「グラム」を血中に注入するときは死に至らしむ其他結晶性酸を含有す亞米利加にては此種子を狼瘡 Lupus 及其他皮膚病に應用(醫用には大抵冷浸液とす)す、又念珠 Rosenkranz 頸鏈 Halskette 其他の裝飾品とす又本植物より得たる根 Radix Abri 莖及葉は甘味を有するを以て熱帶地方にては甘草 Stasholz の如く應

用す莖及葉には「グリチルリチン」 Glycyrrhizin を含む即ち葉中には其量九乃至十%なり。

●シマイチビ

*Abutilon indicum* G. Don. 錦葵科 Malvaceae

本種子は東印度西部に於て種子中に含有する粘液の多少により評價す之れは千八百九十二年 Baling 氏により歐洲に輸入せり利尿藥 Diureticum として用ふ。

●牛 扁 「レイジンサウ」

*Aconitum lycoctonum* L. 毛茛科 Ranunculaceae

本植物は山中陰地に生し高を二尺餘に至り其根莖及根は Dragendorff 及 Spohn 氏の試験に依れば二種の「アルカロイド」あり一は Lycaconitin にして無晶形をなし熔融點百十一、七度乃至百十四、八度にして含量一、二三%あり。此無晶形「アルカロイド」に四%の「ナトロン」濃液を加へ處するときは一結晶體を生ず之れは Hubschmann の製出せる Lycoctonin と同一物あり他の一は Mycoctonin にして同じく無晶形をなし熔融點百十三、五度乃至百四十四度にして含量〇、八%あり。

●獼猴桃 「シラクチヅル」

*Actinidia arguta* Franch. et Sav. 獼猴桃科 Dilleniaceae

蔓性灌木にして「アイノ」人は「クチランガラ」 Kutchi-pungura と稱する植物にして該植物より滲出する液汁を祛痰藥 Expectorans として應用す。

●リウゼクラン 「マンチンラン」

*Agave americana* L. 石蒜科 Amaryllidaceae

(抄録)

本植物の葉は皮膚紅斑作用ある物質を含有す而して皮膚紅斑作用の原因として皮部中より *Balsam* を認識せり使麻斯に應用す。

●クワクカウアザミ

*Ageratum conyzoides* L. 菊科 Compositae

溫帶地方に産する植物にして下痢 Diarrhoe 及熱病に用ふ。

●樗 「ニハウルシ」

*Alnus glandulosa* Desf. 苦木科 Simarubaceae

數丈に達する喬木にして本來は支那産ふれども現今は多く各地に培養す本植物の皮部中には一種の酸・醣糖体、「アルカロイド」等を含み亦 *Cassia* を含有するが如し本樹皮は神経痛竝に驅蟲藥 *Wormmittel* として用ひらる

(未完)

\* \* \* \* \*

孤 録

●脚氣血清が蛙の瞳孔に對する

「アドレナリン」類似の反應

島 菌 順 次 郎

(東京醫學會雜誌「三卷二一號」)

「アドレナリン」の瞳孔反應に就ては近年種々研究せらる其點眼に因て病的

の場合に瞳孔に著しき擴大を來すことありと雖健康なる人并に哺乳動物にはかかる反應なし然るに千九百〇四年メルツェル及びアウエルは面白き發見をなし「アドレナリン」が常に蛙の瞳孔を擴大せしむる事を唱へたり翌千九百〇五年エールマンは此反應は「アドレナリン」を蛙に點眼するよりも其眼珠を摘出し之れに「アドレナリン」を働かしむる方遙に鋭敏なることを示し且此に因て液体中に含有せらるる「アドレナリン」を定量し得ることを述へ貳千萬倍に稀釋するも尚蛙の瞳孔散大筋に働くことを証したり

一昨千九百〇七年シユール及びワイセルは最新なる研究を發表して曰く慢性腎臟炎患者及び両側の腎臟を摘出せる動物の血清は常にエールマンの示したる反應を摘出せる蛙眼に起すも健康なる人及び動物并に他の疾患に罹れるもの血清には一も此反應なし而して此かかる場合に解剖的に副腎等の「クロマフィン」組織の増殖を見るを以て其機能亢進に因り血液中に「アドレナリン」の増量を來すものなりとし此を以て腎臟炎の際に起る血壓の上騰を説明せり其後アイヒレル、ゴルドチーヘル及びモルナール等が全研究を反覆しシユール及びワイセルの所見を肯定せりバアールは更に腎患者の尿に就て全様の試験を行ひ此にも亦蛙の瞳孔に擴大せしむる働ありと稱したり

然るにグーテルマン及びボツテストは血液が蛙の瞳孔を擴大せしむるを以て直に「アドレナリン」が此に多量に存在するものと認むべからずと謂ひ寧ろ腎臟炎の時に腸に腐敗作用劇しくあり爲に「ブレンツスカテヒン」等が產出せられ其吸収に因て起るものなりと稱したりコメサツチーも類似の意見を發表し且曰く概して謂はゞ蛙眼反應は「アドレナリン」に特有のものにあらずと雖ども唯血清に因て陽性の成績を得たる時には其中に「アドレナリン」存在の疑を起し得べし而して其反應は二三十分間の内に明に瞳孔の散大を來せる場合からざるべからずと全氏は又アイエムが前年已に注意せる如く鹽類の含有量が瞳孔の大きさに多少影響を及ぼすことを証して同反應の價

値を疑へり

解剖的研究にてはピアースはシュール及びワイセルの説の如く慢性腎臓炎に屢々副腎の増殖を見たるも他の場合にも稀に其増殖を來すと稱しアシヨフ氏の研究室に於けるコーン氏の研究に従ひて述べし所によれば慢性腎炎の際副腎實質の増殖は他の疾患に比較して左程屢々見出さるゝものにあらざるを以て之れを基礎としてシュール及びワイセルの説を樹つるは不穩當あり殊に氏は心臓の肥大副腎の増殖の間に特別の關係を見出さざりし蛙眼反應以外の方法を以てはシュライエルは「アドレナリン」が血管收縮を來す働を利用して腎臓炎患者の血清を検したるに健康なるものに比して却て其收縮力の減少せることを証したりフレンケルは亦家兎の子宮を用ゐて「アドレナリン」の働を検し腎患者の血清に「アドレナリン」の増加を認めざりき。

以上シュール、ワイセルの發見以來全問題に就て諸家研究の概要あり此等を以て見れば腎患者及び腎臓を摘出せる試験動物の血清が摘出せる蛙眼に働き腫孔を散大せしむるとは確かあるもシュール、ワイセルの説の他の部分即ち其物が「アドレナリン」あること及び此が「クロマフィネ」組織の増殖及び機能亢進に因ることは未だ確証せられず

腎疾患の外バセドウ氏病の血清にも全様に眼擴大の作用あることをグラウス及びフリーデントールが証明しフレンケルは前記の子宮検査法を用ゐて又全血清に「アドレナリン」の増加を証し健康なるものに比し四乃至八倍多しと稱せり然るに其際血圧は常に高まり居らざるを以て氏は此「アドレナリン」増加を代償作用によるものと見做せり。

コストリグイは肝臓實質の機能が障礙せらるゝ肝疾患の血液中に「アドレナリン」増加を見たりと謂ふ。

著者は以上リテラッセルを列擧し其シュール及びワイセル説が脚氣に於ける三浦、山極兩博士の血管收縮説と甚だ類似の關係を有するものある点よ

りして脚氣患者に就て血清の「アドレナリン」反應を試みんことを企て本年六月以來適當なる患者を得たるを以て之れを施行せり、其方法はエールマンの示す所に従ひ二個の小なる下端を閉鎖せる漏斗を裝置し此に各一個の摘出せる蛙の眼球を入れ腫孔を上向にし一方に試験せんとする血清を加へ此に因て起る腫孔の變化を検し他の方にはリッゲル氏液或は生理的食鹽水を注ぎ以て前者との比較に供す眼球は摘出後豫め凡そ三分間強き電光に當て腫孔を充分に收縮せしめたり

患者は三浦内科に入院せるもの及び外來患者中可成合併症のなきものより新鮮にして病の増進中或は少くとも極期に留るものを撰びたり又尿中蛋白を証明するもの、サリチル製劑其他腫孔に關係を及ぼすべき藥品を用えたるものは之れを除きたり

血液は患者の腕靜脈穿刺により凡そ十立方仙迷を流出せしめ遠心裝置により或は氷室に靜置して清潔なる血清を得たり數例に於ては更に尿を以て全反應を検し他の數例には下腿或は足背より穿刺により浮腫液を採取し全試験を試みたり

斯くて十六例に就て試験を施し其所見を總括して曰く、

脚氣疾患の新鮮なる場合即ち増悪する時期或は病の極期に於て其血清は常に摘出せる蛙眼に働き腫孔を散大せしむ重症のものに適當なる時期に試みしものは其反應頗る著明にして五倍の稀釋に於て尙著しき擴大を來し輕症のものには左程著明からざりしと雖も常に陽性の成績を示せり而して其作用は已に五乃至二十五分の中に現はれ最も遅きものも四十五分間にして明に擴大を示し更に漸次増大し一乃至三時間にて各の場合に於ける最大の擴大に達し腫孔の長徑のみならず其横徑の擴大を來し著しき場合には殆ど腫孔の最大擴大を示して圓形をなし唯小許の虹彩膜縁を残すのみあり。

此反應は疾患の恢復時には皆陰性にして増悪時に於て血液中に出現する特異物質が其恢復期に消失するあるべし」と述べ尙浮腫液を以て同検査を試

みて凡て陽性の成績を得而も常に其反應は頗る著明にして全時に採取せる血液よりも遙に強盛あり」と

次に此血清及び浮腫液に因る腫孔散大作用は何に起因するかに就て論じ其「アドレナリン」なる事に歸結せり

尙ほ如何にして脚氣の場合に血液中に「アドレナリン」が増量し或は少くとも血清にして蛙眼反應を呈せしむるに至るかの問題を解決せんが爲め次の場合を考へたり

一、此物質は則ち脚氣毒或は其變生にして黴菌或は毒物の作用により産出せらる

二、脚氣毒は全く別物あるも此によりて起されたる病變により間接に生ず

(A) 腸内に於ける腐敗作用により此に産出す

(B) 「クロマフイネ」物質の機能充進増殖によりて多量に「アドレナリン」を産す

(a) 脚氣毒直接の刺激に因て

(b) 腎臓炎及びバセドウ氏病の場合に考へられしが如く腎臓或は他の臓器の變化により間接に來る

(C) 脚氣毒の作用に直接代償的増殖す

三、通常の如く産出し血液中に輸送せらるる「アドレナリン」が其排出或は組織内に於ける結合不十分なる爲に血液中に推積す

四、血液中の「アドレナリン」は増量せざるも其反對作用を呈する或物質の分泌不充分なる爲蛙眼反應を呈するに至る

此等の場合の何れに屬するかを決定するには尙研究を要するも述者は前假說第二(A)の場合を理由を以て否定せり。

此報告前二日陸軍一等軍醫正保利博士より左の書狀を寄せられたり

(前畧) 御承知の通り脚氣と眼病の關係に就て病理解剖的所見を發表せるは本邦に於ては小生を以て初めと致候得は爾來眼科眼を以て脚氣を觀察すると今日に至る迄て怠たらず特に「アドレナリン」發見以來は一層注意を加へ終に脚氣は或は毒物作用の爲め腎及副腎間の調節機能に變調を起せると歸因する者には非ざるかとの一の Hypothesis を立て即ち脚氣を起さしむる本体は米毒と菌毒には關せず体内に於て先づ腎臓を侵し其細胞に働て其調節機能に變調を起し副腎の作用就中「アドレナリン」作用の過剰に由り末梢血管特に動脈系の痙攣を起さしむる者には非ざるか換言すれば脚氣毒は一種の腎毒 Nephrotoxin には非ざるかとの想像を立て廿七八年戦役に當り小生は澁谷分院長たりし好機を利用し脚氣が若し「アドレナリン」の過剰發生に因る者ならば必ず脚氣尿には其反應現はるべしと考へ脚氣尿を結膜に點眼し貧血を起すとあらば我が目的達せりとなし結膜に點眼致候處其成績は終に陰性に歸し當時大に失望仕候得共是れば畢竟尿中に排出せらるる「アドレナリン」の分量餘りに少量ある爲さ思意致候然れ共小生は脚氣の病理を解釋するには山極博士の血管收縮説を以て真理あらんと信じ居候故此問題に就ては爾來研究を廢せず目下は米食にて斃死せる數個雞の腎臓を摘出し又脚氣屍の腎及副腎を蒐集し寸暇の生する時を俟て鏡檢に着手せんさ準備致居候次第に候當時澁谷分院にて内科擔任者北村精造君及島國君其他の軍醫諸君には小生の此意見を屢々相洩候故記憶致され候事と存候固より一の相像說に候得共未だ公表は不致候得共今春の第一回軍醫學會上長官學生には中心暗點症講演の好機を利用して脚氣は腎毒に因り發生するならんかとの前記相像説を豫報筆記せしめたる次第に御座候小生が何故に腎毒あらんと想像したるか其動機は全く先年高峰博士が始めて「アドレナリン」を輸入して小生に批評を乞はる時にして一萬倍以上の稀薄液にても直に著しく結膜を貧血ならしむるの強血管收縮力を有する「アドレナリン」が平素吾人の体内に

て如何にして其作用をふさぐかの疑念を起したる次第に御座候隨て種々臟器毒物學に就て調査候處副腎中には血管收縮力を有する者と反對に血管擴張力を有する者の二種存在するを知り候甲は「アドレナリン」あると明ふれども乙は未だ具體的に藥品として發見せられず因て愚考するに此甲乙二種の毒物は腎臟中にも存在すべく只副腎には甲の發生に富み腎には乙の發生に富みたるには非るか此二者常に相調節して所謂相償機能を發起する者には無之か故に一朝或る障害に依り此の相償機能を失する時は忽ち病的の症候を呈するに非るか Addison 病は特に甲種毒物の滅失したるとき脚氣の如きは特に乙種毒物の滅失したるとき或は兩者の中 Addison 病には乙種の過剰あるとき脚氣には甲種の過剰ある時に現るゝ者には非るか御承知の通り網膜と腎臟とは特異密接の相互的關係を有する者にして同一の原因に依り多くは兩者同時に發病する者にして小生は是れ迄脚氣患者に就て實驗したる所に由れば脚氣弱視、一時性圓心性視野狹窄症、中心暗点症及網膜出血等にして其他は眼筋麻痺等に有之候此の中心暗点症は他の中毒にも多く來る者にして特に藥物性腎毒中にては鉛中毒に於て腎臟及眼に同時發病するのみならず其慢性鉛中毒の者に見る筋肉瘠瘦の状態及浮腫の状態等脚氣の症狀に類似したる点少ふしとす Levaditi 氏が鼠に注射して腎及網膜に發點せしめたる Vinyamin 及び Best 氏に兔に注射して同じ著明の腎及網膜に發點を促したる Phloridisin は皆固有の腎毒にして皆化學的毒物にして体内に入り直接腎臟及網膜の細胞に働きて固有の眞症を發せしむる者なれば脚氣も亦た化學的毒物として体内に入り腎に働く者には非るか米毒或は黴菌先づ米に働いて米の性質を變せしめて始めて脚氣毒を製するが其邊の關係は未だ不明にして斷案を下すと克はずとすも兎に角此の不明の脚氣毒吾人の体内に入れば先づ腎臟細胞に働きて前記の相償機能を妨害し副腎の機能を偏強ふらしむる爲に末梢動脈の痙攣收縮を起さしめ終に脚

氣の症候を發現せしむる者に非るか此存候腎臟と眼との關係に就ては特に腎臟毒が網膜に特異性固有の作用を呈するとの研究近時報告せられたり(下略)敬具  
(井村勇作抄)

### ●「スピロヘーテ、バルリダ」ノ分離培養試験

ゲー、アルハイム述 (Dermatol. Centralblatt, 1909, No. 10)

從來既に「スピロヘーテ」の培養を企てたるものあきにあらず。即ちレヴァチー氏も後天黴毒より得たるものを「コロジウム」に發容れて家兎の腹内に入れ、後「スピロヘーテ」の増殖を認めたりと云ふは有名なる事實あるも、其後他に之を確證したる者なし。又形態上本「スピロヘーテ」と異なるべき口腔「スピロヘーテ」の培養に成致したるミューレンス氏も、同じく本「スピロヘーテ」を培養せむと試みて失敗したり。著者先天黴毒及び後天黴毒を用ひて本培養試験を遂げたるも不成功に終り、時には人血をも加へ殆ど嫌氣的に處置したるも、些も陽性の成績を擧ぐることはざりき。されば著者は未だ「スピロヘーテ」の孤立したる「コロニー」を認めたることなきも、只彼のシヤウザン、ホッフマンの兩氏が認めたりと云ふ「スピロヘーテ」は新鮮なる血液含有の培養基中には永く生息するものなり」との事實は之を證明することを得たり

然るに最近シェレウスキー氏は該「スピロヘーテ」の一新培養法を報告し (Deutsche med. Wochenschr 1909, No. 19) 黴毒より得たる「スピロヘーテ、バルリダ」を増殖せしむることを得たりと云ふ。即ち同氏は黴毒性丘疹及び膀胱腫の小片を自家創製の馬血清に培養し、三乃至六日の後「スピロヘ

「テ」の増殖せることを認めたり、而て第一「ゲチラチオン」より第二「ゲチラチオン」(同質の培養基)に移したるものに於ても陽性の結果を得たり、されど本培養法も未だ純培養と云ふべからず、蓋し最初の材料は常に爾他の細菌と相混在するが故なり

著者は該シエレセウスキー氏の方法を再試し其材料として先天黴毒の二例及び後天黴毒の八例(主に「コンザローム」を使用したり

然るに其先天黴毒(早くも死後二十四時間後に得たるもの)の例は悉く失敗に歸したり、而して著者が多數の患者に於ては其臓器殊に肝臓に於て「レツヂチー」氏染色法により多數の「スピロヘーテ」を發見したるに拘らず、少年の先天黴毒に於ては其暗視野に「スピロヘーテ」の存在を證明し能はざるこゝざありさす、故に外見上「スピロヘーテ」は屍體に於ては速に其生活を失ふものにして、本研究には生活したる胎兒の黴毒を用ひざるべからざるこゝざ想見するに難からず

シエレセウスキー氏の方法によりて培養したる後天黴毒の八例に於ては只二例のみ其暗視野及び染色標本に於て「スピロヘーテ」を證明し得たるが、其一例は中等度に第二例は頗る多量に存在するを認めたり、即ち「スピロヘーテ」は暗視野に於ては初め弱く運動せし、終に彼の新鮮なる黴毒分泌物より得たるが如き現著ある鞭狀運動を呈せざりき、されば十日の後に至りては該運動は暗視野に於てツァイス氏の大放出顕微鏡(Grosse Zeiss'sche Projektionsmikroskop)を用ふるも既に之を證明するこゝざ能はざりき、而して「スピロヘーテ」の数は六乃至八日の間に於て最も多く、爾後順に之を減少せし、十四日の後に於ては尙ほ二三孤立せるものゝ存在するを認め

たす  
培養後八日に於て得たる塗抹標本の視野には一面に多數の「スピロヘーテ」存在し、所々に辨髮狀をなせる部あり、「スピロヘーテ」の形は數々特異の螺旋狀をふし、處によりては強く長味を帯びて殆んど平滑の觀を呈す

る部あり、但し普通の「アリニン」色素に着色せずして煮沸したる「カルホル、フクシン」が最も適當なるが如し

又第一「ゲチラチオン」より同質の培養基に移植したる第二の培養には「スピロヘーテ」の數甚だ少く暗視野及び染色標本共に之を求め後始めて得らるゝ位なりき、故に予は第二「ゲチラチオン」に於ては予が從來認めたるものよりも著く増殖せる事實を證明すること能はざりき、加之此場合に於ては分離培養を行はんが爲め十日間同一温度の下に觀察且つ貯藏し、之を固定培養基に移植したるに其結果不成功に了りたり

由是觀之、後天黴毒の或ものは其「スピロヘーテ」を多量に含有せるものゝ接種によりてシエレセウスキー氏に從て數々多量の「スピロヘーテ」を發見し得るも單にこれのみを以て未だ眞に接種したる「スピロヘーテ」の増殖するものなりや否や、將亦之が眞の「バルリダ」なりや否やを證明するに足らざるを知るべし

先づ該法に於て「スピロヘーテ」は増殖し居れりやと云ふに黴毒の小片を接種したる翌日に於て、自家融解力に由り、或は混在したる腐敗又は蛋白溶解若くは「ペプトン」形成菌に由り肉眼にて見るこゝざ得べき溶解を認むべし、且つ又寒冷時膠樣を呈したる培養基が數日の後多くは全く凝固せることを證明し得べし、加之染色標本に於ては多數の塊其性の么微有機體、肥大したる桿狀菌、連鎖球菌及び球菌等の存在するを見る、蓋し既に予が「レヂチー」氏の染色法によりて證明したるが如く肝臓及び丘疹は多數の「スピロヘーテ」を含有するものあるが故に其内に含まれたる彼の么微有機體は單に接種の際混入したる物質の軟解によりて游離したるものあるを見る、其他尙ほ之を證明すべきは嘗て「スピロヘーテ」の發育甚だ緩慢なるものありし等にして、ミューレンス氏は例へば形態上全く黴毒「スピロヘーテ」と異なるふき口腔の「スピロヘーテ」が九乃至十二日の後始めて固定培養基中に發育し得たるを目撃せり、其他人類の黴毒及び動物に接種したる接種黴毒

が永き潜伏期を有するによりて考ふるに、該「スピロヘーテ」が數日内に速に發育増殖することは、これと相符合せざるを覺ふ

第二の問題、即ち該「スピロヘーテ」が眞に「バルリダ」なりや否やと云ふに、こは其純培養を得ざる間は俄に之を確認すべからず、假令該「スピロヘーテ」が染色し難かりしと云ふも夫は亦他の培養性「スピロヘーテ」に於ても來るものにして、之を形態學上より見るも吾人の染色し得たるものは廻轉の尖銳を缺き、世の非難を防ぐに足らず蓋し該「スピロヘーテ」は似而非特異性の「スピロヘーテ」なるべし、實際ミューレンス及びハルトマン氏等の報告したる培養性「スピロヘーテ」も頗る多數の變種を有するものにして中には天然の「スピロヘーテ」を毫も區別し能はざる形を有するものあり、而も予は彼の健康體の包皮分泌物より來れる「スピロヘーテ」、レフリング「スピロヘーテ」と思はず

要之、以上の檢案によりて予はシェレセウスキー氏の報告したる方法は未だ全く明確なるものにあらずして彼の「スピロヘーテ」の培養殊に其純培養を得る迄には尙ほ幾多精微の研究を要するものなりと曰はざるべからずと信ず

### ●組織に中存スル「トラホーム」小體ノ證明

獨乙醫事週報

ハンスヘルツォーグ

トラホーム小體は千九百〇七年プロワテエック、ハルベルステッテル、グレーフ諸氏が之れを「トラホーム」に犯されたる結膜上皮中に發見せる以來多數の學者により種々の方法を以て研究せられつゝあり然れども現今に至る迄は皆結膜よりの塗抹標本に於てのみ研究せられ未だ之れを組織中に證

明せられたるを聞かず而して又其染色法も從來は新舊ギームザ氏法によるを最も佳なりとせしに近時ベンダア、ハイデン二氏の研究によりて「アイゼンヘマトキシリン」液を用ふるべきは一層明瞭に檢査するを得るに至れり（約者曰ギームザ氏法による塗抹標本染色法は本誌第七十九號に記載しあり参照せられたし）余が今回發見せる組織中の「トラーム」小體認識法も亦「アイゼンヘマトキシリン」液を用ふ

#### 檢査方法

- (1)「トラホーム」に犯されたる結膜組織（結膜下組織も同時に取るべし）の小部分を取り之れを三%の溫昇永水に入れて一時間放置す此際昇永水中に三%の割に氷醋酸を加し且つ三十七度の溫に保つを要す
- (2)一時間後に取り出して水洗す
- (3)水洗せる組織片を稀釋酒精より漸次濃厚なるものに移す而して此間約一時間
- (4)酒精中より出して沃度加里水酒精中に入る此際沃度の含有量は餘り濃厚あらざるを可とす
- (5)一二分の後に之れを無水酒精中に入れて沃度を洗除す
- (6)洗除後清淨なる「アニリン」油中に入れ數回「アニリン」油を交換して全く「アニリン」油の混濁を來たさざるを度とす
- (7)次で「キシロール」中に入れ數回交換して一時間此中に浸置す
- (8)一時間を経過せば之れを軟「パラフィン」中に入れ一時間半放置す
- (9)次に硬「パラフィン」の溶液中に入れて靜に保つ時は一時間後には凝固す
- (10)次で法に従ふて木頭に著けて切片を作る此切片は五「ミクロン」を越ゆべからず
- (11)切片を倍量に稀釋せるウアイケルト氏「ヘマトキシリン」液中に入れ二三日間放置すべし
- (12)次で法に従て硝子標本とす

鏡見上の處見

小體は黑色にして顆粒狀をふし箇々なるあり又二箇宛連結して重液體狀を呈するものあり其所在は或は細胞中に存在するあり又は細胞外に存するものあり然れども其何れに存するにもせよ常に多數群簇し且組織の何れの層にも存在す(約者曰鏡見上の附圖あれども略す)

本法の他の染色法に優越せるは

(1)上皮細胞核の「クロマチンゲリマスト」は著しく「ヘマトキシリン」に著色し一見小體と區別し得

(2)核の碎片等の小體と疑はしきものは全然前記の點に於て區別を誤らず

(3)他の物質は「ヘマトキシリン」色を表はせざるも小體は黑色を呈す

(4)組織中處々に存在する「ポリプラスチック」の核をも嚴正に識別し得以上組織中に於ける小體の證明法に止め他の研究は後日に譲る

\* \* \* \* \*

# 學會

## ○金澤醫學會第四例會

去十二月十日午後第三時より本校舊内科教室に於て同會第四例會を開催せり會する者陸軍、開業醫側、學校、病院等約五十名の多數に及び定刻を過る事約二十分高安會長開會の辭を述べ漸時左記の講演ありぬ今大畧を左に錄せむ。

一、瀰漫性食道大擴の一例

藤井晋一 耶君

最近獨逸醫事週報にありし一報告に就き先づ症候を概論し一般の觀念を盡起し次でミュンヘンのマイエル氏の報告を詳譯紹介せらる。

二、一二の患者供覽

宮田篤 耶君

第一患者は四十九歳の農夫にして已往に淋疾及び梅毒を患ひ素人治療又は醫治により快方に向ひしが本年十一月頃荷車を引き殊に左足に力を入れたるに疲勞の感あり突然左膝關節部腫脹し其後力業に従事すると能はず歩行困難となり温泉にて一時輕快せしも再發し入院當時迄大差なし。現症、体格營養中等左下肢腫脹殊に左膝關節は球狀に腫脹し皮膚に變化なく靜脈は怒脹す爾診せは熱燭感軟泥樣硬度を呈せり是滑液膜の腫脹に基因し波動は著明にて膝蓋骨は舞踏し同骨及大腿骨は膨大す疼痛壓痛なく運動は自動他動共障礙ふし然し著明の軌轢音を觸る太さは膝蓋骨中央にて左四二cm右三二cmあり。

診斷、初め畸形性關節炎に漿液性炎の合併を考へしも不解の點あり檢せしに膝蓋腱反射消失し腫孔小きあり殊に右方著しく光線反射強直し智覺は觸痛痛神部位神には大差なきも溫感に障礙ありロンベルグ症候著明にして「アタキシ」はふし仍て脊髄癆と診斷せり。斯く脊髄癆性關節炎はシャルコー氏始めて記載し脊髓后索の灰白變性による營養障礙に基くものとさふせり然れどもウヰルヒョー フホルグマン氏は畸形性關節炎の一ありとし智覺脫失に基き患者の過動的使用によるものと稱せりライデン氏は骨及關節の營養神經が血管を反射性に支配して營養を司るものなり然るに同神經の癱痺により其調節不能となり骨、關節の萎縮、崩壞を來し一方肥大を起すありと、チールマン氏は智覺脫失の外に外傷及筋炎が一大近因をふすと主張せり本例の如きは則ち其一例と見て可なり亦患側大腿骨下端は膨隆し瘰骨上端は后方半脫臼狀を呈すとてX光線寫眞種板をも供覽せられたり

第二患者 廿二才の農夫。十二才の時脛骨の急性傳染性骨膜骨髓炎を發し



其後右下顎關節に炎症を續發し次で牙關緊急を招きたり斯かる牙關緊急の著明にして果して左右側何れの下顎關節に強直あるを知るゝ大に困難かり成書によれば外觀的に萎縮ある下顎關節側に病源あるを通則とすと記載するもの多し依て全氏は先年斯る症を経験し其萎縮せる下顎關節を開きしに全く變狀なくして他側の萎縮を呈せざる下顎關節に却て骨性癒着あるを見たり此先例あるたる外本例には右側の下顎關節に往時疾患ありたりとの既往症により左側下顎關節が却て萎縮するにも拘らず右側の下顎關節を開きしに果して骨性癒着あるを見たり依て此部を切除せんと試みしも手術困難ありしにより他部に假關節を作りて手術を終りたり故に牙關緊急ありて患部が何れの側にあるや不明ある時は其外觀的萎縮もき下顎關節部を手術すべし

三、貧血病診斷に就ての患者及標本の供覽

佐々木 達君

第一患者供覽。四十四歳の農夫にして遺傳を認めず、已往症、性來他全十四歳の時「マラリヤ」、に十五才の折下痢病「チフス」に罹り二十年前横痃に七八年前痔瘻を病み疼痛下血十五年來胃部膨滿食思不振感あり一ヶ月前軀虫せしとありと。現在已往症、一ヶ月前より倦怠感動作不能心悸亢振腰痛耳鳴眩暈あり局所的には心窩部に持續的刺痛あり食后停滯、噯氣、食思不振二三ヶ月前より下肢より顔面に浮腫來り同時に下痢を發す。主訴、貧血、胃腸症候浮腫とす。現症、体格可畏榮養不良皮膚は汚芥黃色全身浮腫あり入院時は腹水ありて今尙存す殊に注意すべきは口唇粘膜と皮膚貧血と大差あき事にして眼底亦「ブラス」あり、胸部は變化なく腹部膨大腹水あり胃下界は臍上三指徑に止まり脾、肝は觸れず胃腸の「アトニー」、下肢の浮腫脱肛あり檢便上虫卵なく粘液便あり、胃の内容容検査上、乳酸存在し鹽酸は約五分一に減退せり尿は蛋白少量存在せり、要するに患者は貧血なり然して貧血の原因は出血、血液毒、榮養不良殊に胃腸病によりて來り則檢血上、

一、血液性狀に變化なく血量全体の減少により。

二、血液性狀に變化あるもの

則前者は結核の如きものに見るべく一見蒼白色を呈し后者は汚芥黃色を呈す此を二分し、白血球に變化あるものと赤血球の變化あるものとし后者を三分とす、

一、血球數に變化あきも「ヘモグロビン」の含量少あき者(萎黃病)。二、「ヘモビグロン」に變化あきも血球の減少する者(續發貧血) 三、赤血球數あるも血色素は之差あきもの(惡性貧血)とす。以上の理により檢するも絕對的と云ふべからず赤血球の形態的變化則大小赤血球、變形球、變色赤血球、有核赤血球、有核大赤血球を証明せば惡性貧血として可あるも時機問題にして同時に現出し來るものに非ず本患者の如きは變形球多きも有核細胞を認めず要するに惡性貧血の原因は學說一致せず或は腸腺萎縮ありとし或は胃腺萎縮なりとするも果して原發的腺萎縮あるや不明あり、近來血液毒素

說盛大とあり毒則「リポイド」の如きものによりて血球破壊し骨中の血液成形作用を害するによると云ふも同貧血は他に原因あるべからず彼の十數年前瑞西の一會社が鑿道作業中數多の同病者を發生し傳染病と思考せじも十二指腸虫の驅除により全治せり唯に本虫のみならず條虫、蛔虫、蟯虫すら本病を起す事は事實ありさて順次患者を供覽し同時に數多の血液標本をも鏡見し胃腸結核赤痢痔出血等にも同病狀を來たす事を明示し結局惡性貧血は重症の續發貧血と見て研究せば可あり現に本患者の如きは胃液性狀胃痛より胃腸の如く加ふるに痔出血、寄生虫(已往症により)の合併に基きしものからん何れ治療の結果を得て再び告ぐべし治療も症候的からず原因のなるべきは醫師たるもの、最大急務と云ふ可し。

四、暗視野照輝裝置の供覽

高岡 榮君

氏は軍醫學校在學中特に本裝置を研究し其裝置を實際に供覽せらる、本器は近來「ミクロオルガニズメン」を生活の儘鏡見するに便にして殊に「スピロヘーテパリダ」の如きに便なり從來の法は困難あるも暗視野照輝法によ

れば好成績ありと昨年ブツカー氏が唱道しジデントツプ氏が初て使用せり此法による時は螺旋菌は能く見るを得べくブツカーの報告によれば「スベロヘーテ、バルリダー」は形は擴大し廻旋數ハ二〇を見兩端は尖にして運動の弱きものは廻旋運動除にして其巾の狹廣を明視し運動固有にして伸張活潑に廻旋運動振子様鞭達機時に直角に曲屈す他の「スピルレン」様に運動は止まず純白に見ゆ。即本器は横光線を使用せるものにて普通の「コンデシヨール」を代へれば可なり(使用は戴物硝子と「レンズ」間を油浸し接物鏡は乾燥装置を用ひ接眼鏡は擴大の大あるもの便利にて光源は百五十燭光位を良とし其より十五仙に保護球(水、硫酸銅液入)を置き更に十五仙を経て顯微鏡を裝置す反射鏡は平面を用ゆ。斯くして「スピルレン、デントリース」を供覽せらる」

斯くして時將に六時三十分米村吉太郎氏立ちて餘の演題を次回に譲る旨を告げ次で飯森氏は前回の報告に付き左の如く述べられたり

#### 五、放線狀菌患者の其後の経過

飯森益太郎氏

前回放線狀菌病者の手術后輕快せしも再び瘻孔を残し切開せるに一臭物を發見熱視せるに刺入せる大麥穗にして食鹽水にて洗除せるに菌球を見たり仍て鏡上供覽すべしと。

最後に米村氏再び陸軍側委員三木正豫備役さかり原醫正委員となられし由を告げ散會せり會員は思ひ／＼に顯微鏡其他の裝置を熱覽し或は談話に時を移し各自暗路歸宅に就きたり。(文責は記者にあり。福田記)

### ○東京醫學會 (十月二十日)

#### ▲脚氣屍に於ける副腎の研究 長與又郎

演者は脚氣屍の副腎を検せるに、著明の腫脹を呈せり、而して此の腫脹は原發性さ斷すべきものにして脚氣はこの腫脹せる副腎より「アドレナリン」

を遊離せしめ、この「アドレナリン」が血行に入り末梢神經を痙攣せしむるありと結論したり。

#### ▲討論 醫學博士 青山胤通

全氏は島國氏の演說(抄録欄にあり)中症狀に「アドレナリン」様物質の量と併行するとの一句に對し討論して曰く、臨床上の所見に於ては必ずしも然らず、其の末期に在りても尙ほ血管の痙攣著きあることあり。

#### ▲追加 田中達三郎

田中氏は脚氣患者には鼻内の手術は施すべからず多數例の實驗に於て、手術後出血甚しく容易に止血せざるを以てありこの禁忌を犯して、數例の患者に鼻内手術を行ひしに、意外にも上記の如き危險なきのみならず、他の非脚氣患者よりも止血容易なるを實驗したり、これを以て見れば今前席の諸氏の述べられたるが如く、脚氣患者の血液中には「アドレナリン」存在し以て出血を止むるにあらざるかと述べ島國、長與二氏の說に左担せり。

### ○大阪醫學會

#### ▲血中に送りたる結核菌の運命

石井徹顯

演者は(一)吾人の日常認めて以て原發性肺結核とあす者は、必らずしも肺の原發性感染に基因する者にあらずして、扁桃腺又は腸に感染の門を開きたる結核菌が、進んで血中に入り、全身を循環し、其適せざる臓器に於ては滅殺せられ、適する臓器に於て繁殖し、以て肺に原發病變を發するものにはあらざるか。

(二)結核は臨牀的意氣に於て、果して本來の局處疾患たるか、或は近來の

報告の如く全身粒粟結核以外の場合に於ても、結核菌は血中に増殖し得べきものにして、一の「バクテリエミー」と認むべき疾患なるか。

(三)結核免疫血清の効價の完全を期するが爲めに、生結核菌を以て免疫するに際し、血中に於ける生結核菌の運命如何等の問題を捉ひ、これが解決に資せんとして、五十頭の家兎、三百七十四頭の「モルモット」に就きて之が精細なる試験を行ひ、左の結論を下せり

(一)血中に於て結核菌は、其増殖を認めざるのみならず其運命甚だ短し

(二)故に結核は本來の局處疾患と認むべきものにして「バクテリエミー」と認むべきものにあらず

(三)生結核菌を以て免疫疫を企つることも、其血清の應用は危險ふき者と見て可あり

(四)血中に送られたる結核菌は好んで、肺、肝、脾、骨髓に占居するものに似たり

(五)腦に於ては、結核菌は其運命甚だ一定せず

(六)血中に送られたる結核菌が腎臓に證明せらるゝには、比較的長時間を要す、然れども其持續は長時に亘る

(七)假令腎臓に多數の菌の證明せらるゝとも、尿中に排泄せらるゝ事は、比較的稀あるが如し

(八)結核菌を滅殺する臓器は、尙ほ精細の實驗を行ふにあらざれば確定し難し

## ○北越醫學會秋季總會

北越醫學會にては、去十月十七日、午前九時より、新潟市役所にて秋季總會を開きたるが定刻に至り、池原會頭開會の辭を述べ、次で左記の演説ありたり

(學會)

一、胃癌ノ手術的療法及び其豫後並ニ適應症

醫學博士 富田忠太郎

一、傳染性ヲ有スル脊椎側彎症

鈴木鑄一郎

一、新刑法ニ於ケル醫師ノ位置

廣田基

一、拔牙術ニ於ケル危險ハ如何ニシテ避クベキガ

鍋谷傳次郎

一、恙蟲病ニ就テ赤蟲母蟲並ニ「ヒポフアリ

林直助

レキス」標本供覽

一、腸「チーフス」病理解剖ト早期診斷ノ必要ニ就テ

須田義彰

一、漿液性纖維肋膜炎ノ自家血清療法ニ就テ

澤邊謙正

一、氣管竇ニ食道鏡供覽

一、所謂小兒上顎竇「エンピエーム」一例

黑岩福三郎

一、鼻腔「アンギオーム」ノ一例「アダマンチノーム」ニ就テ

前田待三

一、「一二」ノ「デモストンラチオン」

長谷川一詮

一、「デアツオ」反應ニ優ル「ソチール」青反應

鏡淵九六郎

一、菌中毒ノ臨牀的症狀及び倉鹽水注入ノ價值

長井千尋

一、慢性胃加答兒症ノ胃痛ニ就テ

右終てより行形亭に於て懇親會を開きたり、因に次會は、佐渡郡にて開會の筈なりとぞ

## ○第十一回萬國眼科會學の記

(續) 在獨逸 田上清貞

ネアペル市長主催の夜會

ミュニツプ街の「ナポリホテル」に於て、四月二日夜九時半より開かれた。

會員が續々増集し、此處にも亦階上階下に兵士や憲兵が配布されてある。二階大廣間の入口には竹又は熱帶産の樹木を植た大きな植木鉢が飾られてある。ナポレオンの再生かと思はる、緋羅紗の洋服を着しナポレオン帽をかむり金「モール」の肩章に大授章の「バンド」の如きものを肩より斜めにかけて居る金色燦爛めしき下僕が十數名居て案内した大廣間が、三つ四つあけ放しに連らふつて居る美しき絨氈が敷き詰められて大理石や鍍金の像が所々においてある。壁には立派な油絵が掲げられてある。彼れ是れする間に會員が充ちた。重なるものはアキセンフェルド、ランドール、ラツペルソーン、ヘス、アンジェルト、等二百三名もあつたらう。あちこちの室隅には二三の椅子や安樂椅子があるのみで卓子の如きものは一も無い。あちこちに一群こちらに一塊、或はあちこちと室内を練り廻はして歩くものもあつたが多くは「フロック」又は燕尾服の中には一二背廣のものもあつた。反之會員の令夫人數十名は、窈窕たる美貌と雪の如き皮膚をあらはし裾長くひける華麗な夜會服を着して意氣揚々有髯男子を睥睨し歩くあり。或は其の良人の手にもたれて得意の風をなせるあり、或は知己と談ずるあり、中にも伊國婦人の癖好たる實に吾人の意を得たりだ。衆皆な舊知と快談し或は新知と握手して懇談するあり、中にも吾等日本人の故國より遙々列席せしものと思ひてか堅く握手して言を交へるものもあつた。獨語あり佛語あり英語伊語西語實にさまざまにして或は學術上の胸襟を開くものあり水尾君が昨年ハイデルベルヒの眼科學會にて別懇にふれるアキセンフェルド博士との間は親しげに談それよりそれと進んだ、水尾君曰く、貴著眼科細菌學中に「ベスト」眼炎につきての記載を見ませぬ世に未だ其の研究に指を染めしものがないやうですが、吾れ幸ひにして今回此の標本を持參せしゆに先生の御高評を仰ぎたいと、先生は此は非常に興味ある問題である予は未だ「ベスト」眼につき研究せし事はない。乞ふ特に君の演説に先き立ちて予に供覽説明あれと、日本に於ける眼科界新進の士と

獨逸眼科泰斗との學術の熱心なるに居並べる諸士をして感ぜしめしやに見受けられた。中庭には伊國兵の中堅と名ある狙撃歩兵の軍樂隊が劉朗たる音楽を奏してゐる。さすがは本場の伊太利、其の清らかなる美音は會員をして一層氣韻々たらしめたのである。

一時間計りにして例の嚴めしきナポレオン先生をして「アイスクリーム」一杯の清水を皆に與へられたのはなる程會員等が談笑に湯を訴ふるを想ふたる主催者市長の注意は周到だに實に感心した、座すべき椅子なく、置くべき卓子なく、皆ふ立ち乍ら氷を味ひ水を飲み席は益々賑ふた、いつ正式に市長が挨拶するのだらふ、いつ正式の會場に行くのであると、考へ居し間もふく十一時になると各々會員が歸途についた、予はヘス先生と共に階を下り屋外に出で別れて宿についた。

翌朝のネアペル新聞には

昨夜市長主催の萬國眼科學會々員招待會は無量數百名定期前に至り市長の丁寧ある挨拶ありのち有名なる珈琲ミイタリアノに特に注文せし葡萄酒「シャンパン」の饗をなし頗る盛會なりし由

この記載があつたのは一寸面白い予等は伊國旅行中至る所有名ある赤葡萄酒即ち「キャンチ」を味へしが今此の席にて清水の「シャンパン」を味ひたるの如何に伊太利式なるかを想はれた

伊國皇帝の御返電

四月三日午前八時半開會、長會アンジェルトは拍手壇場に立ちて曰く、昨日の會の決議により皇帝陛下の本會に盡されたる御禮の發電をふせしに直ちに御返電に接したり

皇帝は本會の名にて至されたる鄭重なる挨拶を深く嘉納す

この事であつた

開會期中の委員

それよりバンゼン氏は左の委員の姓名を朗讀した

第一部 委員

アンジェルトツチ(伊國)

マツク(英國)

メナコー(西班牙)

スタイネル(英國)

ハルン(瑞西)

エロニスバシヤ(土耳其)

第二部 委員

デウフオル(瑞)

ジエソツプ(英)

ギア(土耳其)

アキセンフエルト(獨)

ド、マルク(西班牙)

宿題調査の結果

上記開會中の委員を擧ぐるや、千九百四年に於ける第拾回萬國眼科學會の宿題たる左の二問の結果を報告した。

1、視力表を制定し共通にするこゝ

2、亂視の經緯の數へ方を萬國共通にするこゝ

此の當時委員に擧げられたるは

委員長 ヘス(獨逸)

委員 シヤルバンチエ

ニウエル ライモンド

第一萬國共通視力表制定報告

デインメル(埃國) ホーソツプ(英國)

クリプス(露國)

ランルゼーン(佛國)

シヨルツウ(ンガルン)

名を逸す(米國)

マツク、カラン(埃及)

ザットレル(獨逸)

ルリール(佛國)

ホール(匈牙利)

ザツクス(埃國)

コツベル(伯利義)

調節機屈折機の大家として有名なる獨逸ウエルツブルグ大學のヘス教授が委員長となり主として視力表につき制定の任に當りて調査せしを以て、同博士は委員を代表し報告せしに滿場一致を以て可決せり。

此の視力表はランドル氏環狀記號と、「あらびや」數字を用ゐしものにて左の如し。(裏面にあり)

此の視力表の特徴

(イ) 主として實地醫家が視力の検査殊に適當なる矯正「レンズ」を定むる際に實地に便宜なるべきを旨とせり。

(ロ) 人々が認めて健全なる視力を單位となせる視力即ち視角一分に於て二つの點を二點として識別し得る視力を此の視力表に於ては單位とせり

(ハ) 視力の強弱の階段は十進法を用ひたるを以て一見して計算し易し。

例(ば從來の二百號即ち六十號の如き表中の最大字畫を〇、一〇、二〇、三〇と順々進んで正常視力即ち「一、〇」に至り更に「一、五、二、〇」の二個を附加せり

(ニ) ランドル環圖を用ゐたるため、文盲の患者も之れを認め又萬國民に向つて共通ならしめんため「アラビヤ」數字を用ひたり

(ホ) 從來の視力表の如く同列に多數の字畫を列記せず只だ表中の右にはランドル環圖あり左には二個の數字あるのみあるを以て容易に一樣に認むるを得例へば從來の視力表にて即ち「六、六」を識別し得るも其の同列中の二三を認め難き場合往々あれども、此の視力表にては此等の弊害を除きたり

(ヘ) 從來は同列中多數記載せるを以て検査に際し右或は左より何番あるやを問ふの必要ありしが此の表にては其の煩雜なし

(ト) 正常視力を有せるものは五迷突の距離を隔て、本表一、〇視力段階のランドル環圖の切れ目及び數字を視認するを得

(チ) 五迷突に検査するゆゑ從來の如く大なる視力検査室を要せず或は四迷突の室にても検査するを得斯かる場合に〇、八を視力階段に記載せる視力價に乘ずればよしされど可成は五迷突の距離にて検査するをよろしとす

0.1	41	○
0.2	74	○
0.3	10	○
0.4	71	○
0.5	47	○
0.6	40	○
0.7	11	○
0.8	17	○
0.9	70	○
1.0	44	○
1.5	14	○
2.0	77	○

(リ) 本表は一、○の視力を記載するも從來の如く分數式にて書き現はさんと欲せば一、○を $\frac{5}{5}$ と認め○、二を $\frac{5}{25}$ と認むるもよし

(ヌ) 検査の際には太陽の光線により適當の光度を得る室内に於て行ふ而して其の光線は眞後方より頭上を越えて視力表を照らす可とす、側方より光線を取らざる事若し太陽の光線により十分ある光度を得ざる場合には人工光線を用ふるを得れども可成之れを避くべし

(ル) 此表は種々ある形狀を以て検査するの便あり

(チ) 本表は從來使用せるものに比して字形又は環圈は小なり即ち一、○視力の階段に於ける數字の大きさは幅一、二長さ六よりある従つて例へばステルン氏視力表の $\frac{20}{20}$ ( $\frac{6}{6}$ )を認め得るもの此の表の一、○を認め難し

要するに從來使用せし種々の視力表に比して便利にして確かなる視力を檢定するを得べし殊に本會に於て萬國共通すべく決議せし事ゆゑ我が日本の眼科醫も亦之れを使用されん事を勧告す

予は幸ひにして其の委員長たるウエルツアルヒ醫科教授ヘス博士の下にあり日々多數の患者に應用せるを見尚ほ且つ先生の高説を聴き此の視力表の從來のものに比して益々可良なるを信するを以て此れを推選し且つ我が國に於て醜刻致したき旨ヘス先生に語りしに承諾せられ貴國に於ての醜刻は喜ぶと語られたり之を以て予は近々中に日本に於て醜刻出版せしめ此れを更に又先生の檢定と恩師河本博士の檢閱を経て日本眼科醫各位の使用に供せやうと思ふ

第二 亂視の徑線の數へ方を萬國共通にする事

人の知る如く亂視徑線の數へ方は從來種々にして一致して居ない即ち横徑線を零度に基算し其の上下に數へる法もあり又左右相對的に横徑線上に零度を取れるものあり或は左眼にては内端を零度とし右眼にては外端を零度とせるあり尙ほ甚しきは縱徑線を零度として計れるものもある實に千差萬別大なる不便を感じてゐたのである

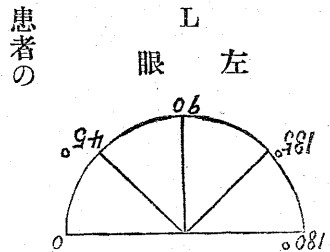
之れが爲めに第十回萬國眼科學會に此を萬國共通的に記號すべく委員に附せられ今回其の結果を第十一回萬國眼科學會四月三日の席上に於て英國のジェソツ博士より報告され

滿場一致を以て可決せられたのである其の主要點は左の如し

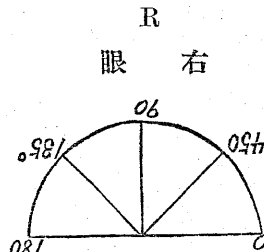
- 1 亂視の徑線は被檢者に向つて對座せる檢者より見た所から始むる例へば一亂視徑線の右下或は右上にむける言ふ事は被檢者の右下あるか檢者の右下あるか不明なりしを檢者即ち醫士より見たる所を以て右下又は右上と名づく

2 亂視徑線の零度確定

亂視の軸を計測し及び記載せんとするは上に示せる圖の如く下半圓即ち上部に向へる半月形を用ふ而して此の軸の鼻側を零度とし顛側側の赤色端を百八十度として記號する



患者の



眼 右

3 本表は兩眼徑線の測り方は相對的あるゆへ多くの亂視に見る如く亂視軸が全く相對的ある場合には兩眼何度と各箇に記號するの煩あるし  
ランドル氏は附言すらく亂視記號の記載と同時に圖を必ず附する事にしたら良いと衆皆が賛成したりき

カブリ島の岩窟舟覽

四月四日は日曜で會の講演はふく本會よりの招待で埠頭より蒸汽船に乗じてカブリ島の岩窟を見物するのであつたが朝より浪荒かつた爲めに予等は行かなかつた、見物せし人の話に依れば風光甚だ美ありしも船暈を起せしものもあつたらうだ

助教授アダリオ氏の對話

ネアペル大學眼科教室を縱覽中廊下で村役場書記然とした甚だ風采のあがらぬしも自負心の極めて強い人に會ふた此れを助教授アダリオ氏であつた彼は言ひぬ諸君は何せ本日カブリ島の見物に行かざりしや吾等伊太利の會員が一枚の金圓をかけたのにささも不平らしく見はたそれでは幾何の金圓をかけたしやと問へば彼答ふ千「リール」なりと、千「リール」即ち我が四百圓に過ず彼等の之れを口にするは下劣の心底見えて淺間しく覺ぬ若し吾々日本人ありせばおきにも出さぬものを彼れ尙曰く河本教授が列席せしやと否と答ふれば彼れ更に語を續けらく、河本の「パンヌス」につきての論文を獨逸眼科月報にて讀みしに予の伊太利眼科雜誌に載せたる「リテラツール」の記載ふかりしは物足らぬ心地せりと機敏ある水尾君は

言ひぬ貴君は日本の原著を讀みし事ありや、彼れ答ふ、否ふと水尾君は日本の原著を君の讀まざるが如く我々も亦伊太利の原著を讀み或は記載するの必要なしと鋭く一矢を發せしに彼れは苦笑した

眼科機械陳列所

は眼科「クリニク」内にあつた、巴里の商人より出品せし醫療器械は獨逸の二三商店より出品せるものに比して優れり、佛國は改良進歩の狀あり、視力檢定器、亂視計器、檢眼鏡等の嶄新あるを始めとし、ランドル博士の考案によれる眼科手術器械などは人目を惹きぬ、英國及び伊國の眼科醫療器械店より出品ありしも注目すべき程の者があかつたが伊國ミラン市の製造所より出品せし立派なる顯微鏡はたゞ日本にて製作し得るに雖未だ是れに及ばざる事遠かるべしと嘆じた

獨逸ウイスバーデン市ミュルレル氏より出品の義眼は多種あり精巧を極めたり病理的眼球の模型は眞に迫り學用として十分なる價值ありと認めた

盲院參觀

予等は特志を以て參觀せしも左程に感ぜし設備もなく幾多盲生の慇懃たるに深く同情を寄せた

講演及び「デモンストラチオン」

講演は午前にして大學本部の講室にて開かれぬ四月五日の講演の際には「タベスト」大學眼科の「グロース」教授座長であつたが昨三日の講演の際には佛國巴里大學の「ラベル」教授が座長にして其の左方には「ランドール」博士あり、ソレより左方には「獨逸のヘス」教授あり、座長の右には「獨逸のアキセンフェルド」など一段高き所に席を占めて居た

「プログラム」に依れば會期中の

講演

九十二題

四十三題

標示説明 三十題

問題は英、佛、獨、羅、典、伊、四、語にて認めありし爲め共通的に之を讀過すると難かりしが今其の重なる者につき大要を述べれば

ランドル博士は自己考案の眼科手術器械の改良につきて述べた其の要點は總ての刀の頸部即ち刀刃より把柄に移行する部を極めて短くせし事である其理由は吾人は微細の操業例へば彫刻又は細字を認めんとする場合に把柄の根部を握る、之れ微細に操業し易きためなり此を以て眼科の如き美術的精巧を要する手術には殊に此の必要ありと述べぬ

ライプチヒ大學の眼科教授「ビルシ」ヒルシフェルドは紫外光線により結膜角膜網膜等の上皮細胞や實質細胞の變化を惹き起すべきを述べ午後又幻燈にて標示した且つ曰く之を防ぐには防光眼鏡裝用の必要あり然らざれば雪盲眼に似たる症狀を起すと

ジャツプ氏は「オイフオスグラス」一種の硝子で十分に紫外光線を防ぐを得と、他の人曰く、紫外光線は左程に危惧するに及ばずと反駁した

スタイチル及びオビオ氏曰く近時紫外光線が餘りに有害視せらるゝの感あり其れ程に恐る可きものあるや否や疑はしと

アキセンフェルド教授は曰く、紫外光線は眼の疲勞し居る場合には充分に防禦するの必要あり此を適宜に防げば疾病の増悪を少くとも延期するを得彼の色素性網膜炎の患者を終日明所に居らしめんか夜盲増悪し反之終日保護眼鏡を裝用せしめば夜盲を左程に増悪せず即ち視力を維持するを得と

伯林大學「グレフ」教授の助手「クラウゼン」氏は「トラホーム」内の「ケルベルヘン」につき語り或は標示して説明せるも世人の想像する程には非ず予等は想ひぬ前途尙ほ朦々漠々たりと

アグリオ氏又「トラホーム、ケルベルヘン」につきて述べたるも得意かりしは獨り先生自身のみ衆皆な耳を貸さざりき、實物を供覽せしめずして單純なる畫圖を以て説明せし事ゆへ「グレフ」氏の説を反駁するに足らざるやの



感ありとの衆評ありき。ライプチヒ大學のゼーフェルト氏は近來眼胎生學の研究を以て頭角を擧げ、伊國羅馬大學眼科教授キリンチヨネルと共に其名高し、同氏は視神經の生理的凹陷を胎生學的に其の標本を以て説明したヴュルツブルグ大學のウェツセル氏は人工的水晶體の「コロボーム」を家兎に起さしめたのを示した其幼兎のチン氏帶の一方を切りおけば其部に相當せる水晶體は萎縮して「コロボーム」を惹起すを述べ進んで先天性水晶體「コロボーム」につき憶説を下した

大阪高等醫學校教諭水尾君は「ベスト」眼の研究につきて述べたり

劈頭まづ青山博士山極博士の「ベスト」に對する研究を述べ學友横田學士の「ベスト」眼に基因し職務に殉死せしを語り進んで大阪の「ベスト」蔓延の状況を述べ轉んじて本論に入り「ベスト」と眼は非常に密接なる關係を有し「ベスト」一般の症候として或は「ベスト」に感染する門戸としても將た又轉移性に來る眼症の多きを以てしても眼科醫の殊に注目研究の價值大にして亦興味ある問題かりとて大阪に於て實驗せし「ベスト」に因る全眼球炎「ベスト」に因る角膜輪狀膿瘍「ベスト」に因る結膜炎の三例を其顯微鏡標本及び畫圖を以て説明し其の研究の結果卓見ある自説を以て「ベスト」眼の病理に斷案を下し從來全く暗黒かりし「ベスト」の研究に一大曙光を輝かしめ世界眼科學大家の賞賛と大なる拍手に迎へられて壇を下れり

其の大意は「ベスト」眼は他の細菌に依る眼炎症と異り「ベスト」菌は眼内の淋巴腔即ち前後房水中のみに非常に多く發育せるを認む換言せば恰も「ベスト」菌を純粹培養せしが如き感あるにも係らず、茲に奇あらば葡萄膜系統を避け硝子體中に唯だ一つの「ベスト」菌も棲息又は繁殖せし事なしとて從來不明かりし硝子膜の作用につきて亦自説を述べられた

眼科の泰斗等は立つて討論を始めぬ

佛國眼科の巨擘ランドル博士は曰く、予は從來硝子膜は細菌を濾過し浸入を防禦するこの憶説を信ぜしを以て、白内障手術に際し後發白内障の發生

を防がんとて、一派の論者の如く硝子膜の切開をふすは危險なりと予は門下生を戒めしに今や水尾教授の説を聞き予の説と一致せるを思ふて満足すを述べられたり。

アキセンフェルト教授は標示せし畫に於て硝子膜の中心に見ゆる圓形細胞の侵潤部に「ベスト」菌の侵入しあらざるやを問ふた水尾教授其の然らざるを答ひ講演後更に鏡下に照して供覽せしめしに博士は其の研究價值の大なるを賞し標本の割受を希望した

伊國の眼科教授ビエツチ氏も亦學術上稀有なるを以て其の標本の分譲を乞ふた昨年ハイデルベル眼科學會に於て水尾教授の講演に際し其の珍奇なる標示につき嘆賞せし米國のブラウ博士は今又同君の講演を終るや拍手百遍更に「ステツキ」を以て床上を打ち足踏みをふして賞賛の意を表し同君の降壇するや否や同君の傍らに進み行きて Wunderbar Gemacht! Herro Kollege! (驚くべき大傑業をふせし予の同僚の君よ!)と述べて堅く握手した蓋し同博士は今米國に住するも元は獨逸生れの人で日本人を尊敬するのである。

眼科教室内に於ける「デモンストラチオン」の状況

獨逸大學の眼科教室は大抵暗室仕掛であるがチアーベルの此の教室は然らざりしゆへ一々窓を密閉するの煩があつた、座席は階段的であく「エピソード」即ち實物幻燈機は新に求めたるもので隣室との壁を切り開き幕を垂れ、これに照影する様にあつて居たが、電力の不充足であつた爲めにか將た又使用法の不慣に因りてか時々鮮明を缺き不快を感じしめた加ふるに會長のアンジエル氏は此標示の際にも前日の講演の時に於けるが如くに席暖まらず時々室を出入して居たが醫員等も亦此れに倣ひて、靜肅を缺き座席を離れし事多かつた。

又標示の講演前後には廊下に數十臺の顯微鏡が並べられてあつた各演者は一々質問者に對し説明をして居た水尾教授の標本の稀有なるため質問者仲

(學會)

々多く其の應答に同君は聲をからして居た  
講演はさきに述べたやうに大學本部の講堂に於て日々午前に開かれたが、標示は大學本部より遠方なる眼科教室内にて午後より開かれた爲めに土地不案内の外人には頗る不便であつた

講演及び標示の問題は頗る多數ありしも僅に其の半を會期中に終ひたばかりだ

會長アンジェラ主催の招待會

四日五日の夜ガレリヤ、ワイクトリヤに於て招待が開かれた此れに集まりしものは會員を始めとして市の高官紳商等仲々の多數であつた入口には例の如くに兵士と憲兵が立つて居た、これに入れば燕尾服を着せる人々等が出て迎ふた多分チアプル眼科醫局の人々であつたらふ

階上には散在性に數百の椅子がある正面に舞臺が設けられ面白げに奏樂をして居た

會員の多くは燕尾服で帶勵せる連中も居た、佛國のランドル博士は胸間に三個の勳章を帶びて居た此は想ふに學術功績の顯著なるを表彰せるものであらふ

居並べる令夫人令嬢等は何れも満腹飾で綺羅を競ふて居た、アンジェチザの令夫人及び其の令嬢は殊に頗る美人であつた伊語或は佛語を以て巧みに愛嬌を振り廻はして居た居並べる人々の間にも樂しげなる談笑ありて席は賑ふた

ランドル博士は曰く廿年前貴國の伊東方成と交誼あり其後又時々予の「クリニク」を尋ねる人ありふと語りて曰く予は日本人を愛するに至れり更に話頭を轉じ日本人の手サキの巧妙あるは予の賞賛せる處にして今回予の改良せし眼科手術刀の好果も巧妙なる日本人の手によりて運用せらるゝに至らん事を祈ると語つた

伊國のピエツチ教授は、恰かも日本人接待係りあるかの如くに種々厚意を

表してくれた、彼れ曰く日本は吾が伊國の如く氣候溫和、風光に富み又日本人の容貌及び氣質も伊國人に似て居るなどと愛嬌を振り廻せしも伊國の如き情民の氣質までも類似すといふに至つて心中竊かに迷惑を感じた

水尾君の胸間に勳章の輝けるを見て例のアラウ博士はそは何なりやと問ふ之れ日露戰爭の功績によりて得た瑞寶章ありと傍らに居たビルシユホルシユフェルド氏は次は何なりやと尋ね水尾君は從軍章ありと答へたので洋人等は嗚呼勇壯の君よと賞して居た

此に於て諧謔に富めるピエツチ博士は同君を誘ふて其の知己ある露人の前に至り水尾君の勳章を指しておい此れは日本の戰捷の印しだ、更に從軍章をさして此れは君の國の大砲を以て鑄た從軍章だよとからかつて居たからさぞ不快の顔をふすからんと思ひしに然らずして此れは困つたさ己れの耳を擦りつゝ苦笑して水尾君と握手をふし「モスコ」大學眼科學教授クリエカウの一月前に永眠せしを惜しみ或は露國眼科の事情など親しげに語つたのは、さすが大國の度量であつた

例の如く「アイスクリーム」と清水の「シヤンパン」を饗せられ席は益々賑ふた

此くする間に舞臺の幕は開かれ、背景の美は現はれたが廿名計りの青春の男女と對照して一層の美を呈した男女何れもアルペン式の衣裳を着し脛を露はせし優き男と嫵妍たる美人と互に相ひ擁して並び立ち各々手には阿房陀羅經の木魚の如き者を持ち節し面白き樂奏につれて廣き舞臺面を狹しと踊り廻はつて居たが之れ所謂自然主義表情劇と名けんかチアプル特有の名ある踊りなりとの事であつたが予等の如き老輩には兎も角年若き列席者の中には垂涎三千丈の者もあつた哩

尙ほ王宮附屬の劇場に會の爲めに特別に舉行されたる演劇に招待されしも當日は差支へありしため予等は見物せざりしも聞く所によれば多數の男女現はれて自然主義表情演劇をふせしとの事であつた

●●●●●●●●●●  
羅馬大學眼科教室參觀

予等は▲馬市見物中に、縣々羅馬大學眼科教室參觀に行つた、内外婦人科等と並びて閑靜の地に建てられてあつた、予等は先づ其の外觀の立派なるに驚いた各科共羅馬式建築であつて今より二三年前に建築せしとの事であつた眼科「クリニク」は壯大なる三層樓にして診察室、手術室、教室、病室、等實に完全なるものであつた予の是迄參觀せし獨逸各大學眼科「クリニク」にも優されるものと斷言するも差支ない、現に予等の訪問せし前日獨逸のアキセンフエルド教授之れを參觀し賞賛せしとは助手の直話であつた、同教授の言は實に偶然ではある、若し獨逸各大學眼科「クリニク」に強て比較せば獨逸第一の完備せる新築ありとの評あるギーセン大學眼科教室と匹敵するであらふ

それよりも一層感心せしは、研究室の完全整頓し且つ眼胎生學及び眼病理學の材料の豊富にして其等の顯微鏡標本の稀有なる事であつた、予は昨年ハイデルベルグ大學眼科教室に於てヒツペル教授の標本の富有なるに驚きしよりも尚ほ一層感心した、之れを以て羅馬大學眼科の教授及び助手等の如何に勉勵せるかを證して居る尚ほ予等は此に於てチアブル市にて開設されたと對照し總てに於て雲泥の差あるを思ひ嘗てチアブル市にて開設されたる萬國眼科學會に羅馬大學眼科教授の出席せざりし所以をも知つた抑羅馬大學眼科教授は、人の知るが如くキリンチヨナル博士にて眼胎生學專攻を以て其名世に高し之を以て獨逸眼科界碩學の士等と交誼あり益々研究に熱心ありと若し我が眼科醫界の士にして眼胎生學を專攻せんとするものあらばライプツツヒ大學助手ゼーフエルド氏も眼胎生學上に近時頭角を現はせしと雖も予は寧ろ學徳高きキリンチヨナル博士を推薦せんと思ふ加ふるに羅馬はライプツツヒにも増し千古の史蹟に富めるを以て精神修養上にも大なる裨益あるを信するのである

結 論

(學會)

夫れ何れの學會を問はず國際的のものは、多人種の會合あるを以て言語の區々たるを免れない、又た講演の際に其の使用語の餘りに多數あるときは却て會の眞價を損下大なる好果は得難いのである現に萬國眼科學會は從來英佛獨語のみであつたのに此第十一回に於て、三國語の外に、更に西班牙及び伊國語を以て講演を許せしため伊人西人の講演頗る多かつた、之を以て英佛獨人等に於ても多少の迷惑を感じ居た現にアキセンフエルト教授は、其の使用語の餘りに多數あるを慨して、次回よりは舊の如く英佛獨語のみにあさんとの意見を抱いて居つたのは至當と思ふ

尚ほ又諸國人の集合に際し總てに於て満足を得せしむる事は頗る至難であるが獨逸の一新聞「ウタス、ツアツンク」は四月十五日の紙上に本會の不秩序ありし事及び列席せし婦人に對し何等の設備ふかりしは遺憾なりしと論じた、歐米人等の婦人を尊重するは言はずもが、歐洲の一小國たる伊國に於てすら此の非難ありしを以て後年我が國に於て國際的學會の開かる事あらば歐米人は其夫人等を同伴するや必せるを以て婦人優待法を講ずるは肝要である否ふ伊國學會に於ては獨り婦人に對してのみならず總てに於て寧ろ優遇を缺きしやの感があつた

會の日々の計畫を認めある冊子を始めとし鐵道割引切符にまで總て伊國語を以て認め英佛又は獨語等の兩様ある記載ふかりしため語學に堪能なる此等各國人も非常に不便を感じて居た  
本會を秩序整然、我が眼科界の淵源との評ある、獨逸ハイデルベルグ眼科學會と比肩せんは無理であるが、予は昨年ハイデルベルグ眼科學會に列席し其の盛況に驚き、且つ講演及び標示の多數にして頗る有益ありしを感じたりしに反し伊國に於ける萬國眼科學會は不秩序にして演説又は標示の際に靜肅を缺きしやの感があつた現に獨逸國の委員として公けに派出されたるヘス教授は學會未だ終了せざるに飄然歸途についた予は歸獨後に同教授を訪ひ伊國旅行より歸りし旨を告げし後ち學會の事と語りしに宏量ある

(學會)

溫顔の先生は予の肩を輕打して曰く  
君よ！全く不秩序であつたね！

と挨拶せられたのによりても察する事ができる。

此に一例を擧ぐれば伯林大學グレフエフ博士の助手クラウゼン君が講演の  
順番來りしと座長より呼び出されしにより同君は演壇に立ち將に講演を始  
めんとせしに座長は會員に向ひ時まさに正午に垂ん／＼とす一と先づ閉會  
せば如何にやと計りし爲め同君はスゴ／＼と降壇せしは頗る奇觀であつた  
國際的學會の多少御祭り騒ぎを具有するの必要あるは遠來客を慰むるため  
である、伊國に於ても此の設備があつたが市長主催の招待會に於て市長の  
挨拶ふかりしは禮を缺きしとの評もあつた日本の如くに餘り長文句の口上  
をふすのもよくはないが主催者は些々たる事にも注意ありたい者と思ふた  
或は會員章佩用者には附近の名勝及び博物館等見物の際に入場料を要せざ  
りしふと歡迎の意を表して居たが予等一行の千古の憾ある。震災地ポンペ  
イ見物の際に電車の掌車は予等の無料優遇あるを語りしにも係はらず其の  
賃金を請求せしため警官の注意を受けしふ吾等は伊國旅行に際し獨逸人  
等より注意ありし「伊國人を見たら泥坊と思へ」との訓言を目の當り知つた  
のである他日我が帝國に於てかゝる學會の開設せらるる時には「拘摸の  
日本人よ」この名を蒙らざる様今より心得おく事は肝要である  
要する伊國に於ける第十一回萬國眼科學會は不秩序ふりし爲めに會員等の  
不快を求めしもそれは主催地の責任にして國際的ある萬國眼科學會其者は會  
期毎に進歩して居る殊に本會に於ては萬國共通視力表の選定と亂視の徑度  
を萬國共通に記號すべし等の決定は眼科學界の進歩を圖り世を益し多少の  
效果ありしは吾人等の最も喜ぶ所である  
終りに臨んで好機來らば我が大日本帝國に於ても亦萬國眼科學會を開き世  
界各國の列席者に大ふる満足と與へ眼科學界上に多大の貢獻あらん事を  
望むのである  
(了)

○第十六回萬國醫學會概況

▲各種の宴會

何れの地、何れの時、將た如何なる種類の學會に於ても、其學會の漸く大  
且盛なるものは、必ず之を飾るに飲饌招飲を以てせざるはなし。本會も亦  
此常規を漏れず、開會の一週間始毎夕に於て、各種の宴會處々に開かれ、  
禮装に身を飾りたる遠近の會員往來に忙殺せられんとす。先づ挨拶には開  
會式の前夜各種宴會の魁として開かれ(其景況は前信を以て報道せり)、次  
て開會式の當日はブダペスト大學教授の一部會員の招宴あり、三十日には  
ブダペスト市の全會員招待あり、宮廷の招宴は九月一日の夕を以て行はれ、  
九月三日には各部會長より主なる部會員を饗應せり、其他來會婦人のため  
に催せし婦人招待會あり、獨逸人の開きし麥酒會あり。其他小ふるものに  
至りては一々枚舉に遑あらず。今左に二三の主ふるものを紹介せん。

▲會頭及大學教授の招宴

二十九日夕、開會式の「アツコルド」として二個の雅宴企畫せられたり。一  
つは同會の會頭コロマン、フオン、ミユルレル氏の主催にして、學會出席の  
公人即各國代表者、會の役員等招待せられ、他はブダペスト大學教授エマ  
ヌエル、ヘルチエル氏の催宴にして私人として出席せし各國有名の學者賓  
客たり。然るに前者は會主ミユルレル氏の急病のため遽に中止せられ、ヘ  
ルチエル氏の宴會のみ、豫期の如く市公園にて開かれ、飲食店の設け、餘  
興の音樂等形の如く整ひ、來賓に十分の満足と與へし由。

▲市の夜會

主府ブダペストは會員に敬意を表するため、三十日午後九時より十一時ま  
で前日開會式を舉行せし市立舞踏場にて盛大なる夜會を開けり。招待を受  
けて來會せし會員及其同伴の婦人は凡そ三千人に近き多數にて、市長「ド  
クトル」、ステファン、バルチャー氏及其夫人は會場の入り口にて來賓を迎へ

て一々挨拶し、市長の傍には文部大臣伯爵アルベルト、アツボンニー氏及高等市長コマン、ヒュレツアの二氏ありて同じく來賓を迎へたり。會場内外は市吏員の盡力によりて、かゝる多數の來客に拘はらず、能く秩序を保たれ、九時少し前には多數の來賓既に會場に集まり、左しに廣き舞蹈室は人を以て充たさる。聽て餘興の音樂始まり、音樂の間に四五男女の獨唱あり、何れも聽衆の喝采を博せり。會場の一隅には飲食店の設けあり「サイン」、「シヤンパン」、菓子、冷肉等の用意あり。來賓一同耳と口とに満足と共に、心にアダベスト市の萬歳を唱えつゝ散會せしは十一時ありき。

▲オノザー氏の畫餐會

喉頭科の大家「アダベスト大學教授ドクトル」、アドルフ、オノザー Adolf Onodi 氏は「アダベスト」に滞在せる萬國醫學會第十五部の會員たる外國の主たる喉頭學者及其他有名なる學者を招て畫餐を饗せり。席上フイリツキス、デイーモン、「プロフェツトル」、アルダイエル及同北里諸氏の謝詞演説ありたりき。

▲宮庭の御招待

學會の第三日即九月一日、ヨゼツア大公爵殿下は、學會の保護者たる奧國皇帝兼匈牙利國王フランツ・ヨーゼフ第一世陛下の御名代として、出席の會員をそが榮譽のため王宮に御招待遊ばされたり。匈牙利國の王宮は其位置と建築とに於て世界王宮の最良なるものの一にして、ドナウの巨流に臨み、市の一角に於ける小高き丘上に在り。夕刻より玻璃窓を透して輝く燈光は、次第に市の美しき眺望を埋むる暗黒を射て、國王の代表者や世界の醫學者を客として引見せらるゝことを示し、王宮に通ずる「ドナウ」河上的一大鐵橋鎖橋は國旗を以て飾られ、橋の入り口には數十の徒歩及騎馬の警官非違を警め、午後七時には已に招かれし會員輻々車を驅つて王宮に向ひ、此榮譽を擔ひし各國の學者を見んとする市民の老若男女は忽ちにして途上に堵を築けり。王宮の外階は珍奇ある熱帶植物を以て飾られ、階下は近衛兵によ

りて守護せられ、階段の兩側には赤く美しき軍服を着し手に鎗を持ちたる十名づゝの番兵嚴然として並び立ち、階を攀づる者をして先づ帝王の尊嚴を感ぜしむ。來賓は儀式室に集り、其内の各國代表者又は有名なる學者等大公爵の接見あらせらるゝ者は「アルハベツト」順による國別に従ひ一般會員の前列に並立せり。八時には招待を受けし者悉く集る、其數實に一千五百人、未だ會て此王宮に於ける招待に見ざりし多數にして、宮殿の諸室謁見室に至るまで開放せられ、而も各室尙人を以て充たされたり。婦人の招待を受けし者は極めて稀にして僅に九人に過ぎざりしは、歐洲の夜會には稀有なることにして、而も却て滿簾叢中紅一點の觀を興えたり。善美を盡せし大小幾室に輝き渡る電燈の光は、多數來客の胸上に輝く各國の勳章に映じて、燦然たり。多數の黒く禮裝したる會員の間に各國軍醫が各自特異の軍服を着けたるは特に衆目を惹けり。

奧匈牙利國の代表者としては文部大臣伯爵アルベルト、アツボンニー、宮内大臣伯爵アラダト、チツヒ及内閣書記官長フランツ・フォン、ボルガル、同ビクトル・フォン、モルナル氏等、其他學會長プロフェツトル、コマン、ミュレル氏始め十數人出席せり。

定刻に至れば、ヨゼツア大公爵殿下は先づ御便殿より薔薇の間に御入御あり、近衛元帥伯爵ルードウヰツヒ、アツボンニー氏より報告を受けさせられ、次で同氏の御先導にて侍從武官長ロスコウニイ氏を隨ひ、匈牙利大將の軍服にて、大廣間に御出御あり。殿下は先づ文部大臣伯爵アルベルト、アツボンニー氏及學會々頭貴族院議員プロフェツトル、コマン、ミュレル氏に御挨拶あり、次で兩氏は殿下を一般會員に御紹介申上たり。夫れより殿下は並み居る各國の代表者に一々握手を賜ひ、且各人に大凡二三分開づゝ獨佛英伊の四ヶ國語を以て、或は此學會の「アダベスト」に開かれしを御満足に思召さるゝこと、學會の行事の長成績あること等に就き、御丁重なる御挨拶を賜はりたり。我國の代表者としては北里、大澤、伊藤、緒

(學會)

方の四博士及小林、山田、雨宮の三軍醫御接見の榮を蒙られたり。此くして殿下は二十餘ヶ國の代表者數百人に一々御挨拶遊ばされ、八時より十時に及びて漸く御接見を終ひさせられ、尙最後に會頭ミュレル氏以下會の役員に、學會の経過良好あるを御満足に思召され、こゝ及役員の勞を謝する旨の御挨拶ありて御退場遊ばされたり。來會者は九時頃より下賜されし「シヤンパン」、「アイスクリューム」、「サンドウヰツ」等を頂き十時頃より續々退出せり。

▲パツチエリー氏の書餐會

萬國醫學會の伊太利委員長たる前伊太利文部大臣「ローマ」大學教授ガイドー、パツチエリー氏は九月一日伊太利の會員を書餐に招待せり。先づ同氏挨拶をふし來賓の健康を祝し、來賓萬國醫學會頭コロマン、ミュレル氏及文部大臣伯爵アルベルト、アツボンニー氏は伊太利語を以て謝辭を述べ宴主馬氏の健康を祝し乾杯せり。

▲先哲祭

學會に伴ふて匈牙利國醫海の先哲を祭祀する先哲祭は二様に行はれたり。一は匈牙利國公衆衛生の開祖たる碩學ヨゼツプ・フォン・フオドル Jozsef. Hodor 紀念像の除幕式にして、他は第八部會々員の行ひし産褥傳染病學の奮闘者産科醫の泰斗ゼンメルワイス Semmelweis 氏祭是れなり。

▲フオドル氏紀念像の除幕式

は二十九日開會式當日の午後三時より紀念像の建立せられしザンドル門にて行はる。折柄生憎の降雨ありしも驟雨一過の後直に參會者を以て式場を充たせり。參列者は多數の萬國醫學會々員にして、其他ヨゼツプ・フォン・フオドル氏の家族を始め文部大臣代理として内閣書記官ビクトル・フォン・モルナル、市長ドクトル、ステファン、バルチー、數人の大學教授等あり。紀念碑の副委員長ユリユウス、バルトス氏先づ來會者に挨拶し且歡迎の辭を述べ、簡単に紀念碑建立の経過を報告せり。次で公衆衛生

地方會長プロフエツソル、ドクトル、ルードウヰツヒ、フォン、イロスバイ氏祭辭を述べ、先づ佛語にて醫學會々員の來會を謝し、次で匈牙利語にてフオドル氏の學術海特に公衆衛生學上に於ける効績を賞賛せり。氏の演說中紀念碑の幕は除かれ、匈牙利國一大學者の銅像は嚴然として會衆の前に立てり。茲に放てフォン、イロスバイ氏は此銅像を永久の保護の爲市長に引き渡し、市長は簡單なる辭を以て此匈牙利學者の銅像が長くブダペスト市民及本市の來遊者の腦裏に尊榮の印象を與ふべき旨を述べ、且各地各人より贈りし多數の花環を取りて新しき銅像を飾り、是にて除幕式を了へたり。

▲ゼンメルワイス祭

第八部會の會員たる各國の産婦人科醫は、九月一日午後即部會議の終りし後、産褥熱の豫防上第一の奮闘者たりしブダペストの産科醫ゼンメルワイス氏の靈を祭り、此碩學の斯學に於ける効績を世に旌さん爲、エルツゼベツト街ある同氏紀念碑の前に集り、壯嚴なる祭典を執行せり。當時世界にて有名なる産婦人科醫を網羅せる來會者一同の、匈牙利の「プロフエツソル、タウツフェル、バルヅニ、ザルチル、テメスワリ、ロウクツヒ及トート」氏によりて紀念碑前の式場に導かるゝや、先づ宮中顧問官「プロフエツソル、タウツフェル」氏は、あらゆる世界の婦人科醫がゼンメルワイス氏紀念碑の前に集まりしことを喜ぶその意を以て一場の挨拶をふし、次で「プロフエツソル、ホーフマイエル Hofmayer」ユウルクツブルヒ氏は獨逸國の婦人科を代表して、匈牙利大學者の功績を賞賛したる説をふしたる後花環を碑臺上に置き。之に次でウヰン大學教授「ホーフラート、プロフエツソル、シヤウター」Schäfer 氏も亦ゼンメルワイス氏が會て自己の研究の爲にウヰンの病院に於ける材料を使用し、次で其の使用を妨げられしに拘らず、ゼンメルワイス氏が洪恩の後世に残せし事業の觀念を此地の材料に得しはウヰン人の誇りとする所なりとの旨趣を演べ（大喝采）壇國婦人

科を代表して、ゼンメルワイス氏の斯學に於ける功績を賛し、同く花環を捧げたり。プロフエツソル、グツツオニ、デクリー、ルツカラニ、Guzzoni degli Lucarari 氏も同じく伊太利の醫師より贈りし花環を捧げつゝ、伊太利に於てはゼンメルワイス氏の功績を記するため病院の病室又は部に冠するに同氏の名を以てす、是れ同國婦人科醫の此大學者を追慕する念切あるを見るべしと述べて、盛に此學者を賛せり。其他プロフエツソル、ボイエ(Doye)氏は芬蘭國の醫師の名に於て、同籍方氏は日本婦人科醫の名に於て、同ビナルド Phinard 氏は佛國、同フォン、オット(V. Ott)氏は露國婦人科の代表として共に花環を捧げ、最後にプロフエツソル、ウ井ルヘルム、タウツヘル氏の辭謝ありて一同解散せり。

▲參觀。

學會の開會中、「プログラム」に掲げられたる醫學に關係ある場處の參觀は殆毎日午後より行はれたり其主なるものは匈牙利國にて有名なる苦泉、溫泉場、「シンパン」製造場等にして、是等は參觀者に少からざる興味を興へし外、是等の場處に於ける會社工場主の丁寧なる款待は參觀者に十分の満足を興へしものゝ如し。其他大學の「インズチット」及「クリニーク」を始め、市内有名病院は、學會の開會中毎日公開して自由に會員の參觀に供せられたれば、參觀者の之によりて裨益せし所實に少小にあらざりしならん。唯予通信者は時間おきたため僅に一二の溫泉場を見しのみにして、他の多くを參觀するを得ざりしを以て、其狀況を讀者に報導するを得ざるを恨みとす。

▲懸賞金の授與。

パリズ及モスカウ兩市の醫學大懸賞金を授與すべき業績の審査及受賞者の選定は、審査準備委員より八月三十一日開きし、萬國委員長、各國政府代表者長、審判委員よりなる審判會に於て萬國醫學會長 コロマン、フォン、ミユルレル氏の會長の下に報告せられて直に採用決定せり。即ちパリズ懸賞

金(三千「フラン」)は有名なる白耳義國の學者「プロフエツソル」ボルデツト(Borde)フリユツセル氏にモスカウ懸賞金(五千「フラン」)は碩學ベルリン大學教授ヘルトウ井ツロ Hertwig 氏に授與すべきものと決せり。ボルデツト氏は血清學の進歩によりて近時大成功をなしたる血清診斷學上の基礎を創設せし人、ヘルトウ井ツロ氏は胎生學上の研究により斯學の一大進歩をなせし學者なり。

右審査の發表及懸賞金の授與は九月四日閉會式の際發表せられたり。

其他匈牙利政府内務省より「トラホーム」の原因に關し最良の業績ある者に懸けたる眼科賞金一千「フローン」は文部大臣の選定せし審査委員、「プロフエツソル」、バイフェル(プレスラウ)同コレ(ベルン)及同フォン、グロツス(ブダペスト)氏等の審査にて提出せられし七個の論文(獨逸三、露國二、ブルカリヤ及埃及各一)中一の之に適するものなければとて、授與せざる事に決定し賞金は次回の學會に廻されたり。又男爵フォン、レンワル氏より第三回萬國喉頭病學會の際喉頭病學に對し寄附せし萬國懸賞金(四百「フラン」)は、「プロフエツソル」、ハー、ノイマン H. Neumann (ウ井ン)及エー、グレイイ Grey (グラスゴ) 二氏の手に歸せり。

▲次會開會地。

萬國醫學會の次會開會地は九月二日の萬國委員會に於て決定し、四日の閉會式の際發表せられたり。即次會の第十七回萬國醫學會は千九百十三年英國ロンドンにて開くこととされり。此決定を見るに至りて前一般より次會の候補地として目されしは紐育東京及倫敦の三地にして、東京にては我政府代表者北里博士等より到底引き受け難き意志を示されしため、一時一般に紐育が次回の開會地あらんと目され居りしに、委員會の際米國委員は、同地は明後年萬國衛生會の開會地となり居るを以て、かゝる短年月間に大なる萬國學會の二個までを引き受くる能はずとて、斷然拒絕せしかば、さうばとて英國の委員に交渉せしに、間委員は、本國政府の同意を得ば欣で

(學會)

引き受くべしと答へ、直に電報を以て照會せし所、英國政府より一千九百十三年萬國醫學會々員を倫敦に招待すべしとの返電ありて、快く英國にて引き受くることとなりしものありと。

▲會員數

此回の萬國醫學會に加入せる會員數は開會式の前日即二十八日までの分は開會式の際幹事長グロス氏より報告せられしが、其後尙續々來會者ありて八月三十一日の現在數は、男子會員三千八百三十二人女子會員九百九十九人、雜誌代表者百六十六人合計四千九百七十七人、其他同伴家族凡百人以上あり、即此學會に於てアグベスト市に集まりし會員及其同伴者は優に五千人以上に昇りしからん云。

▲閉會式

五日間に渉り非常の盛況と良好の經過とを以て終りし第十六回萬國醫學會は、九月四日午前十一時より、一週間前に開會式の盛典を擧げし市舞踏場にて嚴肅なる閉會を舉行せり。是より先き會員の多數は已に或は歸路に就き或は各地の旅行に立せしを以て、當日の來會者は開會式日の夫れの如くに多からず、爲に儀式は却て靜肅に行はれたり。閉會式に於て行はれし事項は(一)四個の懸賞金の選に當りし者の發表及懸賞金の授與(二)次回開會地の發表及(三)閉會演説ありとす。今左に其經過を略報せん。

閉會式は學會々頭プロフエツソル、コロマン、ミュレル氏によりて開かる。氏は先づ先に學會より發し、謝電に對し、埃國皇帝兼匈牙利國王及葡萄牙王の答電を披露し、次で幹事長プロフエツ、ソルエミール、グロス氏は四個の懸賞金の選に當りし者の氏名と其の選定の景況を報告し、而して又會長ミュレル氏は、今回の學會中に寄附せられし二個の學會懸賞金を披露せり。即一つはプロフエツソル、ポリツチエル、Polliser (ウヰー)より三千クロンの懸賞金の寄附あり、其利子を以て千九百十二年ボストンにて開かる、耳科學會の決定にて、耳科學に關する優秀の業績にて向

授賞すると、次はドクトル、エル、エル、ザーマン、L. L. Geerman (ヒュー)氏より戰時衛生作業の改良に關する最良の「アルバイト」に向つて二千五百「クロン」を懸賞せられしものにして、此懸賞金は第十七回萬國醫學會の評定にて授與せらるべし。

幹事長エミール、グロス氏は各部會より提出せられし十五ヶ條の建議案(其大部は第二十部及第二十一部會より提出せらる)を披露し會員の意見を求めしに、今後組織せらるべき本會の萬國組織委員の議に附すると云ふれり。

會頭コロマン、フオン、ミュレル氏も多くの議案を提出せり。其中には、西班牙語を學會の公用語に加ふるも、社會衛生學の獨立の一科とあすも、齒科醫を會員に加ふるとの個條あり、是又前者と同一の委員の議に附すると云ふれり。

次で幹事長エミール、グロス氏は、今回の開會地に關する萬國委員の決議を披露せり。即萬國委員會は今回の開會地に就き。プロフエツソル、エフ、ダブリュー、ベビー、E. B. Davis 氏の賛し、招待を受納し、第十七回萬國醫學會をロンドンにて開會するの決議をふせり云ふに在り。會頭の此披露に對して會員は熱心なる拍手を以て之を迎へ、會頭は乃此決議の成立せしとを宣告し、次回は千九百十三年に開かる、旨を報告す。次で會頭は大英國皇帝エドワード陛下に敬意を表し、且同國外務大臣に學會の謝意を表するため、電報を發せんとを計り、之亦滿場の喝采を得て可決せり。

次で會頭は次會準備のため萬國常備委員を設くるの議を謀りしに直に可決、即其委員に會頭プロフエツソル、ベビー(ロンドン)副會頭プロエツソル、ブロンデル、Broadier (パリス)、マラグリアノ、Marighino (埃太利)ミュレル(匈牙利)。ワルダイエル(獨逸)。幹事長ウエンケパツハ、Wenckebach (和蘭)を選任し、當備委員の事務所はハーグに置くこととし、且會頭は必要により何れの場所にても委員會議を開き得るの權を有することとせ



り。

此時會頭コロマン、フオン、ミユルレル氏は第十六回萬國醫學會の作業は是れにて終結せる旨を報告し（大喝采）且一場の演説をなし。本會の經過極めて良好なりしを述べ、各國の來會者及演説者に滿腔の謝意を表せり。會頭の閉會演説滿場の拍手を以て歡迎されたる後、各國の代表者は續々起て演説せり。其人々はウィットホーフ（獨逸）。シー、ライエル（亞米利加）。ザスト（ブルゼンチン）。ボリツチエル（埃國）。ヅ、ヅツア（アラジル）。イリンノウ（ブルガリヤ）。サラモンゼン（丁抹）。ジモネナ（西班牙）。ランドウチイ（佛國）。パビー（英國）。マラグリアナ（伊國）。大澤（日本）。ズヒータ（墨國）。デベイレ（ニカラガ）。ウツヘルマン（那威）。ウエンケバツハ（和蘭）。ヅ、マツトス（葡萄牙兒）。ラプチエウスキー（露國）。ハンマール（瑞典）。ボルグット（瑞西）。ツエロス、パシヤ（土耳其）。ラツギオロ（ウルガイ）。アロンデル（醫學雜誌記者總代）等にして、各々匈牙利國官民が此學會に對して盡したる厚意を謝し、特に會頭以下役員の勞を謝し、第十六回萬國醫學會が非常の好經過を取り、會員及斯學に與へし効果の大あるを賞賛したり。最後にフタベスト市長ドクトル、ステファン、バルチー氏及文部大臣伯爵アルベルト、アツボンニー氏の送別演説ありて、茲に芽出度く第十六回萬國醫學會を閉せり。

▲學會に列席せし人々

今回の萬國醫學會に出席せし日本人は或は我政府及公共關係の代表者として、或は私人として、其數意想外に多く、恐くは從來此種學會に其例を見ざるまでの多數あらん。即我官公廳より特に派遣せられしは前報の如く内務省二人、陸軍省一人、海軍省二人、文部省二人、臺灣總督府一人、神戸市一人合計九人、私人として參加せしは四十四人にして總計五十三人あり。即出席者の姓名左の如し。

官公廳の代表者

内務省	傳染病研究所長	醫學博士	北里榮三郎
同		醫學博士	緒方正清
文部省		醫學博士	伊藤隼三
同		醫學博士	大澤岳太郎
陸軍省	陸軍二等軍醫正	醫學士	山田弘倫
海軍省	海軍々醫中監	醫學士	小林固太郎
同	海軍々醫少監	醫學士	雨宮量七郎
臺灣總督府	臺灣總督府技師	醫學士	高木友枝
神戸市	神戸市東山病院院長	醫學士	天兒民惠
私人			
醫學士	青木 薫	醫學士	土肥 章司
	藤波剛一	醫學士	布施源之助
醫學士	藤田敏彦	醫學士	林 政 治
醫學士	平山金藏	醫學士	廣川和一郎
醫學士	稻葉良太郎	醫學士	伊 丹 繁
醫學士	井上達二	醫學士	磐瀬雄一
醫學士	唐澤光徳	醫學士	木下東作
醫學士	賀屋隆吉	醫學士	神尾三伯
醫學士	梶 完 次	醫學士	川島慶治
ドクトル	近藤乾郎	醫學士	熊谷幸之助
ドクトル	小林 基	醫學士	松 田 毅
醫學士	松本需一郎	醫學士	村地長幸
醫學士	宮下左右輔	醫學士	布川興策
醫學士	西 盛之助	醫學士	中島謙太郎
醫學士	大久保 榮	醫學士	廣田廣重
醫學士	鈴木 督	醫學士	新宮涼男

(内地雜報)

醫學士 佐々木次郎三郎

醫學士 杉村七太郎

ドクトル 齊藤 良一

醫學士 佐藤 恒丸

醫學士 辻 高 俊

醫學士 東條 良太郎

ドクトル 津 留 壽 船

醫學士 豐 福 環

内 田 重 吉

醫學士 内 野 仙 一

和 田 豐 稔

醫學士 山 谷 徳 治 郎

▲名譽座長に推薦されし人

北里博士が各國の大家と共に名譽會長に推されしは前報の如し。其外日本にして各部會に於て名譽座長に推薦せられしもの少からず。即大澤博士は第一部の名譽座長に推されて、一日午前の部會にて之を勤め、北里博士は第二部の名譽座長に選ばれて、三十一日午後の部會にて其椅子に憑り、第七部の外科部會にては伊藤博士第一日午前の會議に座長として部會を指揮し、海軍の小林ドクトルも亦第二十部の座長を勤められた。其他高木學士、緒方博士も所屬の部會の座長に推薦せられたりと云ふ。

▲日本人の演説

日本人にて演説せし人々 其演説は左の如し。

第一部 解剖學組織胎生學

「ブルザ、フアブリチイ」

醫學博士 大澤 岳 太郎

第四部 微生物學

日本に於ける結核

醫學博士 北里 柴 三 郎

「ベスト」患者に於ける結膜及皮膚反應に就て凝集素及「コンプレメント」形成力の比較に於て

第七部 外科學

天 兒 民 惠

歐洲に於けるより日本に於て屢發現する及其反對の二三外科的疾病

醫學博士 伊 藤 隼 三

第十三部 皮膚病科

日本に於ける糾髪病に就て

醫學士 山 田 弘 倫

第二十一部 航海醫學及熱帶病學

日本の「ベスト」

醫學博士 北里 柴 三 郎

右の外陸軍三等軍醫正醫學士稻葉良太郎氏は第二十部(陸海軍衛生)にて、野戰衛生材料運搬問題に關し討論をふし、又山田學士は(一)日本の「レブラ」、(二)日本軍隊の花柳病及戰爭中銃創の後療法にして軟膏の價值を題する二個の演題を出されしも、時間の都合にて演了せられざりし由。(醫海時報抄)

○第二回萬國癩病豫防會議狀況

目下本校より外國留學中の教授下平用彩氏より本年八月諸威國ベルゲン市に於て開催せられたる第二回萬國癩病豫防會議狀況に付き左の如く報告ありたり

本年八月十六日午前十時ベルゲン市 Dergode Hensigte に於て第二回萬國癩病豫防會議を開かる開會に臨み諸威國皇帝ハーコン第七世陛下臨御一場の開會式辭を演述せられたり

右終て直に當日の報告演説に移る此日の演説は主として各國に於ける癩蔓延の狀況及其豫防法にして午後二時閉會す

此日午後七時半よりベルゲン市參事會の癩に係る晚餐會に招待せられ皇帝陛下亦臨御ありたり

同月十七日午前九時半開會前日に引き續き癩蔓延の經路其傳播の曆史癩の原因に就きて演説及討論あり午後一時閉會次て午後二時開會癩の診斷、其臨床上觀察に就きて演説及討論あり午後六時閉會す

此日午後八時より當市に於ける國民演劇より會員一同觀劇に招待せらる皇帝陛下亦之に臨御ありたり

同月十八日午前九時開會主ら癩の療法に就きて討議する所あり午後一時開會更に午後四時開會癩の病理及血清診斷法等に就きて演説あり午後六時閉會す

同月十九日午前九時半開會主ら癩の豫防及撲滅法に就きて演説あり次て委員會に於て起草せる提議書に就きて討議する所あり結局左の提議を決定して本會を閉ちたるは正に午後二時ありき

### 提議

第一 第二回萬國學問的癩會議は今も尙ほ有らゆる點に於て千八百九十七年伯林に於て開かれたる會議の決定められたる決議を固守す

癩は其傳播の何の方法に依るを問はず人より人に傳播せらるべき業病なり何の地理的位置を有する邦國も此傳播に對しては安全ある能はず是故に本病の傳播に對して適當なる處置方法を探られんことを勧告す

第二 獨逸、イスラント、諸威及瑞典に於て獲たる良好なる成績に顧みきは侵されたる邦國は進て癩病者の隔離法を實施せられんことを望む

第三 癩病者の健全なる小兒は可及的早く癩病ある両親より遠ざけ一定の監督の下に立たしめんことを切望す

癩病者と住所を共にしたるこある者は時々十分に素養ある醫師の檢診を受けしめざるへからず

第四 癩病者は癩病の傳播に特に危險なる職業に従事するを避けしめんことを望む

但し如何なる場合に於ても又何の邦國に於ても癩病に罹れる乞食及流浪者を嚴重に隔離することは必要あり

第五 癩病の原因及蔓延に就きての諸學説は癩菌の本性及其生活要約に關する吾人の知見と一致するや否やに就きて細心檢索を遂げざるへからず其他癩病の昆蟲に由りて傳播せらるるの疑問を解決し且つ又癩に類似する疾患の動物鼠等に存在するや否やを研究せられんことを望む

第六 癩の臨床的研究に依れば本病の不治の症にあらずとの説は正確なり然れども吾人は今尙ほ之れに對する確實なる治療薬を有せず故に特に望むらくは奮勵以て之れに特有なる一治療薬の檢案に努力せられんことはなり

此夜又第二回萬國癩豫防會議本部委員より晚餐の招待を受けたり今回本會に代表者を出したるは(一)北米合衆國、(二)亞爾然丁、(三)白耳華、(四)伯刺西爾、(五)勃爾加里、(六)丁抹、(七)英國、(八)芬蘭、(九)佛國、(一〇)希臘、(一一)グアテマラ、(一二)和蘭、(一三)伊太利、(一四)日本、(一五)支那、(一六)哥倫比亞、(一七)キューバ、(一八)盧森堡、(一九)墨西哥、(二〇)諸威、(二一)波斯、(二二)葡萄牙、(二三)羅馬尼亞、(二四)露西亞、(二五)西班牙、(二六)瑞典、(二七)獨逸、(二八)埃及、(二九)澳地利匈牙利の二十有九箇國にして是等諸國よりの出席會員の數約百二十名あり而して次回即ち第三回の本會議は今より八箇年の後即ち千九百十七年澳匈國領あるボスニエン國に開會することに略ぼ決定せり

同月二十日午前中我内務省派出員たる醫學博士北里柴三郎、内務技師内野仙一及臺灣總督府衛生課長高木友枝等と共にベルゲン市内に設けある癩療養院を觀たり院は二箇所に在り目下兩院に收容せらるる患者數百十五名計にして中に重症の患者數多あるを認めたり

斯くて諸威國ベルゲン市を發し同夜同國ウオス驛に到りて宿泊することあり

同月二十一日午前九時ウオス驛を同夜半クリスチアニア府に着此處に宿泊す

同月二十二日午前七時クリスチアニア府發瑞典國を経て丁抹國に渡り午後十一時十四分同國首府コペンハーゲンに着此處に宿泊す

同月二十三日コペンハーゲン府に滞在同府に於ける傳染病研究所及フンセン氏光線療法院を觀る同月二十四日午前十一時コペンハーゲン府發獨逸

國ワルチムンドを経て午後八時四十分漢堡市に着午後十一時更に乗車  
同月二十五日午前九時二十分フランクフルト市に着直に同市病院を參觀し  
午後三時五十分當市發午後七時半ストラスブルグ市に着此夜此處に宿泊す  
同月二十六日午前中ストラスブルグ大學及病院を觀午後三時四十分當市發  
同八時五十分留學地たる瑞西國ベルン市に歸着せり。

### ●●●●● 萬國輻射電氣學學會

ラヂオロギ  
輻射學は近年發達せられたる物理學の分派にして、X線と「ラヂウム」の  
發見に胚胎せるものなり、前者は眞空放電の研究に長足の進歩を促し、  
後者は物質觀念に大變動を來し、特に醫學界に應用せられては「ラヂオザ  
アグノスチック」「輻射診斷學」、「ラヂオセラピー」「輻射治療法」等の萌芽を  
來せり、是等の新學問は、一方に於ては新事實を發展し、他方に於ては暗  
黒裡に置れたる事實を闡明し、嚆々として止まず、將に大に物理學化學醫  
學等の諸方面に驥足を伸さんとする、是を以て各國の學者相會して其研究を  
述べ互に議論を上下するの要あり、先年(一九〇五年)ブリュッセルに於て  
萬國會議を開きしが昨年九月十三日より十五日迄白耳義政府の保護の下に  
規模を大にして同所に於て再び輻射學電氣學萬國會を催すの計畫あり、  
此會たるや Societe française de Physique, Deutsche Physikalische  
Gesellschaft, Societe hollandaise des Societe de Radiologie medicale  
(Paris) 等が協賛せるものにして、汎く世界の物理學者醫學會を網羅し、  
第一部(一般部)にありては輻射學に關する術語を確定し、輻射に關聯す  
る器械の長短を論じ、併せて之を測定する單位を一定し第二部(物理學部)  
にありては、(一)電氣磁氣に關する根本的理論と假説とを議し、(二)輻射  
に關する研究(電氣光學、磁氣光學、「ゼーマン」現象等を含む)を報告し、  
(三)輻射能 作、就中輻射能作性物質の變脫、原子の壊散等に論及し、

(四)原子の構造、原子價の説明、「コロイド」、特殊狀態、「プラウ」運動  
等を論じ、終りに、(五)宇宙物理現象に於ける電子作用、大氣の電離狀態  
及び輻射能作、地球磁氣、北光、磁氣風、太陽輻射線、太陽磁場等を該説  
せん、第三部(生物學及び醫學部)にありては、(一)純正生物學に於  
てX線並に輻射能作の細胞體に及ぼす作用及び一航輻射線の植物發育に及  
ぼす作用を論じ、(二)「ラヂオザアグノスチック」に於ては、迅速X線寫  
眞法を主とし、輻射線の力を藉りて胃腸其他内臟諸器の生理學的及び病的  
狀態を窺ひ、(三)「ラヂオセラピー」に於てはX線能作輻射線及び爾餘諸  
輻射線の各種疾病の治療に關する諸研究を論じ、就中「ラヂウム」の癌腫療  
法、輻射能作性藥品、皮膚病の「ラヂウム」療法、X線及び能作輻射線の滲  
過、其他光線療法の進歩の現況等は既に興味ある提案として、各國專門諸  
大家各其自家研究の成績を齎らし大に論議せんとするにありて、各國に委  
員を置き、贊同者の勧誘中に在り、本邦にては理科大學の長岡、田丸二氏、  
醫科大學の直鍋氏等本邦委員を囑せられ目下會員を募集せられつゝあり。

●●●●●  
第三回萬國學校衛生會議  
同會議は、今春三月二十九日より  
四月二日まで佛都巴里に於て開會せらるべき筈なりしが、各種の準備殊に  
附屬萬國衛生品展覽會設備上の都合により、開會期を同年七月二日より同  
七日まで變更せられたりと云ふ。



内地雜誌

○獎進醫會總會

東京の獎進醫會にては、十月十七日、前野蘭化先生の忌日を以て、本郷龍岡町鱗祥院に於て、第十八回總會を開かれたり會場は奥書院にして、側方の數室を陳列場と爲し、別室には前野蘭化先生の肖像、遺墨及び遺著を陳列し、他の室には、醫藥に關する著述、遺墨等數百種を陳列し、其他醫家の風俗に關する圖畫、西洋書の醫制、醫會に關するもの數十種を蒐集して、展覽に供せり

午後一時半常務委員長醫學博士片山國嘉氏起ちて開會の辭を述べ、次で左記の講演ありたり

蘭學創始

偶感

ドクトル 富士川 游  
男 爵 石 黒 忠 恵

右の講演了りて後常務委員宮本仲氏は、今回獎進醫會にて制定したる醫會の制定につきて報告演説を爲し、次で醫會の印刷せるものを（別項参照）參同者各員に配布し常務委員長片山博士の閉會の辭を以て散會せり

○醫鏡

獎進醫鏡にて制定し、十月十七日を以て發表せられたる醫鏡の全文は、即ち左の如し

醫 鏡

凡ソ醫ハ死生ノ際ニ處スルモノナレハ、勢利ト榮名トヲ顧ミズ、慈惠チ心トシ、普チク、含靈ノ救苦チ疾ハムコトヲ務ムベシ  
誠敬チ以テ體トナシ、威儀チ以テ用トナス、廉潔謙遜ノ諸徳、兼備ハリ

（内地雜誌）

テ始メテ濟生惠人ノ業チ、世ニ施スコトヲ得ベシ

醫ノ病者ニ臨ムヤ、常ニ宜シク慎重ナルベク、決シテ疎放ナルベカラズ而シテ慎重中、又一段、勇決明斷ノ處ナルベカラズ

其術チ行フヤ、細事ト雖モ、必ズ用意周到、常ニ其試ムル所、其知ル所ヲ施シ、毫モ遺憾ナキコトヲ期スベシ

縱令不治ノ病者ニ值フモ、倦マズ、怠ラズ、以テ其痛苦チ緩解センコトヲ圖ルベシ、此時ニ方リテハ、其病チ救フコト能ハザルモ、病者ニ一縷ノ慰安チ與フルハ、是レ仁惠ノ大ナルモノナリ

病者自カラ死生ヲ疑フニ及ビテハ、醫ヲ見ルコト神ノ如シ、故ニ、コノ場合ニ處シテ、言語明斷、態度從容ナラシコトヲ務ムベシ  
仁者ハ能ク容レ、能ク忍ブ、故ニ、病者ニ對シテハ、惟忍ビ、惟容レ、以テコレヲ優遇センコトヲ務ムベシ

病者ノ性格ト家庭ト情態トハ、共ニ其施治ニ關係スルコト鮮少ナラズ、故ニ、常ニ人情ヲ察シ、事機ヲ觀テ、其事ニ當ルベシ、然ラザレバ迂濶ノ嘲チ免レザルベシ

方箋ヲ記スルノ一事ハ、醫ノ要務ナリ、若シ輕忽ニシテ誤寫アルトキハ病者ノ大害チ來タスベク、特ニ危險ノ藥品チ授クルニ方リテハ、尤モ注意セムコトヲ要ス

他醫ノ治法ノ可否ハ、妄ニ批評スベカラズ、蓋シ事情ニ依リ、前後ノ狀態ヲ變ズルコトアレバナリ、病者若シコレヲ強ユルトキハ、宜シク觀テ前醫ノ其ニ歸スベシ

聲聞チ求ムルハ、信チ得ルニ如カズ、世間往往、聲聞チ求メント欲シテ、却テ信チ失ナフモノアリ。警メザルベカラズ

醫ハ他人最秘ノ密事、最辱ノ所爲チ聞カザルベカラザルコトアリ、故ニ常ニ沈黙チ守リ、以テ病者ノ信任ヲ辜負セザラシコトヲ要ス

同業者ニ對シテハ、彼此相恭敬スルヲ以テ、第一ノ務ト爲スベシ、若シ

夫レ然ルコト能ハザルモ、必ズ能ク相忍バザルベカラズ  
 治術ノ商議ニ際シテハ、自己ノ學術ノ蘊奥ヲ發揮シ、專心一意、以テ病  
 者ノ安全ヲ圖リ、些モ猜疑忌避ノ念ヲ挟ムベカラズ  
 醫タルモノハ、尤モ忠良ノ國民タルコトヲ期スベシ、故ニ、公共ノ問題  
 アルトキハ其業務ノ範圍中ニ就キ、率先勇往スベシ、決シテ一身ノ家ノ  
 便益ヲ圖ルベカラズ

右醫箴十五則。フリーエランド氏醫箴。チームセン氏醫箴。新約醫會  
 醫家倫理學法典。スチラプ氏醫家倫理法典。ミンヘン醫會醫箴。パー  
 ケル氏醫人道義學。モル氏醫人倫理學。リーベルマイステル氏醫則。  
 バイベル氏醫家職務論。コッペンス氏醫家道德論等ノ諸書ヲ本トシ、  
 更ニ我邦前輩諸家ノ醫則數十篇ヲ取テ、互ニ參照シ、ソノ萃ヲ拔キ、  
 要ヲ撮ミタモルノナリ

明治四十二年十月十七日

獎進醫會

# ○蘭化講演

蘭化講演は、前野蘭化先生の功徳を頌するの目的を以  
 て、新たに始められたるものあるが、その趣意書は、左の如し

學界ニ偉勳ヲ建テタル人士ノ名譽ヲ不朽ニ傳フルノ方法ニ數種アリ、頌  
 德ノ碑ヲ立ツルコト一ナリ、紀念ノ像ヲ造ルコト二ナリ、特ニ文書ヲ編  
 ミ、或ハ遺稿ヲ蒐ムルコト三ナリ、懸賞問題ヲ提出シ、其人ノ名ヲコレ  
 ニ冠スルコト四ナリ、西洋ニアリテハ、別ニ會館ヲ興シ、或ハ病院ヲ創  
 メ其人ノ名ヲ冠シテ以テ紀念トスルノ舉アリ、伯林「ランゲンベク」會  
 館「ウィルヒヨウ」病院ノ如キコレナリ、更ニ一新機軸ヲ出ダセルモノハ  
 其人ノ祥忌若クハ誕生日ヲシテ、紀念ノ講演ヲ開クコトナリ、例之英  
 國ニ於ケル「ハーウエ」講演ノ如シ凡ソ此等ノ數法ハ既ニ我邦ニ行ハフ  
 テ顯揚ノ道略ホ備ハレリト云フト雖モ、紀念講演ノ法ハ獨リ未ダ實際ニ  
 行ハレズ。是ヲ以テ、我會ハ今新タニ蘭化講演ヲ創始シ、一ハ以テ先哲

ノ遺德ヲ頌シ、一ハ以テ學界ノ缺典ヲ補ハントス。蘭化トハ前野良澤先  
 生ノ號ナリ、先生ハ明和ノ初年、江戸ニアリ蘭學ヲ首唱シ、杉田、桂川  
 中川、嶺、桐山ノ諸家ヲ率ヒテ、解體新書翻譯ノ大業ニ從事シ、數年ノ  
 久シキヲ經テ、遂ニ其業ヲ大成シ、コレニ依リテ西洋ノ學術ヲ我邦ニ傳  
 ヘ、我が實驗醫學ヲシテ遂ニ今日ノ盛況ニ至ラシメタリ。其ノ功業ノ偉  
 大ナルコトハ、我が朝廷ガソノ學術上ノ功ヲ賞シ、明治二十六年特ニ正  
 四位ヲ贈ラセ玉ヒシコトヲ以テソノ一斑ヲ推察スベシ、先生ハ享和三年  
 十月十七日病ヲ以テ歿セラレシガ故ニ、我會ハ、毎年十月十七日ヲ以テ  
 定日トシ、左ノ規定ニ依リテ、紀念講演ヲ開カントス

一、蘭化講演ハ毎年十月十七日(前野蘭化先生忌日)ヲ以テ東京ニ開  
 會ス

二、蘭化講演ハ、左ノ事項ヲ限リ、其順序ニ從ヒ本會ニ於テ、講演者  
 ナ選定ス

第一 獨創的研究成績ノ報告

第二 専門學者ノ研究成績ノ報告

第三 碩德大家ノ講演

三、蘭化講演ハ毎回講演者一人ヲ限ル

右の主旨に基キ、その第一回講演は、去十月十七日午後四時より、東京醫  
 科大學法醫學教室講堂にて開かれたり、當日の講演者は、醫學博士藤浪博  
 士にして、演題は「所謂片山病の研究」を云ふにあり、從來氏が研究せら  
 れたることにつき、多數の圖畫及び標本を示して、明細に解説せられたり。  
 斯くて講演は、午後六時過ぎに終リ、後山上集會所に於て懇親の宴開かれ、  
 九時過ぎに散會したり。

當日此會に出席せられしは、石黒、岩佐、三宅、高松、宇野等の諸元老を  
 始めとして、三浦、山極、吳、土肥、樺手、田代、芳賀、宮島、北島、二  
 木等の諸博士、各教室の各諸士等合せて百數十名にして誠に盛況を呈せり

# 臨時脚氣病調查會彙報

東京第一衛戍病院内に設けある同會

附屬診療所にては一時は外來患者日々百名を超へ隨て入院患者も頗る多數ありしが、季秋に入て同症患者の減退と共に外來入院共に少く大に寂寞に趣きたれば、やがて自から閉鎖に至るべく、猶ほ同會にては北海道及び九州に於ける二三の炭礦に於て、坑夫に對し、食糧と脚氣病との關係を實際的に試験すべく、一方各炭礦會社理事者に交渉中あると共に一方には該試験の準備中ふりき聞く。

## 脚氣病原説

臨時脚氣病調查會委員中に新に脚氣病原説を唱導するは臺灣醫學教授ある稻垣長次郎博士にして研究成績は一昨年一月に公にしたる「脚氣婦人乳の蛙心に及す作用」の繼續作業とも謂ふべきものにして其大要は脚氣は米より生ずる一種の毒物に因るものありといふに在りて稻垣氏は米に向て「タカヂアスターゼ」或は種々の醱酵菌を動かせて未知の該毒物を發生せしめ之を蛙心に作用せしめ心臓の運動現象を觀察し又他の動物に作用せしむる時は脚氣症狀を起させるを實驗確定せりといふ

## 新潟縣醫師會總會

同會は昨年六月二十日午前九時より新潟市役所樓上に開會せられたり、出席者は各郡市醫師會代表者三十三名にして縣廳より平塚警察部長、小沼衛生課長、川上警部、岡田技手等臨席し、長谷川寛治氏會長席に就きて開會を宣し幹事長井千尋氏より前年度會務並に會計報告あり、役員改選に於て會長長谷川寛治、副會長瀨尾原始、幹事長井千尋、中村庸の諸氏重任し議事に入る。

- 一、新潟縣醫師會則第二十七條中の各郡市醫師會全數の三分二以上とある議員總數の三分二以上と變更する事
- 一、縣下出稼工女の癩病を救済する方法を協定する事（以上二項北魚

## 沼郡醫師會提出、可決

- 一、郡市町村醫を設置せられん事
  - 一、精神病院を縣立せられん事
  - 一、娼妓の檢査及驅逐施行の取扱方は全く分離せられん事
  - 一、看護婦產婆試験に相當の醫師を試験委員に任用せられん事
  - 一、非醫師にして醫業を營む者を嚴重に取締あらん事
- （以上五項新潟市醫師會提出、可決）
- 一、學校醫會議を毎年開催せられん事
- （以上一項新潟市醫師會提出、延期）

其他數項の議案ありしも否決或は撤回とありたり

- 一、「トラホーム」患者治療の實効を収むる方策如何
  - 一、種痘手術を切種法に一定し、之れが普及を圖らんこと、其方法如何
- 以上二項の諮問案に對し五名の委員を擧げて調査せしめ、委員より第一項に對して實施し得らるゝ町村にては健康診斷を行ひ、治療所を設置し、町村の費用を以て治療する事。第二項に對しては切種法を可とするは勿論あるも不熟練の者あれば適宜講習會を催す事に決せし旨報告あり、滿場一致之を是認し答申する事に決し、次に内閣統計局より特に出席せしめたる同局囑託二階堂保則氏の
- 一、死亡診斷書の記載方に就て
  - 一、一二死亡原因に就て

の演説あり、閉會後鍋茶屋に懇親の宴を張れり

## 新潟縣藥劑師會總會

同會は昨年五月十六日午後一時より長岡市商業會議所に開會せられたり縣廳より遠藤衛生課長、遠藤、八十川兩技手臨席し山田幹事より會務會計報告あり、役員改選に於て何れも重任し本年の總會は新潟市に開會する事に決し左の議事に決し左の議事に移る

▲處方箋其他に關し一定式を各地醫師會に交渉する件

▲工業用藥品取締規則發布請願の件

▲藥品巡視の結果公表を請願の件

▲各警察署に囑託藥劑師を置れん事を請願の件

▲毒劇藥極量超過の注意標(一)を前藥局方(▲)を記せる處方箋に對し調劑して差支ふさや

### ○新潟縣齒科醫師會總會

同會は昨年五月十三日午後一時より新潟市以太利軒樓上に開會せられ、會務、會計報告あり、役員選舉を行ひ議事に移り、次で遠藤衛生課長、小沼技師、青木技手より齒科衛生に關する注意並に希望談、會員の實驗談等あり終りて晚餐を共にしたり。

### ○山梨縣地方病研究に對する縣費の補助

山梨縣醫師會にては同縣東八代郡笛吹川及び中巨摩郡釜無川沿岸并に北巨摩郡壺崎地方に特に猖獗を極め居れる地方病即ち日本住血吸蟲病の病理、治療及び豫防法の確立を目的として、頃日同會附屬事業として地方病研究部あるものを組織し、部長に元縣立病院長醫學士崎田決氏を、其他委員十五名を推選せしとは既報の如くあるが、同縣衛生課にては該事業補助費として、年額金一千圓を本年度豫算に計上し、專任技師としては、多年この研究に熱心ある醫學士土屋岩保氏無報酬にて、之に應ぜらるるといふ、又去る明治二十六年山梨郡清田村なる杉山某女が本病の爲めに死亡し、進んで解剖を遺言せし者實に之が嚆矢にして、縣醫師會にては永世この德を傳ふべく、醵金を募りて建碑の企ありといへり

### ○山梨縣醫師會地方病研究

山梨縣醫師會は臨時總會を開き、同縣地方病たる日本住血吸蟲病の研究部

設置を議決し左の規則を議定せり、右に就き同縣は本年度千圓を補助する事に内定し、又醫學士土屋岩保氏無報酬にて研究主任とある由。

#### 山梨地方病研究部會則

##### 第一條

本部は本縣地方病たる肝脾肥大症の病原即ち日本住血吸蟲の發育狀態、進襲徑路等總て不明に屬するものを研究し而て之れが豫防及治療の方法を確立するを以て目的とす

##### 第二條

本部は山梨縣醫師會の附屬事業として經營するものとす

##### 第三條

本部には左の役員を置き縣醫師會會長之れを監督す

委員長 一人  
委員 十五人

##### 第四條

前項役員は本縣都市醫師會々員中より之れを充つ

##### 第五條

部長は縣醫師會に於て撰舉し委員ヲ縣醫師會會長之れを撰任す

##### 第六條

部長は當事業に關する事務を掌理し兼て部會の議長とありて議事を整理し其決議を縣醫師會會長に具申す

##### 第七條

委員は部長の指揮を承けて事務を分掌し又部會の議員とある部長の解任は縣醫師會の決議に依り委員の解任は縣醫師會會長及部長の協議に依る

##### 第八條

役員は總て名譽職とす

##### 第九條

部會は部長之れを召集し本部に關する緊要の事件を審議す

##### 第十條

部會は委員半數以上の出席を要し過半數を以て決す

##### 第十一條

本部に專任技師一名を囑託し及助手若干名を置く

##### 第十二條

都市醫師會々員は本部の技師役員を補佐して其作業を補助し研究の期成に努むるものとす

##### 第十三條

本部は特に縣外より來れる本病研究者に對して可及的便宜を與へ研究材料を交附し若くは應分の費用を補助する事あるべし



第十四條 本部は必要に應じ書記及人夫を雇入るゝ事を得

書記及人夫には相當の手當を給する事を得

第十五條 役員會技師の部務の爲め要する費用は別に定むる處により支辨す

辨す

第十六條 本部の經費は縣の補助及有志の寄附を以て充つ

第十七條 本部會計に關する規定は別に之を定む

第十八條 本部は作業の大要進行の程度及庶務の概項を毎年十二月迄に縣醫師會に報告すべし

縣醫師會に報告すべし

## ●東北醫學會の發展●

仙臺醫專校職員生徒より成る同會は從來臨時に例會を開きて、職員及び生徒の講演に充て毎年春季に於て特に一回の大會を催し、普く四方の杏林に會して講演を請ひ以て斯道の研鑒に勵みつゝありしが、本學年よりは大に刷新を加へて隔月必ず例會を開催するに決し、同校職員の出演は勿論特に市内の刀圭家の出演を歡迎し相呼應して東北刀圭界の發達を期する由。

## ●試驗廢止善後策●

東京醫會京橋支部より支部總會の決議を以て東京醫會に於て醫術開業試驗善後策に就きて講究せられたる旨本部に建議し前年度開催の本部總會に於て調査委員を設けられたる由は別項にも記したる通りあるが當日京橋支部の説明する所々に依れば現在前期に及第し又は後期學說に及第して未だ醫師さかり得ざる醫學生の數は恐らくは五六千人乃至六七千人にも及ぶべしこれ等多數の學生が若し醫術開業試驗廢止期に至るも及第せずして其方向に迷ふに至らば當人の不幸は云ふ迄も無きところ吾々は吾々と同じ學問を爲したる此多數の青年の不幸に同情せざること能はず、しかし此の同情は

單に個人に對する吾人の感情ふれば之れが爲めに必ずしも試験廢止に就きて云々するにあらずとも、之れ等多數の學生が試験廢止期に至りて及第せずに殘留するところれば必ず何等かの不祥事を惹き起すべく而して尙ほ其目的を達せざれば所謂非難者さかりて社會に害毒を流すに至らずとも限られず左れば此等多くの未及第者の數を一人たりとも多く減じ行くは法律の威嚴を保持する點より見るも社會の安寧を計る點より見るも頗る喫緊の事と云はざるべからず依て本會に於て十五名の委員を選び其方法に就いて調査せられたしと云ふにあり滿場一致委員附托に決し委員は一區一名とし左の十五名指名せられたり

河内全中	栗本東明	田村光顯
川上元治郎	高木喜寬	鈴木孝之助
八田宏吉	木村正孝	牧田清太郎
久世佳隆	今村重教	富田信吉
峰千尋	池邊棟三郎	田口篤信

委員諸氏は近日中に委員會を催ふし其方法に就き調査研究の後具體的の案を具して之を總會に報告し更に審議討論を重ねたる上東京醫會の意見として文部大臣に建議せらるゝことにあるべしと云ふ

當日京橋支部よりは參考として支部に於て調査せる二三の方法を報告せられたる由あるが其方法は

- 一、後期學說試験ハ各科目ニ就ギテ及落チ定メ次回ニハ及第點ヲ得サル科目ノミ受驗セシムルコト
- 二、實地試験モ内科ト外科ト別ニシ内科ニ及第シタルモノハ次回ハ外科ノミヲ試験セシムルコト
- 三、文部省ニ於テ講習會ヲ設ケ試験委員中ヨリ講師ヲ命シ後期學說學科ヲ講習セシムルコト、但シ相當ノ講習料ヲ徴收スルコト勿論ナリ
- 四、永樂病院ニ於テ臨床講義ヲ開キ後期學說及第者ニ限り相當ノ聽講料

ヲ徴シテ聽講セシムルコト

五、學說及第者ニシテ試驗料ヲ納附シテ實地試驗ヲ乞フモノハ直チニ永樂病院ニ於テ試驗ヲ受ケシムルコト

六、全國ノ然ルベキ官公私立病院又ハ相當ノ開業醫ノ下ニ於テ一年以上實地ノ練習ヲ爲シタリトノ證明アルモノハ試驗委員ノ銓衡ヲ經テ實地及第者ト看做スコト

等ありと云ふ。因に會て後期試験を學說と實地とに別ちて受験者の負擔を二分するに至りたるは内務省にて東京醫會の建議を容れたるに依るものなりと云へり

## ○齒科醫育に關する意見

東京齒科醫會の調査委員及明治醫會の齒科醫育調査委員が文部省専門學務局長を訪問し田所栗本兩試驗主事及瀬戸視學官石原試驗委員等列席の上諸々意見を開陳せられ其際田代博士は一個の意見として左の如く述べられたりと云ふ(日本醫事週報抄)

吾人は齒科醫と普通醫とを判然たる區劃の下に置かるべきものあるを信ず而して齒科醫の養成につきては其の教育方針は全然學校教育に委すべきものにして決して試験制度に取るべき者にあらざる要するに試験は一方の方便にして時勢の已むをざる結果試験をふしつゝある者あり而して自己の理想としては齒科醫に今少し醫學一般の知識を注入するの要あるを見る又は同時に一般普通醫に對しても亦或程度の齒科學的知識注入の必要あるを見ずんば非ず而も斯く兩者に其知識交換を強るも尙醫者と齒科醫とは全然別箇のものありとの本旨を没却すべからず。元來齒科受験生の資格は未だ今日に於て程度の低きものあれば之に充分普通學の修養あらしむるを可とす即ち少なくとも尋常中學卒業たるを要せしむべし而して是等卒業生に

各三ヶ年の齒科學的教育を施したる後、初めて是を齒科醫師と稱せしむべし。齒科醫と普通醫との區劃を明瞭にする事は甚だ具體的に表すは困難なれども茲に比較的容易に是等の境界を知らしむるに吾人は

第一齒科醫に全身麻酔を絶対に禁止せしめんとす要するに全身麻酔は齒科醫に甚だ重要なるものと稱するをわす、且つ充分なる醫學の素養なくんば是を施しうるものに非ざるを以て如何に齒科醫の程度を高めたりとするも或は如何なる條件の下にも絶対に齒科醫は全身麻酔を應用し能はざるものと決せん

第二に内服藥に劇藥及び毒藥を處方する事を禁止せんと欲す、聞くが如くんば齒科醫には種々ある内服藥を患者に用ふる者ありと云、尋常藥ならば或は可あらんも劇毒藥は醫師との區別上是を禁止せざるべからず。

齒科試験は從來の如く口腔外科を課するを否ふまざれども是も狹義の意味に於てせざるべからず。齒科醫にして例へば口腔内の梅毒診斷もふし得ずんば甚だ不都合ある事されども是を外科一般に求めて是等の手術及び診斷等口腔に起り來る一切の疾病をいふに非ず、必ずや其中心を齒牙に置ける外科的の疾病に限らざる可からず。

而して齒科醫には尤も充分なる技工的發達を望まざるべからず、腫物の切開等に其の力を傾注せんよりは寧ろ充填さか義齒さかの方に完全無缺の發達を期すべし、齒科學界今日の隆盛は一に其の技工學の發達にあれば發達したる技工を益々尊重し保存して進歩發達せしめざる可からざるや論をまたす萬一現在の試験制度が齒科技工に重を置かざるならば速に是を改良せざるべからず。

齒科醫に課すべき學科目は、是を佛國制度よりとりて、生理、解剖大意、を置き、其の次項に口腔の生理及び解剖を置く可とす、かくすれば今日の如く齒科試験に呼吸器に就ての問題ありたりとも少しも物議を起す事無かるべし、齒科試験委員には普通醫及び齒科醫を混用す

る事諸外國皆然り。

然れども醫師試験と同様あるべからざるは上段述べ來れる如し。試験委員たる者は齒科醫は醫師と異なる所あるを固く記憶せざるべからず。

齒科醫學專門學校には醫師の教師の數名任用すること必要あり而して吾人には醫師にも亦ある齒科的觀念の養生に勉むるの必要なるを思ふ、醫科大學あり、專門學校ありの生徒に向つては宜しく齒科に關せる疾病の注意を拂はしめ醫師の好むによつては是を以て齒科醫たる事も得せしむべし、醫師は全體身體いづれの部分をも治療する者あるを以て、獨り齒牙に關して治療しむるのみ云ふ理あるを見ず唯齒科醫師法と普通醫師法と二種に法律の存在する限りは何等かの方法に由りて齒科醫の權利を保護するの必要あるを見る、即ち其には普通醫が齒科醫たらんせば、一般醫學修了の上一年かり半年かり齒科學校内にありて必ずある程度の技工的修養を爲さしむるべし是ぞ齒科醫に向つて普通醫が拂ふべき當然の尊敬からずや獨乙に於ては殆んど醫師と齒科醫師との區別や判然せざる程、齒科學の程度が醫學の方に高尙に進みたる者ふれども吾人は、かくまでにするの要あるを見ざる也。要するに齒科醫學の程度を向上せしむるには異議なければ共そは齒科的に向上せしむるの意味にして醫師と同一にすべし云ふにあらす

### ●齒科醫育問題●

文部省は齒科試験委員大學助教教授の石原久氏をして、五十人を教育するに幾許の經費と、如何の方法によるべきかを調査せしめつゝあるが、其調査が完了次第、若し早ければ本年度の追加豫算とし、直ちに本年四月より學生を募集する方針なりと。石原久氏の考案せる東京醫科大學内にて教授する件は青山學長も賛成の趣にして、又修業年限は四ヶ年、入學程度は中學卒業以上といふが動かぬ所ありといふ。

### ●東京市施療病防工程●

陸軍大學構内の東京市施療病院は本年中

には是非共竣成開院の豫定あるが、未だ工事には着手せず、只僅かに地域の周圍に竹矢來出來たる位にて、地盤工事も一向に進捗せず、尤も目下土木課に於て設計中あるを以て本年中には建築を請負はしめ工事に着手せしむる筈也、而して過般の市會に於て決定したる經費にては不足あるを以て二三千圓を追加要求する由ありと聞きしが昨年十一月十七日より先づ土臺工事に着手せり、落成は昨年十月頃の豫定あるが、今回は經費支出額も市會にて決定されし事あれば、落成豫定のくるふ事ふかるべし。

### ●大阪市の施療病院計劃●

昨夏大阪北區の大火に就て、全國の篤志者よりの義捐金總額は七十一萬餘圓に達したるが、此内金四十萬圓は各罹災者に分與濟とあり、目下は尙三十一萬餘圓の殘金あり、此殘金處分法に就ては種々市當局者も協議せし結果、火災紀念の爲め慈善事業を創むるに一致したるが、如何なる種類の慈善事業とするかは諸説紛々として久しく決せず、或は貧民學校を設くべしと唱ふるもの、或は慈善病院を設立せよと叫ぶもの、或は孤兒院的のものとすべしと説くもの等あり、遂に調査委員七名を選んで調査せしむる事となりたり、右調査委員中には醫師側として大阪市衛生技師北豐吉、桃山病院院長増山正信、市の衛生課長傍士定治氏の三名あり、種々意見を交換したる結果、現下大阪市中に於て慈善事業も缺如せるは施療機關なり、彼の貧民學校其他の事業は急施を要せざるのみか種々の攻撃も生ずるを以て、慈善病院を設立するに若むすとの議纏り、目下既に北技師の手にて起案中なり。數日中には更に全委員會を開き、北氏の案に就て協議したる上更に市參事會に提出する筈なるが、市參事會及市會の多數も皆慈善病院設に傾き居れるを以て、右の三十萬圓の義捐殘金は、早晚施療病院設立費に支出するからんといふ。

### ●大阪市の施療病院設立の建議●

一昨年七月廿一日大阪北區大

火の罹災救済として諸方より大阪市（寄贈せる義捐金の一部を割き以て施療院を設立せんが爲め大阪市醫師會にては大阪市長并に大阪府知事に宛て施療病院設立を建議したり其の理由書左の如し

大阪市商工業ハ年々長足ノ進歩ヲ爲スニ伴ヒ街區、建築、治水、救恤等衛生ノ施設着々具備シツ、アルハ、爲政其宜キヲ得タル結果ト市民深ク欣慶スル所ナリ。然ルニ、此ノ大市ニシテ未ダ一ノ純然タル施療院ノ設置ナキハ衛生上ノ一大遺漏ニシテ、本市ノ爲メ甚ダ之ヲ惜ム曩ニ北區大火ニ對スル救済ノ義金ハ災民分與ノ法ヲ講ジテ、尙ホ剩リアリト聞ク、希クハ此ヲ用テ純然タル施療院ヲ建設シ、無告ノ病者ヲ救療シ得ルニ至ラバ管ニ市民多年翹望ヲ滿タスノミナラズ、又以テ志士仁人ノ溫惠ヲ永遠ニ存スル事業ナリト信ズルニ在リ

### ●京都施療院建築敷地●

同院の敷地につきては既記の如く、御苑内舊圖書館の一部を交付せられ智恩院境内櫻馬場北側に移轉することゝあり、山内既成院の移轉跡空地を借入れ、同院の移轉工事は施療院に於て引受くる筈あるも、借入年限につきて施療院は二十ヶ年とせんとし、既成院は十ヶ年にせられんことを希望し折合はざりしかど、交渉の結果、十五ヶ年と決定し、内貴施療院協會長及び幹事一同は實地に就て検査し敷地を決定したりといふ

### ●石川縣「トラホーム」豫防法●

東宮殿下行啓の際御心に留めさせられし結果、本年度より左の施設をふす云（一）縣にては（イ）眼科専門を縣醫とす（ロ）高安眼科博士を顧問兼講師となすこと（ハ）町村貧困患者の強制治療費三分一を補助支出のこと（二）郡市に在ては豫防講習會を開き町村醫と校醫とにて本病の豫防及治療法を講示すること（三）町村に於ては（イ）町村醫及校醫の一般人民検診（ロ）強制的治療（ハ）郡醫の講話

### ●横濱の「ベスト」豫防的猫飼育●

「ベスト」豫防のため横濱市にては昨夏以來猫飼育を奨励し、今日迄に規定の飼育手宛を交附せし數は殆んど三千頭にして、金額千五百圓に上り。最近調査に係る親猫の數は、九千二百三十七頭と稱し、猫兒を合して一萬二千二百卅九頭となり。平均五月に對して約一頭の割合なりと

### ●臺北醫院の近況●

昨今の患者數は氣候の冷氣に伴ひ漸く減少を呈し昨年夏期に於て最も多數なりし時は一日の入院外來患者合せて八百以上に達したることありしも近頃に至りては一日の總患者五百名内外なり而して現在の入院患者は内地人百五十三名にして本島人は四十四名合せて百九十七名にして之れは舊患者は極めて少ふし入院患者最も多きは外科の六十九名にして次は内科の五十二名婦人科の二十八名小兒科の十六名眼科の十二名等なり又外來患者數は内地人二百八十九名、本島人八十一名合計三百七十名あり此中外科の百三名、眼科の八十二名耳鼻咽喉科の六十四名等あり其多數を占め次は内科の四十二名皮膚科の四十名婦人科の二十三名等あり、又豫てより工事中の増築病室は殆んど落成に近づきたるも未だ室内の一部に竣工せざる處ありて患者の收容をなすに至らざるも數日中には全部の工を終るべき筈なりと

### ●臺北仁濟團の施療患者●

臺北醫院に於て取扱たる臺北仁濟團の施療入院患者は合計十二名にして其詳細は左の如し

病類別	内地人	本島人	計
内科	二	一	三
外科	二	一	三
婦人科	三	一	四

眼科	一	一	二
小兒科	一	一	一
合計	九	三	一二

### ○藥劑師一人に對する醫師數

去る四十年の調査に依れば、現在藥劑師名簿に登録し居れる藥劑師は、總計三千八百十二人にして之を種類別とせば、藥學士（製藥士を含む）百五十一人、得業士（醫學部藥學科卒業生も含む）四百八十四人、開業試験及第千五百七十七人、舊試験千六百六十四人なり、此外外國人藥劑師廿一人あり、是れを醫師總數に割當るときは藥劑師一人に對し、醫師九人五分に相當せり、然し東京にては藥劑師一人に對し醫師四人と四六に該當せり然し其多くは會社員又は官吏に從事し専門的職業に従事せるものは僅に、其五分の一と見て可あり、而して東京にて所方箋を藥劑師に交附する醫師は僅に七八十名に過ぎず（醫師三千二百廿五人の中開業を半數以内とし藥劑師は七百十九人内五分一を開業）とせば、其他の府縣は推して知るべく、試に三千八百餘の藥劑師の就業を調査せば、全國官公立私立病院七百七十七個（四十年一月内務省調査）にして、假に官公立病院に平均二名、私立病院に各一名宛使雇し居るものとせば、官公立病院百十二個所に二百廿四名を要し、私立病院六百六十個所六百六十人を要すべし合計八百八十四人あり此外陸海軍の藥劑官（現役）陸軍百十四名、海軍二十名と、府縣藥品巡視官五十四名、計一千〇七十二名は確實に就職し居れるものあり、其他、官公私の試験所、製藥會社等に從事し、兎も角も修得せし學術を應用し居れる者三百内外ありとす、殘餘の二千五百餘名は、賣藥兼藥種商にして本業の調劑を以て生活し居れるものは醫科大學及各醫專校所在地の藥劑師中全國を通じて、僅に百名に達せざるあり、如斯藥劑師と醫師との業務關係の疎あるより見れば、藥劑師一人に對し、醫師は約四十人と見て可ありと云ふ

（内地雜報）

### ○開業醫千名以上の府縣は左の如し

東京府、三千二百廿五名。大阪府、千三百名。兵庫縣、千百六十六名。新潟縣、千百廿名。愛知縣、千三百九名。廣島縣、千三百五十六名。福島縣、千五百廿六名。熊本縣、千百〇一名。鹿児島縣、千二十一名。

### ○病原菌及び劇藥類の郵送規則

病原菌及び劇藥類は、從來郵便にて送ることを嚴禁し居りたるも、十月二十七日、逓信省令を以て、郵便規則を改正し、その禁を解けり

#### 第一條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 爆發性、發火性其ノ他郵便吏員ニ危害ル加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件但シ爆發性、發火性以外ノ藥品及生活セル病原菌含有ノ疑アル検査材料ニシテ別ニ定ムル所ニ依リ特別ノ包装ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

右に關する包裝規則は次の如し

#### 第十條 危險性ノ藥品ハ官公署、軍隊、海軍艦船艇、軍衙、醫師、齒科

醫、獸醫、藥劑師、製藥者若ハ藥種商又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外尙左記各號ノ包裝ヲ爲シタル郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得但シ爆發性及火性品ノ藥品ハ此ノ限ニ在ラス

一 藥品ノ種類ニ應シ一定ノ容器ニ藏メ内容ノ漏出ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲スコト

二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル樣堅固ナル箱ニ納ムヘキコト

三 内容ノ動搖ヲ防ク爲容器ト外箱トノ間隙ニ綿又ハ之ニ代ルヘキモノヲ充填スルコト

四 二種以上ノ藥品ヲ合裝セサルコト

第十一條 生活セル病原菌及病原菌含有ノ疑アル検査材料ハ官公署、官

許テ受ケタル細菌検査所、醫師、獸醫又ハ特別ノ規定ニ依リ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外尙左記ノ各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得

一 少許ノ分量ヲ定メ硝子壺又ハ硝子管ニ納メ護管ヲ施シ蓋帽ヲ以テ該栓固定シ又ハ管口ヲ溶閉シ容内ノ漏出ヲ防クコト

二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル様縮其ノ他ノ柔軟ナル物體ヲ以テ之ヲ被包シ鐵葉製又ハ金屬製ノ罐ニ入レ密封シ更ニ之ヲ堅固ナル箱ニ藏ムルコト

三 内容ノ動搖ヲ防キ且萬一破損スルモ其ノ液體ヲ吸收セシムル爲前號ノ罐ト箱トノ間隙ニ適量ノ綿又ハ之ニ代ヘルヘキモノヲ填充スルコト

第十二條 第十條及第十一條ノ郵便物ニハ其ノ表面見易キ場所ニ「危險物」ト朱書シ且差出人ノ資格ヲ記載スヘシ

○長崎醫學專門學校規則中改正  
校の規則中左の通り改正せり

本校規則第五章 卒業試験規程

第二條 試験ハ理論及實地ニ就キ施行シ第一及第二試験ニ區別ス

醫學科 第二試験科目 內科學、外科學、眼科學、產科學、婦人科學、衛生學右科目ノ外衛生學ノ次ニ細菌學ヲ加フ

藥學科 第一試験科目 藥用植物學、分析學、生藥學、右科目ノ外生藥學ノ次ニ藥品工業學ヲ加フ

第十一條 左ノ如ク改正シ新ニ第十三條ヲ追加ス

第十一條 明治四十一年以後ノ本校卒業業者ハ其修了シタル學科ニ隨ヒ長崎醫學專門學校醫學士長崎醫學專門學校藥學士ト稱スルコトヲ得明治四十年以後ノ本校卒業業者ハ醫學得業士藥學得業士ト稱シ自著ノ論文ヲ

提出シ審査ヲ受ケ合格シタル者ハ亦長崎醫學專門學校醫學士長崎醫學專門學校藥學士ト稱スルコトヲ得

但本校卒業業者ニシテ元尋常中學校ヲ卒業セス本校所定ノ元尋常中學校又ハ中學校卒業程度以上ノ入學試験ヲ經ス特ニ入學ヲ許サレタル者ハ學士稱號ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 明治四十年以前ノ本校卒業業者ニシテ學士ノ稱號ヲ請求シ審査ヲ受ケント欲スル者ハ自著ノ論文ヲ提出シ履歷書及檢定料金二十圓ヲ添ヘ願書ヲ本校長ニ差出スヘシ

○大日本私立衛生會  
同會にては、豫てより、麴町區、大手町通一丁目ニ事務所を新築中ありしが、此程その一部落成したるにつき、傳染病救濟金庫及び長興衛生文庫と共に、昨年既に同所に事務所を移轉せり云ふ

○新藥の取締  
內務省に於て新藥取締規則制定の議ありて中央衛生會に諮問せる同規則案の内容は略ぼ左の如きものあり云ふ

(一) 藥劑師藥種商又ハ製劑者何レノ藥局方ニモ記載セザル藥品又ハ製劑(藥局方之ニ記載シタル藥品ヲ用ヒテ製造シタルモノヲ含ム以下微之)ヲ新ニ製造發賣シ輸入發賣セントスル時ハ見本品ヲ添ヘ其成分又ハ製造法ヲ記載シ地方長官(東京府ニアリテハ警視總監)ニ届出ツ可シ

前項ノ藥品又ハ製劑ト同一品ニシテ名稱若クハ製造法又ハ製造元ヲ異ニスルモノニ關シテ亦前項ニ同ジ

(二) 何レノ藥局方ニモ記載セザル藥品又ハ製劑ハ容器又ハ包紙ニ其成分又ハ製造法ヲ記載シタルモノニ非ザレバ販賣又ハ授與スルコトヲ得ズ但シ本令施行前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ此限ニアラズ

○藥局巡視

新潟縣北蒲原郡水澤町醫師添山順治氏は藥局巡視員の爲め、其調劑所に黃色酸化汞を記載せる硝子罐に赤色酸化汞而かも日本藥局方に適合せざる藥品を貯藏し居りたる事を發見せられ藥品營業竝に藥品取扱規則廿六條違反として告發せられ、其藥品は藥劑師封緘の儘にして破封せられざりしものあることは認められながら、日本藥局方に適合せざるや否やは包裝に依りても略ぼ判定するを得るのみならず、黃色あるや赤色あるやば外見上判斷するに困難あるべき理由無しこの理由を以て、新潟地方裁判所新發田支部に於て有罪の宣告を受けられたれども、控訴に依り東京控訴院に於て無罪の宣告を受けられたり

○大連の藥業株式會社

大連の藥業者中藥業株式會社の設立を計畫せるものあり同志者の間に餘程其計畫進行せるが資本金は十萬圓にて廣く一般同業者間より株式を募集する筈にて特に内地取引先及西藥業者等も其販路の關係上必ず賛同すべく遠からず成立を見るに至るべしとの事あり

○關八州藥業大會

關八州藥業大會は七日より三日に於て開催せらるべく東京よりは大學教授山下順一郎内務省技師池口慶三の兩氏出席の爲め六日午後八時二十分同所へ向け出發したり

○學位授與

去る十月十八日文部省に於て二木謙三、照内豐、森安連吉の三氏に對して學位記を授與せり、提出の論文は左の如し。

福島縣平民從六位 照 内 豐氏

「コブラ」蛇毒の血球溶解表及其抗毒素素及「レチン」の結合體に於ける脾液の作用(獨文)

無機鹽類の存せざる液體中に於て補體(「コムプレメント」)の「イナクチュール」に就て(獨文)

ハ、サツクス合著

西洋樅の質(「ビセア、エキセルサ」)より製成せし蛋白質の組成(獨文)

エ、アブデルハルデン合著

大の體內に於て數種「アミノ」酸及合成蛋白質(「ペプチド」)の分解に就て(獨文)

エ、アブデルハルデン合著

動物の臟器滲透液の數種「ペプチド」に於ける作用(獨文)

エ、アブデルハルデン合著

數種動物臟器の壓搾汁及大の腸液の「ペプチド」(合成蛋白質)分解作用に就て(獨文)

エ、アブデルハルデン合著

植物起原の數種蛋白質消化素に就て(獨文)

エ、アブデルハルデン合著

絹絲より「チロゲン」の製法(獨文)

エ、アブデルハルデン合著

數種の「アミノ」酸及「ペプチド」(合成蛋白質)の培養液中「アスベルギルス」ニ「ゲル」の培養試験(獨文)

エ、アルデルハルデン合著

秋田縣平民 二木 謙 三氏

血清能動力と細胞喰菌現象(獨文)

マツクス、グルーベル共著

脾脫疽菌に對する抵抗功並に其抵抗物質の由來に就て(獨文)

マツクス、グルーベル共著

脾脫疽菌に對する抵抗力に關する續報(獨文)

マツクス、グルーベル共著

岡山縣平民 森安連 吉氏

癲癇性癱瘓ニ於ケル神經原纖維ノ狀況(獨文)

癲癇症ニ於ケル神經原纖維ノ變化ニ就テ(獨文)

振顫癲癇ノ病理解剖ニ就テ(獨文)

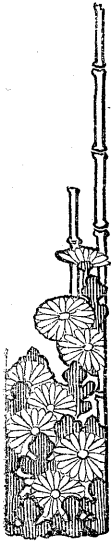
緊張病ノ病理解剖補遺(獨文)

### ○三博士在職祝賀會計書

緒方正規博士の方は、釀金メ切りは昨十二月一杯ある、今日迄に已に四千三百餘圓に達し豫定の三千圓を越ゆること壹千餘圓の巨額に上りたり、計劃の内容は已記の通り論文集を刊行すること、名手の筆に成れる油畫を一枚は博士に呈し、一枚は衛生學教室に掲ぐることに決定し已に某畫伯に依頼したり、尙ほこの外紀念品として贈呈すべきものに就き、岡田(和)博士、森林太郎博士、丹波藥學博士の三人相談の上決定すべし▲小金井良精博士の方は釀金は陸續申込あり、メ切りは本年末のこと、論文集刊行の他未だ計劃なし。▲藥物學教授高橋順太郎博士は去る十八年十一月東京大學醫學部の教職に就かれ本年十一月は在職廿五年に相當するを以て猪子博士を筆頭に同期生、門下生相謀りこの日を卜して紀念祝賀會を開くこととなり釀金募集の發表は既に發表せるが、聞く處によれば論文集は刊行せず肖像寫眞並に紀念を贈呈する答あり。

### ○松浦博士片山病に罹る

今夏片山病調査の爲め、藤浪博士等と共に廣島縣深安郡の同病源地に向ひたる京都醫科大學の松浦博士は、歸路後該病に冒され目下治療中あるが右は同氏が病源地滞在中日夕脚部を溝中に浸して「カブレ」を生ぜしめて、寄生蟲の試験に餘念かりしに基因するものゝ如く、即ち無異義の中に博士自身を人體試験に供せし譯にて、其道に忠ある、賞讀に値すべし、病狀の今後に就ては同僚藤浪博士は左程重態に非ざれば大して心配するにも及ぶまじと言明しつゝあるも、何卒療養一日も早く快癒せられむ事を祈る



## 海外雜報

冥

### ○ロンブロー博士の病歿

ロンブロー氏は伊太利の精神病學者にして、また心理學及び人類學の大家なり、其名聲は、天下に嘖々として、何人も知らざる莫し、近者悲報の傳ふるところによれば、病のため歿せりと云ふ、博士はもとウエローナに生れ、父は商賣ありしが、博士稚くして、好學嗜書、言語學、史學を修め、年甫めて十二の時、已に羅匈語と希臘語とを話し、十四歳にして、羅匈語にて「羅馬の頽廢」と題する一書を著し、言語學者マルツオロに知られて、同氏につきて、ヘブリユ語、支那語等を修得せしが、後パツア大學に入りて、醫學を習ひ、後にパウイア、維也納等の大學を歴訪し、再びパツアに歸りて、刀圭の業に従へり一千八百六十二年、博士は、パウイア大學の精神病學と法醫學講師となり、専ら學術の研讀を事とせり。斯くして、博士の篤學勤勉は、大學の内外に聞け、一千八百六十四年パウイア大學の教授とされり、その精神病院の長に任ぜられたり。この時開講演說として、「天才と精神病」と題するものは、當時學界の推量する所となり、博士の名籍益々擧るに至れり。一千八百七十六年ウリン大學の權教授となり、精神病學及び法醫學の講座を擔任せり

ロンブロー博士は、又犯罪者研究の一新紀元を開きたる人にして、犯罪者の身體と、犯罪との間に於ける關係を發見し、刑事人類學と稱する一學科を創立し、犯罪者の人格に注意すべきことを主張し、刑法及び監獄制度の改革を稱へたり



千九百六年、博士の古稀の祝賀會をチャウリンにて開かれたる時の如き、豐饒として、壯氣天を突くの概ありしを、今や病んで、遂に起たず、まことに學界のために悼惜の情に堪へずと云ふべし

### ○海外近信

近著の醫事月報より興味あるものを左に抄録せり

本年九月二日バルンハルト、ナウニン先生は其七十の賀を祝せられ候、先生の糖尿病に關する業績に至つては人口に膾炙する所にて、糖尿病の榮養療法は全くこれを先生の功に歸せざるべからず候

近頃佛國の大富豪ネシリ氏はバステール研究所に三萬フランを寄附致し候、オシリ氏は嘗てより毎三年毎に學界に最も功績ありたる一人に七萬「フラン」を興へ居り候、而してこの最初の懸賞を受けたる人は「バステール」研究所のルー氏にて候、ロンドン、ボストン、紐育及チューリツヒ市に於ては既に女醫のみよりある病院を有し候ひしも、伯林にては今度初めて女醫のみよりある病院の新設を見申し候

伯林に於て八月廿三日に第五回萬國齒科學會の開設あり、會長としてはマルグホーフ教授之に當り候、同時に齒科に關する博覽會を開催致し、その歴史部は殊に一般の興味を引き申し候

露國モスコ―大學外科教授ペーテルチアコノ―氏は動脈硬化症及心筋炎にて五十四歳を以て逝去致し候、司氏は露國有名の外科醫にて候、晩年萬國共通の醫語として「エスベラント」語を用ふべしと唱へ、既にモスコ―に於て「エスベラント」醫會あるものを設立したる人にて候

獨乙にては近頃處々に前角炎の流行を見受け候  
龍動に於て熱帶病の新研究する The Entomological Research Committee は開設せられ候

維納に於ては近頃流行性腦膜炎の死亡率多きを以て、その診斷及處置に就て一般の注意を促し候、治療としては「メニンゴコクセン」血清を最も推賞

致し候

本年四月英國に於て小兒の保護に關する新法律の發布あり、その内二三を摘記すれば、少年裁判所を設け、大人裁判所を全くこれを分離せしむること、小兒の保護或は小兒の教育、又は小兒の監督を怠りたる両親に對しては、その責任を明かにせしむる等、凡て百三十四の條文よりあるものにて候、夫婦本位の英國が漸く親子本位に移行し行くは喜ばしき限りにて候  
巴里醫學會に於ては當時癌の研究は學界の焦點となり居り候、從て癌に關する新事實が續々發表せらるゝは斯界の爲めに喜ばしき現象にて候、その新研究の一端を紹介致せばローラン教授は癌の療法として輸血法を推賞致し候、勿論癌に關する特殊療法には非ざれども、手術後一般療法の補助療法としては缺くべからざるものにて、たゞ困難なるは新鮮の血を得ることにて候、「バステール」研究所に於けるチーグル氏は鼠癌の接種試験にて鼠に普通の食餌を興へず、食鹽含量少ふき食餌を興ふる時はその接種困難なる事實を發見致し候、即ちこの事實は語を換へて言はば食餌によりて新生物の基礎を變化し、その感受性を少くせしめ能ふことと相成候と尙面白き事實は鼠にありても癌の感受性は年齢との間に一定の關係を有するものにて、六―九箇月の鼠にては、その感受性は二%あるも、二十一個月のものにありては殆んど三三%を算し候、即ち鼠にありても人間と同じく年齢の關係を見うけ候

世界に有名なるゲヨルベルスドルフに於けるブレイメル氏肺癆院長としてグラフト教授の代はりしめてドクトルソボタ氏任命せられ候  
ハルレー大學のウエベル博士は八十の賀を祝せられ候

曩きに有名の婦人科教授ファンチンスチール教授(キール大學)ルンゲ教授(月沈原大學)を失ひたる獨逸大學は又本年八月九日ウッシーン大學婦人科教授アルフホンス、フオン、ロストホルン氏を失ひ申し候。氏は一八五七年の誕生ふれば本年五十一歳、尙未來を有する人にて痛惜の至りに御座候。

初めウヰーン大學にて動物學を專攻し、後ち醫學に移りたる人にて候。著書として有名なるは(女子生殖器疾患)(骨盤結締組織の疾患)にて、其他の業績は醫事雜誌に屢見受けられ候。特に注意すべきは晩年女子生殖器と精神との關係に就き研究せられたるものにて候。數週の内に三人有名なる婦人科教授を失ひたる獨逸大學の損失はさこそと存じ候、謹んで弔意を表し候。

紐育市に於て本年初めて黒人の爲めに結核豫防會の設立を見たるは誠に喜ばしく候。パナマ運河の勞役人中の死亡者の最多數は「マラリヤ」の由にて候。ミュンヘンに於て有名なる眼科醫カール、テオドル氏は七十の賀を祝はれ候。

### ●海外に於ける我醫師●

昨年六月末に於ける海外各國に散在せる邦人職業別に就き、外務省の調査に依れば清韓、露、沿海州、米、英、暹國等東洋に接したる國及屬領地等に於て、邦人のみに對して醫術を行ひ居れる者、約七百九十餘名あり之を昨年に比するに約二百餘名減少したるありと而して右減少したる部面は、米國、韓國、メキシコ及浦墮附近ありと。

### ●ホフマイエル博士逝去●

獨乙ウルツナブルロ大學教授にして有名なる婦人科醫たる博士は此程ロンドンに休暇滞在中遠逝せられたり、博士は一千八百五十四年ルーゲンに生れ享年五十五歳本邦留學生の教を受けたるもの少からずと、痛惜の至りに堪へず。



## 醫校雜報

### ●京都醫科大學の講習科●

同大學にては本年二月一日より講習科を開設せらるる筈なるが募集人員一科十人以上五十人以下とし志願者は去月二十八日迄に願書を差出せる筈といふ、尙ほ其科目及び擔任講師氏名左の如し

- ▲眼科重要なる眼症の診斷及び療法(教授醫學士淺山郁次郎) ▲皮膚病
- ▲皮膚病 ▲皮膚病學花柳病學外來患者臨床講義(教授醫學博士松浦有志太郎)
- ▲衛生科「オプソニン」療法及び臨床細菌學(教授醫學博士松下祐二)
- ▲整形外科 整外科學およびその理學的療法一般(教授醫學博士松岡道治)
- ▲病理科 疾病の發生及び治療(教授醫學博士速水猛)
- ▲小兒科 小兒科學講義および患者供覽(助教授醫學士三浦操一郎)
- ▲精神病科 臨床精神病學(助教授醫學士樋口辰助)

### ●京都醫科大學の業績及新築●

去卅三年同大學開學以來、同學に於けるアルバイトを英文にて編纂し、日英博覽會に出品する事さあり目下編纂中あるが同大學中にて最も見る可き業績の多數あるは醫科なる由あり、何れ他日紹介する所あるべし。因に同學に於ける前年來の繼續事業として明年度着手すべきものは眼科教室及病室精神病教室及病室其他一棟なりと、又尙爾來建築中ありし法醫學教室は竣成し已に移轉したりといふ。

### ●福岡醫科大學學術集談會●

同學職員に奉職員に奉職せる諸氏の組織せる學術集談會は、専ら深奥なる專門的研究の結果を發表し、互に

智識を交換し、最新學術の進歩に遅れざらんことを期するにあり。而して、毎月一回第三木曜日午後三時より、開會することに決し、去十一月二十一日其の第一回集談會を衛生學教室に於て開く、其演題は如左。

Über einige neuere Kulturverhältnisse Typhusbacillen-Nachweis, Herr Dr. Ohira, (大平助手)

Über die Zuckerlösungen mit Ammonium-nitric. od. tartar. zur biologischen Differenzierung der Paratyphusbacillen, Herr Dr. Akashi, (明石助手)

Atropine u. Chemozeptoren.

Herr Prof. Dr. Miyairi.

(宮入教授)

上述の性質あれば、一般に公開せざるにより、學生其他開業醫の傍聴を許さず、開會方法等は最近歐羅巴にて行はれつゝある所に則り、隨時各自教室にて催し、教授、助教授中いろは順にて、二名の當番幹事を置き、會務を處理し、各講演は其要領を筆記し、次回の集會席上にて幹事が報告する都合あり、尙ほ當番幹事は、一學期交代にして、今回は伊東、石原兩教授かりし。

### ○金澤仙臺兩醫專校改築費

屬々世評に上りし本校改築費は最初三十六萬餘圓の豫算なりしが、明年度に於ては十一萬圓だけ大藏省に認められたり故に議會通過の上は一部教室より着手する由、又仙臺は臨床講義室改築費十二萬圓餘を要求し居れるもこは大藏省にて尙調査中にして決定に至らず又其他の各醫專校よりの要求せし經費は殆んど全部却けられたる由。

### ○新潟醫學專門學校工程

新潟醫學專門學校は本年九月より開校の事に決定し、第一期工事として生理、藥物、化學並に解剖教室等都合

七棟の新築を入札に附し、工費六萬圓にて落札し。昨夏以來工事に着手し既に地固めを竣へたるを以て不日建築に取掛るべく、又附屬病院は當初の設計に多少模様更へをふしたるを以て目下圖面調製中あれも出来次第入札に附せらるべく、同校教授も既に夫々内定せりと云ふ。

### ○名古屋醫專の改築難

同校々舎及病院の新築計金は屢々記載せしが、愈々本年六月より着手する事に決せり、敷地は豫記の如く新公園の一部にして今春近府縣の合併共進會閉會後に直ちに建築に着手する由あるが、其經費は學校金二十五萬圓、病院三十四萬圓、合計六十萬圓の豫算にして、全部落成は來明治四十四年九月頃あらんといふ、此新築落成と同時に、豫ての約束通り、文部省に寄附して官立醫專とする由あるが、唯茲に困難なる問題は、例の職員問題にして、愛知縣は學校を文部の管轄に移すと同時に職員も一同其儘引續かれたしこの希望あるも、文部省は同校の過去及び現状に見、職員殊に同病院職員の如きは全然改革を要す認め居れり、故に同縣の希望は容れらざる可く此に談判不調とある患あるのみか文部省は病院は愛知縣にて經營せしめ、學校のみ文部にて管轄したき希望あるも、愛知縣は病院をも文部に經營を乞ひたき所存にして此點にも文部と縣當局との意見の容れざるもあり、旁々妥協の成りて文部の管轄とあるはオイソレ約束通りといふわけに至らざるべしと心痛せるもの多しといふ、若し文部にして萬難を排し同校を引受け改善せば立派な學校となるべからん。

### ○名古屋病院の焼失

名古屋市中區の愛知縣立病院は去十一月十五日夜梅毒患者室より發火し皮膚科、耳鼻咽喉科及其他の各病室を燒盡し傳染病室のみ僅かに金きを得たり、當時入院患者は百七十二名ありしが、幸に一人の燒死者を出さず、悉く他へ避難するを得たり、病院は爲めに外

來患者を謝絶し居る由あるが、元來同病院には東京醫科大學も及ばぬ標本等極めて多かりしが、それ等は持出す事を得たるや否や疑はし、若し燐盡したりせば建物を失ひたるよりも惜しき事あり。同病院は豫て新築の計畫中ありしが、今回斯く燐失せし上は、新築は取急がるゝ事あるべし。

### ○大阪高醫の工事進捗

大阪高等醫學校新築工事中、病院は略は落成したるに就き、本月よりは基礎醫學教室の新築に取掛り、本年三月中には全部落成せしむる豫定ありと。

### ○大阪高醫の論文試験

大阪高等醫學校は昨秋卒業式を舉行したより、此度の卒業者は六十五名あり、去三十六年十月規則改正の際新規則により入學せしもの百名ありしに、今其卒業者の僅かに六十五名あるは少しといふべし。此の内規則により論文を提出せしもの二十二名にして、他は試験のみ及第せしものあり、右の提出論文は他日大阪高等醫學校業績として發表する由あり、又舊規則時代の卒業生にして學士號を冠用せんとするものは手数料五十圓、論文を提出せしめ試験の上許可する事とあり居れるが、此出願者中三十名に對し昨年九月本年十月迄一年間講習會を開き獨逸語及實地等を講習せしめたり、此内及第せしもの二十五名内十九名は論文を提出せり、此論文試験に合格せしもの十六名ありき、論文中の一篇は必ず獨逸文たる事を要する規定あり。此提出論文中には隨分立派あるもの多く、其一つは既に過般の大阪醫學會に報告せられたる由。右の受験者中には大阪高醫の助教諭等もありたるが、それ等の人の中にて落第せしものあり、此落第者は校則により辭職せざる可からざるに至れり、其後任は新規則による卒業者を任用し居れりといふ。

### ○大阪高等醫學校卒業式

前記の如く同校は去十一月十日昨年

度本科卒業證書授與式、並に従前卒業者にして論文を提出し稱號を認可されたるものゝ授與式及豫科卒業の各證書授與式を舉行せり先づ證書を授與し、佐多校長の式辭、高崎大阪府知事の告辭、卒業生總代の答辭ありて式を終りたり。昨年の卒業生は六十三名にして其中論文を提出せしもの、及論題は如左。

- 一、ゲルベル氏乳脂定量法に就て 渡邊松太郎
- 一、血液と發泡内容液との氷結點下降の關係に就て 竹瀝 富助
- 一、偏側腎臟徵毒に他側腎臟の代償肥大を兼發したる一例 村井善藏
- 一、肝臟癰腫の發生機轉 大西竹藏
- 一、肝原發癌の二例 高橋弘邦
- 一、瀝腫腎の二例及其發生機轉 片田忠吾
- 一、日本鼠に於ける癰腫及其注射成績 片瀨 淡
- 一、健康體に於ける「ツベルクリン」の作用に就て 同 上
- 一、人腸中の好溫菌 松尾 勇
- 一、販賣牛乳の細菌及其衛生的意義 田口源七郎
- 一、(無菌的搾乳法衛生乳の對菌作用) 鶴谷 元
- 一、大阪市下水の細菌數及其衛生的意義(河川に及ぼす下水の汚染力並下水改良案) 岩西利恒
- 一、淀川水流の殺菌力及其衛生的意義(大阪市を貫流する河水の細菌學的検査) 増本誠一郎
- 一、「オルトホルム」皮膚炎 磯田信三郎
- 一、又前卒業者にして論文を提出し、審査の結果、稱號を認可されしものは左の十六名あり。 矢内 義彦

一、胎盤組織に於ける「グリコゲン」に就て 附染色法  
二、妊娠脚氣と胎兒脚氣

- 11 Experimentelle Studien ueber die Steigerung der Widerstandsfähigkeit des Körpers gegen Infektion bei Wochenbett.
- 飯塚 正平 (三十一年卒業)
- 1 Schwangerschaftsklrose der Uterusgefäße.
- 池田 長太郎 (三十一年卒業)
- 1 Experimentelle Studien ueber die Wirksamkeit des Antitberkulose-Serums.
- 1 Das Schicksal des *Tuberclebacillus* im Blutkreislaufe.
- 石井 徹顯 (三十一年卒業)
- 1 Ueber die pathogenen Wirkungen der Dysenterietoxine.
- 顯見 克禮 (三十一年卒業)
- 1 Ueber die pathogenen Wirkungen der Cholera-toxine (die erste Mittheilung).
- 1 Ein Fall von kongenitaler Tuberkulose.
- 木庄 綱 (三十一年卒業)
- 1 Ueber die Parubiose (die erste Mittheilung).
- 小幡 龜壽 (三十一年卒業)
- 1 Klinische Beobachtungen ueber die Serumtherapie beim Typhus abdominalis.
- 假宗 昇一 (三十一年卒業)
- 1 Ueber die haemolytische Wirkung des *Chlorophytus*.
- 中原 孟雄 (三十一年卒業)
- 1 Ueber die Reagierbarkeit des tuberculoen Organismus gegen fremde Substanzen.
- 1 Ueber ein neuerseres Symptom der Lungentuberkulose.
- 倉重 貞二 (四十一年卒業)
- 1 Beitrag zur Kenntniss der histologischen Struktur

- nebst klinischen Bemerkungen des primären Ovarialcarcinoms.
- 藤村 元張 (三十一年卒業)
- 1 Ueber die pathogene Wirkung des Typhustoxins.
- 有馬 頼吉 (三十一年卒業)
- 1 Beitrag zur Kenntniss der Meningitis ventriculorum.
- 酒井 幹夫 (三十一年卒業)
- 1 血便を現はす一種の乳兒腸加答兒
- 1 Die Vermehrung der eosinophilen Zellen im Blute der Leprakranken.
- 1 「ザーリ」氏の「テモヨイド、レフクチオン」に就て
- 木村 善繼 (三十一年卒業)
- 1 Experimentelle Untersuchungen ueber die Bluttransfusion.
- 新谷 庄吉 (三十一年卒業)
- 1 Ueber die haemagglutinierende Wirkung der Organextrakte von Kaninchen.
- 1 Ueber die hemmende oder befördernde Wirkung der Organextrakte von Kaninchen auf die bakterielle Agglutination.
- 望月 豊三郎 (三十一年卒業)
- 1 Ueber ein Haemagglutinin in einigen Pflanzensamen.
- 菅 武夫 (三十一年卒業)
- 尙本年の豫科卒業は澤井義樹以下七十九名、にして、次年度の特待生として選定せられしは左の四名あり。
- 辻本良太郎。松倉義晴。酒井亮男。野邊彰。
- 卒業式當日午後一時より、新築病院西講堂に於て左の講演會ありたり。
- 1 淀川水流の殺菌力 大阪高等醫學校醫學士 磯田信三郎
- 1 及其衛生的意義 大阪高等醫學校醫學士 片 柳 淡
- 1 瘡接種の實驗 大阪高等醫學校醫學士 片 柳 淡

一、腸壁扶斯血清療法の實驗的基礎及臨床的觀察

大阪高等醫學校醫學士 有馬 賴吉

一、赤痢毒素の病原作用附傳染病電の意義

大阪高等醫學校醫學士 堀見 克禮

一、二三の產科手術に耻骨縫際離斷術及耻骨離斷術に就て

ドクトル 河野 徹志

一、診斷治療上の叢說

醫學博士 木村 孝藏

一、結核に關する知見の進境

醫學博士 佐多 愛彦

### ○京都醫專校近事

同校教諭中醫學生望月惇一、同工藤外三郎の兩氏は論文提出其筋に於て調査中あるが遠からず學位を授與さるべし。同校及び附屬病院明年度の特別經濟收支豫算總額は約廿一萬圓あるが、新規事業に屬するものは職員海外に留學費三千圓を倍加して六千圓とあした

臨時改増築工事は本年度に終了する見込ありしも、材料工費騰貴を既成改築工事に開聯して更に増築を要する事とありしを以て同繼續年期を二ヶ年度延長し此工事は約十萬圓の見込あり

入院患者現在二百三十名に達し滿院とありしを以て新入院患者は謝絶し居るが、更に十一月に入らば病室改築の爲め二十名收容の病室を閉鎖して定員を減すべしと、尙ほ外來患者は毎日多きは四百五十名少きも三百八十名を下らざる狀況あり

### ○遼東醫學校

滿鐵附屬の大連病院あるを幸ひ、醫學校を創設せんとは後藤男が滿鐵總裁たりし時代計畫せられし所あるが、之が建設には一人の反對あきも唯位置に就ては敷説あり、何れ後日に至れば確定せらるべしといふ。

### ○岡山藥學校卒業式

私立岡山藥學校にては去十月廿五日午前九時より第三回卒業式を舉行せり、先づ總員着席の上勅語捧讀あり次に今次の卒業生たる、上塚勘五、花田省左、黑崎正、宇野憲一、惠章策の五氏に證書を授與し尙ほ優等生へ賞狀を授與したる後成績報告及び卒業生への訓告あり、在學生總代永義雄氏祝辭を朗讀し次て來賓國友一等藥劑官井に木村縣衛生技術官の祝辭演説あり、卒業生總代惠本章策答辭を述べりて校長の挨拶あり、之にて卒業式を閉ち別室に於て來賓に茶菓を饗し記念の撮影を爲せり

### ○大阪藥學校卒業式

北區上福島私立大阪藥學校にては十一月十四日午後一時より第三十七回卒業證書授與式并に優等生、精勤者へ賞品授與式を行ひ了りて甲田、西村、宮武三講師并に卒業、新入學生の送迎會を催し講談其他の餘興もありて頗る盛會ありし由、今次卒業生二十六名あり。

### ○中村氏

愛知縣立醫學專門學校助教諭(耳鼻咽喉科)中村豐氏は今度同校教諭に任ぜらる

### ○楠氏

愛知縣立醫學專門學校教諭(皮膚科)楠太氏は同校教諭に任ぜらる、氏は明年自費を以て獨逸國へ留學せらるゝし

### ○塚口氏

福岡醫科大學講師として解剖學第三講座を擔任し居られたる塚口利三郎氏は此度大阪高等醫學校教諭に任ぜられ解剖を擔任せらるゝこととありたり。氏は追て獨逸へ留學を命ぜらる由

校內雜報

○卒業證書授與式

去十一月廿日午後一時、濟々堂に於て醫學科第二十二回藥學科第二十回の卒業証書授與式を舉行す、職員一同着席、卒業生入場、學生六百其背後に立つて堂内春祥の氣満つ、式初まるや校長の成申詔勅奉讀あり、次で証書授與に移る、即ち新卒業生者左の如し

▲醫學科卒業生 (百〇四名)

近藤 清吾 (新潟)	津田 次助 (三重)	安藤 佐吉 (愛知)
大野 幸重 (愛知)	鈴木 伊作 (新潟)	松村 喜一 (長野)
富案 光雄 (和歌山)	岡村 晋 (新潟)	塚本 政次 (富山)
成田 高二 (新潟)	西川 良造 (愛知)	佐々木 信 (秋田)
眞田 修平 (石川)	徳久 恒治 (石川)	松村 貞治 (新潟)
中川 良忠 (富山)	平野 郷次郎 (岩手)	坪田 義門 (石川)
坂本 修吉 (島根)	久保 勝次 (奈良)	石川 精一 (愛知)
山岸 佑 (新潟)	清水 義成 (滋賀)	佐竹 秀一 (石川)
安川 尚平 (新潟)	丸山 直友 (新潟)	田山 退一 (福井)
若林 篤之 (新潟)	北村 一清 (石川)	安澤 綱三 (滋賀)
久保田宮太郎 (新潟)	井村 勇作 (石川)	上野 善造 (島根)
佐々木茂樹 (岩手)	寺境壽貞造 (岐阜)	山本 直枝 (石川)
吉田 正謹 (富山)	小林 友一 (埼玉)	伊藤 善次 (愛知)
梅澤 亮吉 (石川)	伊藤 精一 (富山)	國吉 眞才 (沖繩)

坪田 本照 (富山)	渡邊 宗一郎 (石川)	織田 信義 (石川)
春山 盛道 (新潟)	武内 清作 (富山)	石川 玄知 (富山)
西川 英二 (三重)	八賀 重藏 (岐阜)	宮澤 徳治 (新潟)
重松 盛勝 (愛知)	堀 孝信 (石川)	廣山 壽男 (三重)
渡邊 四郎 (新潟)	柏原 直次郎 (三重)	太田 卯三郎 (群馬)
小暮 喜一 (群馬)	渡邊 光生 (埼玉)	内藤 三太郎 (廣島)
大井 藤次郎 (山形)	高澤 冠一 (石川)	勝部 方策 (島根)
中川 久成 (福井)	高田 茂一 (富山)	北村 仲兒 (大阪)
杉山 貞二 (愛知)	天野 彦次 (石川)	江村 聯正 (滋賀)
田中 精一 (長野)	本 仙太郎 (石川)	關 承五 (新潟)
蜜山 總民 (富山)	笠松 彦次郎 (和歌山)	茨木 忠俊 (石川)
西村 貞俊 (石川)	小澤 野庄桂 (長野)	平手 秀敏 (石川)
遠山 繁 (長崎)	山内 順治 (大阪)	高儀 京治 (富山)
小鷹 利三郎 (山形)	角田 耕六 (山形)	澤田 壽三 (埼玉)
杉内 泰治 (兵庫)	長井 敬孝 (富山)	山本 秀時 (静岡)
吉井 直次 (鹿児島)	山口 登 (栃木)	三上和造 (廣島)
長屋 泉 (岐阜)	宮城 篤珍 (石川)	田濱 仙次郎 (廣島)
中田 盈壽 (岐阜)	吉田 隆二 (群馬)	相馬 申五郎 (山形)
中田 徳二 (石川)	福村 深教 (富山)	山際 房治郎 (三重)
武波 峰吉 (山口)	上野 良温 (沖繩)	中本 和三郎 (石川)
久津 明一 (群馬)	山田 有登 (沖繩)	

▲藥學科卒業生 (十八名)

中山 富次郎 (東京)	島 亮二 (徳島)	本庶 英猷 (富山)
廣瀬 玄龍 (岐阜)	田中 儀一 (石川)	治多 信章 (三重)
河村 賢吉 (神奈川)	宮島 卯吉 (新潟)	棚田 惣治郎 (岐阜)
吉田 實 (兵庫)	酒井 謙治郎 (三重)	田中 靜二 (富山)

岡部郁二郎(神奈川) 溝口成章(愛知) 三野泰次郎(石川)

松永清一(愛知) 中村重好(石川) 毛戸四郎(兵庫)

次て優等生左記四氏(銀時計一個宛授與されたり。

近藤清吾 津田次助 安藤佐吉 (以上醫學科)

中山富次郎 (藥學科)

稍ありて卒業生惣代の答辭(左記の如し)ありて式に終り小憩の後茶話會に移る。

答 辭

顧ミレバ生等醫學ニ志シテヨリ茲ニ四星霜、教官各位ノ懇篤ナル指導訓育ニヨリテ漸ク業ヲ卒ヘ、今ヤ洋々タル醫學界ニ獨歩セントスルニ當リ今日ヲトシテ卒業証書授與ノ盛典ヲ舉ゲラル、生等ノ光榮何物カ之ニ加ヘン、現今醫學ノ進歩發達ハ駸々乎トシテ止マル所ヲ知ラズ、生等ノ不才元ヨリ學界ニ大ナル効績ヲ揚ゲ得ズトスルモ而モ恩師日常ノ教訓ヲ服膺シ奮勵努力吾人ノ能力ヲ出來得ル限り發揮センゴトヲ期スルノミ、謹ンデ答辭ヲ述ブ

醫學科卒業生惣代

明治四十二年十一月廿日

近 藤 清 吾

答 辭

余等本校ニ入りテヨリ茲ニ三年諸教官ノ懇篤ナル教導ニヨリ辛ウジテ斯學ノ一斑ヲ修得シ今ヤ校門ヲ辭セントスルニ當リ本日ヲトシテ卒業証書授與ノ盛典ヲ舉ゲラル生等ノ光榮何ゾ之ニ若カン、現時吾ガ醫學界ハ駸々トシテ新面目ヲ開キ歐米ト覇ヲ爭フニ至ル生等ノ責任ヤ大ナリト云フベシ生等歡喜ノ情ニ堪ヘザルト共ニ將來ノ研鑽ニ極力盡力センコトヲ誓フ

藥學科卒業生惣代

明治四十二年十一月廿日

田 中 儀 一

○卒業生諸君を送る

萬感交々到るは恐らく諸君を送るもの、心的狀態であらう、諸君を見るものに從ひ自ら感に異にすべきだが、僕等は今諸君に「お芽出度う」……「御機嫌よう」を大呼し、しかも大に諸君を羨み大に勇まればならぬ。諸君を送るは僕等の遺傳である、且つ夫れ泣くと泣かざるは各自の先天的素因にありと云つ可しだ。僕は凡てものを送るに附隨するゲフエルストンから涙を去つたから必ず次の様ふツマン言ひ草になつて了ふだらうと思ふ。

卒業生は學生希望の焦点である、この「レンズ」には澤山の光線が射入して居る、内科線も外科線も産科線も精神病線も化學線も製藥線も其他の光線も皆この「レンズ」に射入して一として焦点に結合しないものは無い。もし夫れ「レンズ」の構造が拙いか、光線の射入が不充分ならば須らく高安博士の治療を乞はねばならぬ。

諸君は頗る健康である、果して其透明なレッスの焼点下に映ずる像は何物であらう。瘡か脚氣か、トラホームか結核か……あゝこれ諸君を祝し且つ羨む所以である。

諸君、四年間慈愛深き教授は諸君の肩を撫して語られたであらう。如何に醫學界の前途曠漠にして苟も有爲俊才の士は興味深々として手の舞ひ足の揃く所を知らざるかな、又如何に社會の複雑にして惡む可き濁流は到る處諸君の希望を汚損せんとしつゝあるかな、又かの醫聖ヒポクラテスのDas Leben ist kurz, die Kunst ist lang; der Zeitpunkt zum Eingriff schnell vorüber; die Erfahrung türgischer, das Urteil schwierig. 云々云々云々の所謂 Aber so notwendig und wichtig die gehegung Ausbildung wenigstens in einem Theil dieser Kunst für jeden Arzt, ist—sie allein macht noch nicht dem Arzt, sie macht nur einem



會 報

Hollkünstler. 又延いてはかのダリエル氏の Behandelte wir unsere Kranken, wie wir selbst behandelt sein wollen! 等の文字がいかにかに青年

醫家の守るべき銘あるかを學ばれたのであらう。

かくて諸君は今や新しいユニホームを着し歩武堂々として虎視眈々たる社會に繰り出られたのである、蓋し痛快では無い、今や諸君が抜き捨てたツメ襟の洋服は永く諸君の歴史を語り、五つの金釧は光榮ある前途を照す材料とあつた、諸君が、四年間の活動と………今後の活動と………その間にこの一枚の古洋服が横ばつて常に諸君を笑つて居るのだ、しかもその昔驚啼かせたこともある的な苦しい笑に非ず、況んや炭俵もとを實せば野山の芝維子鳴かせたこともある的なお腹の黒い笑でもない、蓋し正に太閤の草履、藤公のチョンマゲ、蠻爵の聽診器の笑である、即ちゲーテの Jetzt nur Stangen, diese Krume geben einst noch Frucht und Schatten. (今は一もこの幹にすぎざれど、やがては實をも結ばん又た影をもささむ) 的の笑である。

あゝ僕等の兄事する諸君、それ自愛せよ。

《二芳誌》

○第十六回解剖祭

十一月二十七日午後一時より當市野田寺町立像寺に於て施行せらる、本年解剖に附せられたるも都合八十四名あり、この日遺族職員學生の參拜者無慮五百堂内に滿つ、戸外の雨は蕭々として十五儋が唱ふる大施餽鬼經に和して悲調を帶べり。



○講話會例会記事

十二月十一日、午後二時十分、部長鬼頭教授の御挨拶で、本學年第壹回講話會が開かれた。會場は本校内科學教室。

▲野球部の設置を望む

余は野球部設置の熱心ある希望者の一人あり、依て演壇に立つと述べられ、續きて學生の氣質と運動との關係に就て論ずる所あり。猶君は語を繼ぎて武術と運動とを區別せんを欲す、而して諸種の運動中最も代表的にして且つ痛快あるは野球ありとて、仙臺岡山等の、醫學專門學校の例を挙げ、亞で吾校の運動界に論及し、野球部設置を切望して降壇せられたり。

▲奇抜ある題

石坂正義君

吾演旨は實に平凡あり。然るに「奇抜ある題」と題名す之已に奇抜ありと、聽衆を哄笑せしめ、吾述べんとするは奢侈を避けよと云ふにありと語つて、着々其歩を進めらる。君は奢侈と云ふ語に定義を與へて曰く、時代場所生活の状況等によりて一定の尺度を以て計る可らずと雖、要するに奢侈とは必要からざる裝飾等に向つて浪費するものなりとし、時々警句を交へ奢侈と品格との關係を論じ、吾人は極力之を避けざる可らず、社會の這般惡風を一掃すべきあり、斯く謂はば一部の論者は云はん、社會の風潮はよく少數の得て防ぐべきに非らずと、然りと雖も余は云はん「洪水に際し堤防の一部崩壊せりと假定せんに之を放置するものありや」と、………而して猶進んで奢侈的流行は花柳會社梨園の弟子に其源を發して世間に流布す

るの感あり。嘆又嘆。吾人は勤儉の美風に向つて共に邁進せんかふと結ばる。

▲雄辯術

松井 啓君

沈着なる態度と其特獨の言調は以て君が演壇に立ちし回数多きを知るべく、以て聴者の耳を傾くに足る。前演者の演述に就て補足する所あり。奢侈は經濟學上高價なる消費あり。過度の消費は滅亡を意味す。成業の曉は金縁の眼鏡もよくチツクもよし。されど國家に貢獻する已の力を考慮する處あり。さる可らず。猶然れども茲に注意すべきは、「極端なる節儉は社會を沈滞せしむ」と、云ひし人ありと。

演説の術は困難なる術あり、本會に出席者の少きは演説術を輕視せるに非ざるか。唱破し、余は小學時代より演壇に立ちし事殆んど三十回あり。之により得たる考を述べんに、演者の体型に就て詳論せる書あり。雖、之よりも先重んずべきは熱誠にあり。如何に態度備はるも其真髓たる熱誠を缺きてよく聴者の耳を傾けしむる事難し。人は或意味に於て感情の塊團あり。見よ大石良雄が山科閑居に際して彼の熱誠はよく敵の聞者を感じしめたるに非ずや。之を詳述して聴衆の注意を喚起し、猶討論會等にては、反對黨者は演者の正しくさも之に反抗し之に妨害を加ふべし、此間に處しては更に多大の熱誠を要す。述べ故星亨氏修養時代の例を引き聽衆少くさも熱誠を以て演壇に立つべし、退場者續出するも動ずる勿れ、及び体型は自然に備はるべきを論じ、語調の高低に就ては重大問題の時に高調たるべし、高低に大に必要なる問題なり。又衆の耳を傾けしむる爲に時に警句又は、滑稽を交へべく、之は前以て腹案し置くべし。語尾の明亮は演説の要件ありと論及し、終に對話と演説とに就て説明し、對話は社交術の一にして人格を高からしむる一要素ありと論結せられたり。因に君は對話にては、「アート、オプ、コンパレーション」と云ふ書物、一讀の値ありとて一小冊子を示されたり。

吾人は、語術の好個の參考を得たるを感謝せんばあるべからず。同時に多大の趣味を聴者に與へられし点に於て一段の價を發揮したりと云はざる可らず。

▲亞米利加醫育談

松原 教授

拍手に迎へられて、教授は演壇に立たれたたり。今其の御話の概要を記さん左の如し  
余は米國の醫育殊に醫學界の大畧を述ぶる事にせん。醫學研究を目的として渡米する人に至つては實に僅少にして其多數は歐羅巴に向ふものあり。一部分の邦人は桑港に於て得たる所見を以て米國の醫學界を評論するものあれども、蓋し正鵠を失せるものあり。諸子の知る如く、米國は四十六洲の聯合にして東西四〇〇〇哩あり。桑港に於ける一覽豈よくその全般を伺ひ得べけんや。全米國は東海岸、即太西洋に於て文物の發達を見るべし。余は初め桑港に上陸し、精神病院を參觀して其内容に於て我醫學よりも劣れるを知れり。更に東海岸紐育洲に至りしに其反對あるを知れり。

前述の如く東海岸は文物發展著しく、特に其精華は、紐育、市俄古、ワシントン、ヒラデルフ、フィラデルフ、バルチモア等にあり。米國に於ける醫學校一四〇餘にして、全世界の醫學校數の五〇%を占むる之洲共に教育電話鐵道等の事業を私人に任かすに依る。獨逸に於ては然らずして、醫科大學數二〇ありて、其程度も一致せり。米國にては玉石混淆あり。其内吾大學程度のものと思はるものは至て少し。

ジョス、ボブキンス醫科大學(バルチモア市)は第一流に位すべきものにして、ボストンのハーバード大學之に亞ぎ、シカゴ大學、コロンビア大學の醫科、コチール大學、ペンシルベニア大學等あり、其外は多大の價ふきが如し。猶エール大學醫科は論するに足らず。要するに米國の醫學は玉石混淆にして、從て吾にも學力に大差あり。開業せんとするには國家試験を経ざる可らず。50%の落第者を出す學校多し。5%位落第者を出すのは實に

少数あり。醫學校を二大別すれば大學の醫科と、獨立せる Medical College 二つにふるあり。中には High school を出て、入學し得るもの、B.A. なる肩書を有せざれば入學の出來ざるもの、猶進んでは M.A. を得て入學するもの等種々の程度の醫學校あり。

其他「ホミサパチ」醫學校あり。一部の人士に信用を有し、實際上見捨たるものにあらざるが如し。病院にも普通組織のもの、「ホミサパチ」との二種あり。紐育洲に於ける公立精神病院十五の内、二つは「ホミサパチ」あり。

米國に於ては、男女學生が互に混じ居れり、然れども女醫學校も二、三あり。各病院には規則的に、女醫を置けり。而して主として、婦人科的疾病の診療に従事す。紐育市衛生局には、William と云ふ女醫ありて、恐水病の研究に従事し博學を以て甚だ名あり。

其外電氣醫學校あり。電氣療法を研究す。

大學院のものあり、醫師の講習を主とす、Postgraduate Medical College あり。獨逸には之に類せるもの Köln にあるのみ。猶 Polyclinic Medical School 紐育にあり。其他宗教的に創設せらるる醫學校もあり。

醫學校には、中央政府より支配せるものなく、其多くは私人の出資によりて創設せられ、從て其氏名を冠せる大學あり、ジョンズ、ホプキンス大學等の如し。シカゴ大學はロツクフエラー氏の資金を寄附せるものあり。

ウ非スコンシン大學はカーチギー氏の出資にかゝる。

猶一種の風習として、富有なる者資金を放出して研究所を設立するものあり。之米國醫學界に利する事大あり。ロツクフエラー氏は細菌研究所を設けたり。吾傳染病研究所の如きものあり。其他某女は、老衰の源因研究に向つて六〇万圓の寄附を爲せり。又某氏は解剖學研究所を建つる等比々然り。

獨立の研究所は盛にして「アルバイト」を出しつゝあり。紐育には舊の公立

の研究所あり。結核は又別にある。之等は矢張金満家を創立して州へ寄附するあり。又共同研究所あるものありて一般人士に公開せり。

最近に於て獨逸と教授を一年間迭へて講義せしむる大學もあり。Academy of Medicine 澤山あり。完備せる各分科を有す、而して一定の建物に集會して演説す。每晚必ず何科かの會合あり。又金満家の出資にて名家の醫學的講話を開催する會もあり。

Hatcher 氏は自己の受持時間を休み、其代りに獨逸より自腹を切りて助教授を招きて講義せしめ、其間氏は孜孜として研究に従事する事あり。

米國に於ては論文に賞を懸くる事盛なり。又紐育市には、公衆衛生の思想喚起の目的を以て開かるゝ演説會あり。其組織は學期的にして一學期間演説の豫定表あり、小學校に於て夜間開催せらるゝあり。時として參聽者の談話親睦會を開く、又演説に對する批評は一定の用紙に記載して、市の教育當局へ郵便を以て送附せしむ。

公立病院に於ける醫師の採用法は廣告を以てす。宛に角米國は平民的にして、學校を出て三日淺きものも、斯道の老手も、一括して「ドクトル」と云ふ。此点は獨乙及吾國とは、餘程差異ある所なり。

Medical Index として、報告の題と、報告者の氏名を記載せる専門雜誌あり。又報告年報ありて大に便利あり。(米國陸軍々醫局より、報告年報を出す) 一般に獨逸の報告的のものは、必要條項に委しくして他は粗なり。米國に於ては全般に平等的に精記しありて、物を調べる点には便利とする處なり。

而して米國の醫學は研究よりも、主として從來の智識を實地的に應用せんとする傾向を有す。紐育は人口十方毎に三百三十九人の精神病患者を收容し、獨逸は百十九人、英國は三百五十人を收容す。之れを見て米國は實地に重きを置く傾ありて醫學の實行は米國が遙に獨逸より勝るを見る。

今後醫育統一完成の曉は、米國の醫學界は一變するに至らん。研究所及醫師會等には、書物雜誌等は充分に具はれり。且つ富有なる邦な

(會報)

るを以て、巧に之を研究に向つて利用するも亦一策か。  
但し門を叩きて教を乞ふべき大家に乏しきは遺憾あり。  
拍手の裡に、教授は壇を退かれたり。

因に各病院學校等の報告冊子、新聞ふど、一々示されたり。

▲閉會辭

鬼頭部長

日晚じたるを以て是にて閉會を告げられたり。時午後四時五十分。

(文責は記者にあり。うま生記)

\* \* \* \* \*

第壹回講話例會の幕は閉ぢられた。會場は僅に薄暗かつた。先生方や、醫員、研究生諸君、及通常會員で會場は殆んど満ちた有様でした。猶校外特別會員の方も見へて居られました。

通常會員の方に望む、毎回奮て出席せられ、且つ出演せられたし。

當日は佐々木教授(獨逸醫育談)、及高安教授(未完)の御講話及會我逸雄君、松江常行君の演説がある筈でしたが、都合上次回へ譲る事にりました。こゝらで筆を擱くことにしませう。

(うま。生記)

○庭球秋季大會

明治四十二年十月二十四日本部は秋期大會を第一「コート」にて開催す當日は風無く雲無く來賓及び野地連中、競技者は云ふに及ばず本日の競技如何に詰り寄せ定刻前に早や満場の状況さあり

於茲「アンパイヤ」の號令及び拍手喝采の元に「ゲーム」は開かれたり

○は勝△は敗の印とす

- (富田○) (辻△) (布施○) (池上△) (三國○) (牧野△)
- (天野○) (小原△) (山角○) (大竹△) (桂田○) (泉田○)

以上三回「ゲーム」にて○時半終りを告げ次で諸學校撰手との仕合は開かれたり

- |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 井上△   | (濱○)  | (山田○) | (本間△) | (板谷△) | (島○)  |
| (西岡△) | (加茂○) | (平野○) | (今井○) | (松井○) | (佐藤○) |
| (小幡○) | (西村△) | (達田△) | (安澤○) | (板谷△) | (山田○) |
| (鈴木○) | (磯貝○) | (窪田△) | (安澤○) | (吉川○) | (片山○) |
| (山下○) | (小池△) | (森△)  | (清水○) | (藤本△) | (皆川○) |
| (野澤○) | (廣瀬△) | (小島△) | (橋本○) | (藤田△) | (秋山○) |
| (武者△) | (岡中○) | (來○)  | (中山○) | (中根△) |       |
| (荒川○) | (岡中○) | (寶○)  | (隱見○) | (水上△) |       |
- 
- |         |       |        |        |        |        |
|---------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 工小四△    | (篠田○) | (師北川△) | (武者○)  | (商○)   | (小島○)  |
| (八木田△)  | (田中○) | (絶宮田△) | (森○)   | (業北○)  | (板谷○)  |
| (工保取○)  | (神谷△) | (二吉村○) | (橋本△)  | (一高○)  | (清水△)  |
| (業齊藤○)  | (藤本○) | (中岡澤○) | (秋山△)  | (中三竹○) | (森○)   |
| (師室木○)  | (秋山△) | (二木斜○) | (四山田△) | (一高△)  | (四谷口○) |
| (絶増田○)  | (皆川△) | (中安井○) | (高鈴木△) | (中上野△) | (高新井○) |
| (四小田切○) | (荒川△) | (四寺崎○) | (岡者△)  |        |        |
| (高増澤○)  | (田中△) | (高手平○) |        |        |        |

以上五回「ゲーム」とす

○弓術部秋季大會記事

本部今や其成績を見るに無念や其の敗を受くるも之れ其の練習の不足等に依るからんも其競技を見るや敵も可ある点あるを見るあり、本部の隆盛は一つに部員熱誠の依るを磨鉄術數以て會稽の恥を雪ぐんとを

天高くして地廣く見渡す曠野漸く霜に飽きて蕭殺荒涼河は悄然として白く流れ山丘は哀然として飛げて佇むや秋高く馬肥へ男兒が腕を試めすべき好時期は來れり此の時に當り我弓術部は秋季大會兼紅白勝負を舉行して滿校の士氣を鼓舞せんす時は何時や十一月二十一日!

此の日天氣清明飛ぶ斷雪もいと長閑きに勇み立ちたる勇士の面々今や遅し  
ま早くも盛装したる道場に充滿せり。  
而して午後一時頃先づ点取の激戦こそ開始せられたり。當激戦の優賞者左  
の如し。

一等 奥山 二等 藤森先生 三等 近藤  
四等 松田先生 五等 角田

次ぎに數取競射の優賞者左の如し  
一等 岩田 二等 影山先生 三等 村上先生  
四等 角田

來賓佐々木關口兩氏より各矢の懸賞ありたり之れに優賞を得たる者左の如  
し。

近藤 延川 山田甚

次ぎに興味あり活氣ある紅白勝負を開始せられたり先づ躍り出たる勇士は  
山村光田の兩氏あり。

忽然として一大修羅場を現出せり。激戦は今や最中とふり戰塵濛々鯨殿の  
聲矢叫の音相合して山嶽振ひ爲めに天地も裂けんばかりありき。斯くて月  
桂冠は見事白軍に飾られたり  
左に兩軍の番組を舉げん (○一本當)

紅軍 (○一本當)

白軍

○八島先生

○藤森先生

高安先生

○村上先生

林先生

○鷺山先生

鷹見先生

○松田先生

影山先生

柴野順

奥山

○近藤

○角田

伊藤

岩田 山田彦十  
○木根 野口  
○延川 内藤  
山田甚太 佐々木

松井

○千田

奥泉

加瀬

安達

大島

鹽村

秋山

長岡

○山下

末岡

柴野

山村

光田

時に日輪西に傾きて楓の稍燃ゆるか如く此に盛大なる弓術大會は終りを告  
げぬ。

\* \* \* \* \*

## 人事

### ○櫻井教授を送る

十八有春櫻一日の如、一日の別れば遂に絶はぬ涙さある。此に藥學科科長  
小平太櫻井教授を送らざる可らざるに至りぬ。先生夙に斯界の先達として  
世に已に噴甚たり。又何を以てか贅せん。しかも我等醫事校殊に直接に關

(人事)

係ある藥學科の肩幅廣かりしに惡ぞ比すべけんや、あゝ先生を送る、送るの辭に窮す。

あゝ先生去らる、錢するの筆端荒束す。

偲ぶ、

先生平常事を行ひ給ふや嚴蓋し其裡溫乎深甚の趣味を藏めらる。此れ恒に親戀したるもの、欣慕するさするありき。其教壇に立たるゝや生徒震悚咳唾の聲だにおし。而かも先生狷介術もせず、其個人／＼に對しての厚配親父にも半さるあり、此れ實に生徒の感激措く能はざるさる。其學をすゝむる徒は多し、然さも其學をすゝむるさ等しく生徒の性に關し境遇に對して一方ならぬ懸念を有せられ、情を傾けらるゝ先生の如きは方今碩學濟々たるうち稀に見るさるさるあり。むべかり先生を稱するにデア、フアーテルを以てするを。實に諂辭に非らざるさるあり。あゝ先生教官を辭せらる、送るに何を以てかせん。湛思汪機、只酬ゆるに通學の一のみ。

「楚山不可極、歸客自蕭條」、涓埃誠に足らずさいへども、願くは、加餐舊に倍して健を加へ、多事ある藥界常に先生を忘れさらん事を。

○櫻井教授送別會及茶話會

教授を送るべく十一月五日金曜日午後一時濟々堂で一同集つた。校長を初め各代表者の送別の辭、紀念品の目錄贈呈、つゞいて先生の答辭があつた。金澤の水、樹、其近きに温泉の數ある皆平生愛著するさるさるかも自分をして永住の地たらしめ能はざる事情あるを悲むさるべられた。而かも此言のうら山や水や温泉よりも更に先生の強く愛著せらるゝものあるを察せられて泣かれた。

式すんで茶話會が催され、浪花節、祭文を初め余興數々あるうちに皆々悲しみのうちに笑聲を交せて散會した。

三

○又天長節には先生の愛兒たる藥學科生徒の主催して個人としての櫻井先生送別會を開いた。金谷館樓上、以後先生に見ゆる事少からふ。噫、十一月七日先生はさう／＼金澤をさ／＼れた。校長初め諸教官、藥學科生徒の見送り、停車場に群をふしてさう／＼デア、フアーテルに別れを告げた。某の勝つた中折帽、フロツコツト姿の先生、先生は、一々會釋して發車する迄ブラツトフォームに立たれて歡語せられた。演笛の音、車輪の響乗車迅走、鐵橋のあたり迄ふかみれてかぎりなく別を惜んだ。遂に瀟車は恩師のをせて見はかくつた。

伊藤公國葬后、三日目の今日は次に入つて寒冷肌にたはられかゝつた。(終り)(三年 R、I)

○脇坂講師觀迎の辭

先きに名聲校の外に普き櫻井教授を失ひて、乳房を離されし赤兒の思ひありし我が藥學科、今や脇坂藥學士の來任に會ひ恰も暗夜に光明を得たらんが如きの感あり。

脇坂講師は今夏帝國大學を卒へたる有偉の士、顧みに近來我が國學術の進歩實に驚くべきの者あり、殊に我が藥學は輒近長足の進歩を遂げ、日進月歩昨日の新、必ずしも今日の新に非らず、世は學で最新最進を望むの時、代の如き新進の學士を得たるは實に我が藥學科の光榮とする所あり、斯處に一言以て歡迎の辭とあす。

明治四十二年霜月廿四日(藥二、かく生記)

○逝ける太田雪嶽翁

今東宮行啓に際し特に御前に召されたれども病の爲め之を辭せし北陸刀圭

界の警宿雪嶽太田美濃里翁は十月二日七十九歳を以て溘然として逝けり矣、翁は天保二年金澤城下に呱呱の聲を擧げ、幼にして蘭學を藩の名家黒川良安（今回金澤市醫師會に依つて銅像を建設せらる可き）に學び嘉永三年廿一歳にして緒方洪庵先生の門に入る、今の男爵如楓翁畢時幕府の麒麟兒大島圭介、長州の大村益次郎、越前の景岳橋本左内等は皆其同窓たり、全六年江戸に上り造船兵術を修め、偶々脚氣に罹りて郷に歸り父に代りて専ら醫を營む。是れより公人として私人とし只管醫道の進歩發達に意を盡し、現今の金澤病院、及び我が校の如き實に翁の力に籍る所尠からず、明治十三年十月老を以て致仕せし後も尚ほ力を斯道に須ひ、金澤市醫會々長、石川縣醫會々長、大日本私立衛生會金澤支會副會長、北陸聯合醫會委員長等の職に席常に温かみざりしと云ふ、今や、この好醫人を失ふ、哀悼の情更に切なるもあり矣。

○石坂直次郎氏 氏は福岡醫科大學眼科教室に研學の所今回福岡長崎熊本下ノ關廣島岡山の各地専門家并に各病院を歴訪し京都醫科大學眼科教室へ轉學されし由

○明治四十一年度卒業生陸軍々醫の任地

工兵第九大隊（金澤）	伊藤哲一氏
歩兵第七聯隊（同）	加藤錠吉氏
砲兵第九聯隊（同）	吉澤祐寛氏
姫路衛戍病院	梅岡幸三氏
大阪衛戍病院	岡勝重氏
歩兵第六九聯隊（富山）	宮村誠一氏
騎兵第二五聯隊（豊橋）	才田猶次氏
歩兵第一四聯隊（小倉）	田中三彌氏

（人事）

歩兵第七〇聯隊（丹波篠山） 鈴木於菟吉氏  
騎兵第二六聯隊（豊橋） 奥山正雄氏  
歩兵第一八聯隊（同） 中谷内善雅氏  
下ノ關重砲兵隊 早川清延氏  
歩兵第三八聯隊（伏見） 中川善松氏  
歩兵第三九聯隊（伏見） 吉川友信氏  
歩兵第五九聯隊（宇都宮） 鈴木琢磨氏

○萩野茂次郎氏 海軍少軍醫（四十一年度）となり軍醫學校在學の所昨年六月卒業舞鶴鎮守府附となり目下同地に任務中あり。

○本校新卒業生消息

金澤病院出勤

▲内科一部	西川良造	伊藤精一	塚本政次	徳久恒治	天野彦次
▲内科二部	平手秀敏	近藤省吾	松村喜一	鈴木伊作	成田高仁
▲外科	石川精一	井村勇作	山岸佑	鈴木伊作	山本直枝
▲産科婦人科	清水義成	中川良忠	相馬甲五郎	鈴木伊作	
▲眼科	鈴木伊作	宮澤徳治	山内順治	中本和三郎	
▲病理科	中田徳二	杉内泰治			
▲生理科	丸山直友				
▲解剖生理	織田信義				
▲衛生	中川久成				

(通信)

●陸軍々醫

安藤佐吉 大野幸重 富家光雄 北村一清 平野郷治郎 幸境壽貞造

坪田義門 伊藤善次 茨木忠俊 笠松彦次郎 高田茂一 宮城篤珍

西村貞俊

其他の動靜概報

▲入營 坂本修吉 久保勝次 坪田平昭 密山總民 石川玄知

▲兵庫檢疫所 津田次助 ▲歸國開業 小暮喜一 安澤綱三

▲山田病院 太田卯三 ▲東京内科病院 佐々木信 ▲私立宇都宮病

院 佐々木茂樹 ▲林(龍門)醫院 大井藤治郎 ▲武生病院 吉田隆

二 ▲井上眼科病院 山口登 ▲淺野川呼吸器病院 渡邊宗一郎 田

山退一

\* \* \* \* \*

通信

○丹羽直氏通信

(林篤氏宛)

拜復御手紙確に落手仕り候何時もふ

がら御厚情之段奉拜謝候、時下冷氣相増し朝夕など殊に身に感じ申候が御地如何に候哉名物の降雨も御座ふく候や當地は御承知の通り天氣は誠に晴期にて心地よく候へ共寒さは朝夕金澤よりも甚だしき様思はれ候、赴任后大生不相變無音碌々罷在候然して病院の儀は御院よりも比較的クラツクチシエに有之全々開業醫との競争を獲する能はず從て随分閑の様ふ多忙

の様な生活にして然も寸暇無之閉口罷在候加ふるに院長は絶えず市外への往診有之候爲外來患者等は殆んど過半数は小生の負擔にて仕事の上には面白くて働か賃値有之候も何分病院の鎖沈の後故會計は大に振はず從て新進的の設備に窮し目下の所即刻研究的態動に移り難きは大に遺憾とする所に御座候然し幸にして佐々木恩師初め親愛ある大兄其他の御同窓より御示教に預り候枝により漸く其日を通過致し居り候小生の閉口するは神經系統に有之候然し幸に松浦先生は此の方面に研究多き様に有之一々示導を受け得る事と喜び居り申候患者の種類の何地も同様に何れ其中よりは種々の研究を始め度と考に候何れの方面に向ても未だ小生等は力不足を感ず猶ほ／＼より長くの御指導と御教示を受けざりしを惜しまれ候云々。

丹羽君は三十九年度の度卒業にて永々内科二部醫員さかり本夏宇都宮病院内科部長に榮轉されし方なり。(編者誌)

○丹羽直氏通信

(林篤氏宛)

拜復時下晩秋の季誠に寒氣酷敷相成

り申候處御地も御同様存候御申越の如く當地の本秋は特別大演習の事とて殊の外雜沓仕り醫師も赤十字社或市醫師會等の臨時救護所、所々に有之交代出張罷在り候松浦院長あども殆ど留守勝ちに有之候從て遂に御返事と思ひながら遅延候段不惡御宥恕願上候當地は去る五日幸福ある市民鷄駕を奉迎致し小生も御拜顔の榮を得申候加ふるに日露戰爭當時に於て名聲輝きたる勇將軍の英姿を拜觀致し候、市内も晝は行在所を中心と致して鳳輦の御送迎に夜は所々の奉迎又は廣告の「イルミネーション」等にて實に群衆の集散を以て賑はしき事に御座候何れ十日には紀念繪端書御送附致し度き考へに御座候

○厲家福君通信

韓清泉君宛(外科二部研究中)

四十二年七月を以て本校醫科全部を學修し内科一部及京都大學に研究



（編者）

前略……旅程勿々萬事意の如くならず杭城に至り滞在すること僅かに四宵のみ在家中近町より懸々往診を乞願に来る者あり僕等患者を取扱ふ職人ふれば放棄する理行かず直に往診に行きしが驚くべし傳染病患者あるを知り幸に何つれも輕症者にて（猩紅熱赤痢等）二三の注意を與へ歸へりり経過或は良好ならん。

時日切迫直ぐ北上の程につく途中上海を通り當地では正に虎軍流行の時なりし英吉利派醫士は盛に食鹽水の靜脈内注入法を行へり頗る効驗あると聞ゆ、其法危險なきにも非ざれども或ひは嚴重なる防痼の下に行ふを得れば良く試むべき者あらん。

京試（登庸試験の事）最初檢定試験には三百八十名中二百八十名のみ撰出され小生淺陋ながらも測らず五番に命中せり實に意外なり本試験には漢文外國文並に専門學の三回に分かれ試験は豫想外に嚴重にて實に閉口、成績發表を見て優等には行かず如何にも残念……

同考醫學者小生外七人あり（内昨年千葉醫專卒業業者四人）此外法政最も多く次に師範農工商諸科皆有り。近日應酬に忙殺され詳細な事は何つれも東渡の上面談

（コハ韓君に乞ひ翻譯發表の勞を辱うせしものなり。）



## 漫 録

### ○北米合衆國に於ける醫育（承前）

醫學士 久保 徳太郎

▲「ジョンス、ホプキンス」醫科大學の柱石 由來同大學が北米醫學界に於て、尊重せられ、自から勢力を有する所以のものは、既述の如くこれを其創立に際して柱礎となり且つ現に其四本柱たる四教授の功績に歸せざる可からず、

病理學教授ウィリアム、エイチ、ウェルシュ氏（William H. Welch）は、北米病理學者の元老にして、今日少壯の病理學者は、多くは嘗て先生の門に實を執りたるもの、就中ロツクフエラー研究所々長たるフレツキシナ（Flexner）及びハーバード醫科大學病理學教授たるカウンスルマン（Counsellman）の如きは先生の高足とあらず、先生既に齡六十を超へ、孤獨にして家に係累なく、全く醫育の算めに一生を捧げたるもの也、學生は一般に先生を呼んで「パプ」といふ、以て先生が如何に學生の敬慕招きつゝあるかを知るべし、又た定期に催さるゝ講演會に於ても先生の講壇に立たるゝ時は、講堂殆んど立錫の地なきを毎となす、以て先生が學問に於ても、辯舌に於ても、如何に一種の引力あるかを知るに足るべし

ウヰリアム、オースラー氏は、（William Osler）英領加奈太モントリール市ある「マギール」醫科大學に於て醫學を修め、後ち聘せられて「ジョンス、ホプキンス」醫科大學の内科教授として教鞭を執ること拾有數年名聲噴々として全土に振ひ、内外の信任厚く、「ジョンス、ホプキンス」の

名物として、學生は勿論、市民の誇りおせし良教授ふりしが、數年前英國「オクスホールド」大學の懇望によりて遂に「ジョン・ス、ホブキンス」大學を去るゝはふれり、而して其後任には同氏の推薦によりてレウエリース、エフ、バーカー (W. F. Barker) 氏内科學の主任さふれり、バーカー氏未だ春秋に富み、しかも、今日既に聲望高く近き將來に於て、第二のオースラー氏として「ジョン・ス、ホブキンス」大學の柱石たるは期して待つべきものとす。ハワード、エー、ケレー (H. A. Kelly) 先生は、齡漸く五十、溫厚にして醇朴の人、醫學に堪能あり、英は勿論、佛、獨、伊、西の語に通ず、先生所有の「ライブラリー」(圖書館)には専門の書籍と雜誌と積むて山をふし、三人の書記は常に其の整理の任に當る、先生は所謂手の人にし刀を執れば入神の技あり、筆を執れば即ち數多の著書あり、今その二三を擧ぐ

1. Operative gynecology 2 vols.
2. Gynecology and abdominal surgery 2 vols.
3. The Vermiform appendix and its diseases 1 vol.
4. Medical gynecology 1 vol.

目下尙ほ腎臟並に膀胱外科に關する著書の準備中にあり、又た先生に自家考案の膀胱鏡あり、汎く之を使用して膀胱の疾患は勿論、輸尿管並に腎臟疾患の診斷に供せり、而して其下にはルツセル、カラン、ハンナーの三氏ありて直接學生を指導す、産科はウヰリアムス氏其長として、獨立の分科をふせり、

婦人科及び産科に於ても、特に病理の時間割を設け、子宮内膜の搔爬は勿論、子宮、輸卵管及び卵巣に來る炎症並に新生物、其他胎盤臍帶の異常に就き、其の病理に關して顯微鏡的に教示するの設備あり、固より一般病理の知識あれば容易に理解さるゝものされども、特殊の臓器には又た特有の

病的變化あり、茲に一教授をして此科を擔當せしむる者、決して其偶然のものにあらずる也

外科にはウヰリアム、エス、ホールステット (William S. Halstead) 氏其長たり、先生は敏活なる手術家にあらず、然れども篤學にして非常の勉強家と云ふべき人、熟慮苟も輕忽に事を決せず、又た創意に富み、歐爾尼亞根治手術、乳癌の根治手術には同氏獨特の手術式あり、現今は Gofier (バセトウ病の外科的療法) の手術家として大に其名聲を擧げ、北米全土に於ける該患者は殆んど先生の下に集まるの有様あり、而して先生の許には尙ほ少壯の教授として

- 一、ジョン、エム、デー、フィンネイ (John M. T. Finney)
- 内臓外科に於て特に名あり、嚙に前大統領ルースベルト氏の長女アリス嬢の蟲狀突起炎を手術せり
- 二、ジョセフ、ブラッドグッド (Joseph. C. Bloodgood.)
- 内臓外科に名あり、外科病理を擔當す
- 三、ハルヴェイ、クッシング (Harvey Cushing)
- 腦並に神經外科を以て名あり、Trepagination の例を見るハニ、猶ほ我邦にて開腹術を見るが如き有様あり
- 四、フーグ、エイチ、ヤング (Hugh. H. Young)
- 泌尿器外科特に攝護腺袖出術に名あり、東西より患者を集む
- 五、ウヰリアム、エス、ヘアー (William. S. Baer.)
- 矯正外科の主任

等ありて各専門を擔當す

この外科に於ても特に外科的病理 (Surgical Pathology) を一科として設くること、婦人科に於けると等しく、之れによりて診斷を確實にするものあり、次に種々の手術式は屍體に於て之れを實習する外に、ハンター研究所 (動物實驗所) にしてハンター氏の名を用ひに於て、クッシング教授指導の

下に、大に就て一般手術式を習得せしむるの組織をあり居れり、之によりて實際の消毒法、麻醉法は固より手術式の一般を明かに學ぶことを得べし、之れ他に類を見ざる設備ありとす

▲醫學會 (Medical Societies) 學年中には毎月三回醫學會の開催あり、

即ち第一、第三の月曜日午後七時より諸教授更代に出て、専ら臨牀的實驗の講演と共に、患者の「デモンストラチオン」あり、基礎醫學の教授は又た各専門の研究報告をふすの例あり、之を醫學會 (Medical Society) と呼ぶ、而して第二の月曜同刻よりは歴史講演會 (Historical Club) の開催あり、北米は勿論、世界醫學界に於ける歴史的人物の評論並に醫學發達の歴史を講演す、其講演者は等しく教授専ら之を擔當し、又た時々大學より名士を聘することあり、毎回聴者の大部分は學生あるも、市内の開業醫も亦た自由に出入し得らるゝもの也、要するに之れ我帝國醫科大學に於ける東京醫學會の如き關係を有するものあり

▲出版物 雜誌とて (Johns Hopkins Hospital Bulletin) は毎月の發刊にして、専ら醫學會の講演を掲載す、此外 Johns Hopkins Reports は原著を集めたるもの今日迄に既に十三冊の大部を成すに至れり、斯の如き出版機關の設備あることは、同大學の業績を天下に紹介し、自から同大學の聲名を高しめたる所以ありとす

▲大學講習 University Courses 抑も醫育機關の一として「ジョンス、ホプキンス」大學の開設を見るに至りし當時は、既に醫學を修業せしもの (Graduate) のみに限られ、次で全科の完備されし後は、一般學生教授との混雜を避けんため、毎年五月、六月の兩月間に於て開業醫を集め短時日に日新の學科を教授するの規定をせり、然るに時勢の要求は四方より茲に夥多の醫師を雲集せしむるに至り、遂に此「コース」(我撰科の如きものか) を二種とあし、一は初步にして學生と共に教授を受けしめ、他は高等にして教授指導の下に研究室に入り、一定の課題の下に研究を爲すの制とあし

たり。此は「ジョンス、ホプキンス」の卒業生に限られたるにあらず。既に「ドルトル」とありたるものは其の何れの卒業生たるを問はず、教授の許可を得て所望の學課を專攻し得らるるものとす、斯の如く獨り母校學生 (under graduate) の醫育のみならず、廣く北米の醫育に貢獻する所亦た多大なるものあり

▲病院助手 此大學病院の助手は、コロンゼヤ醫科大學とは大に趣きを異にし、すべて「ジョンス、ホプキンス」大學の卒業生を以て之を補充す、則ち毎年の卒業生、首席より十二名づゝは助手として任用の規定あり、而して試験は毎年の終り之を施行すれども、其成績發表は第四學年の第一學期に於て之を通告するもの也、之れ其成績の順番を打算して、母校附屬の醫院に止まること能はざるものは、夫れ々各自の希望に應じて競争試験を経たる後ち、他の病院の助手 (Interner) とあり、少くとも二ヶ年間は病床の實驗を積むを慣例となせばあり

病院には亦た本館 (administration Building) なるものありて、助手は悉く茲に居住す、而して各醫局長は、部長の擔當せる私費患者以外に對し、其治療上の責任を有す、而してこの醫局長たる迄には、少くとも四ヶ年を要するもの也、斯の如き病院内の助手を「インターン」(Interner) と呼び、之れに對して外來部の助手を「エキスターン」(externe) と呼び、外科部は整然として獨立し、全く院内の助手とは關係なきものあり、如斯比較少數の助手を以てして仕事の圓滑に運ばるゝ所以のものは、全く以上の組織に歸せざるべからず、則ち教授は繁務に追はれずして學生を薰陶しおがら、自己の研究を續け、助手たるものも既に醫局長とあれば、一ヶ年の間に於ても多大の材料を得て手腕を鍛鍊しおがら、經驗を積むに至るものなり

▲米國は果して醫學の研究に適するや 晩今醫學者の外國に留學するもの頗々隨を接す、而して其目的とする所を大別すれば左の三種類とある

(一)博士論文製作のため、(二)「ドクトル」の稱號を得る爲め、(三)現狀視察のため

(一)其名稱は孰れにもせよ、詮し來れば其の一が留學者の眼目とする所あり、今其評論試むるの暇あり、先づ米國は果して所謂博士論文の製作に適するや否やを考察せん欲す、學統を云へば、吾が醫學者(獨逸語を學ぶもの)に取りては便利を覺ふるの點實に尠なし、即ち語學はれり、次に問題とあるは經費の點にして普通獨逸より英國に行けば倍さなり、米國に行けば三倍とある云ふ、是等は事實なれども、全く短日時の間に各所の視察する人々が遭遇せし實驗談にして、米國に於ても比較的經費を要せずして修學し得らるゝものあり、然れども顧るに單に米國に留學せしものにして未だ博士の學位を得たるものを聞かず、醫科に於て歴史的關係上米國は博士論文製作には適せざるものと斷定することを得べし、況んや學風を異にし、且つ語學の不十分なるものは、到底短日月に於て大なる業績を出すこと難きものと知るべし、然れ共學問は學問の爲めにして、之れ權能を得る爲めに非ず、又貨殖の途に非らず、亦た博士の學位を得るが終局的目的にも非らずせば、米國の地も輕々に見捨てべきものに非ず、看よ「ロツクフェラー」研究所の野口氏並に「ウ井スター」研究所の畑江氏の如き、何れも斯學界に於て錚々たるものにして、其名單り米國の地に於けるのみならず、遠く歐洲に於ても屢々耳にせしところあり、阿氏の如きは夫れ／＼研究所より一定の給料を得ながら、研究費と其材料とに於ては、殆んど無制限と云ふ程のものあり、學者の得意も亦た思ふべし、要するに、短き歲月の間に於て業績を完結せんとするには不便なる點多し、然れ共、家に係累なく、永く外國に在留し得らるゝものにして、特に其基礎醫學に興味を有するの人あれば、北米の地亦た大有望ありとす、何とせば、英派の醫學に於ても、就中米國は實地を重んずるの國柄にして、理論よりは先づ實地に錯誤なきを努め、醫家としては先づ病を治療することを主眼とする

の趨向にあり、特に社會は日に月を追ふて華奢を加へ、自から甚大なる生活難あり、學に篤きものも、境遇のために基礎醫學の研究に永き日月を費す能はずして、臨牀家として直に世に立つもの多し、故に今や宏壯なる研究室も其人を待ち、且つ壯麗なる設備も之を運轉するの人を缺くの狀にあればなり

(二)「ドクトル」の稱號を得るために北米に留學するものは實に少數あり、是れ米國「ドクトル」が一般の社會より尊敬を受けること少なきに因る、前陳の如く米國の「ドクトル」は醫育不統一のため、全く醫學校卒業生たるの表彰に過ぎず、而して醫師にふ權能は開業試験を卒へて後、始めて伴はれ来るものなれども、外國人にして其地に居住するの意志なきものは、更に開業試験を受けるの必要なく、又た卒業後病院内の助手たらんとするに就て競争試験に於て合格せざるべからず、事實上この關門を経、尙ほ進んで數年間病院内に於て鍛鍊したる後歸朝せしものは僅かに指を屈すべきのみ、況んや其出身の學校が第一流のものに非らず、又た第二流にも非ず、甚しきは開業試験に於て五十%以上の不合格を出す如き學校にて「ドクトル」を得て歸朝せし人々を標準とすることが、米國「ドクトル」の評判を惡しくせし原因ありとす、然れども彼が第一流の學校にて業を修め、後ち病院助手として手腕を磨きし「ドクトル」の價値は、決して輕侮を加ふべきものにあらざるなり

(三)醫學の狀況視察のためには、北米の地亦た遊歴するの價値ありとなす、各病院何れも醫家に向ては時間外に雖も其設備を縱覽せしむるに吝からず、殊に手術室の如きは、直接學校に關係なきものに向ても、特に席を設けて傍觀を許す、就中現今北米の醫學社會に呼び物とされるは「ドクトル」メーヨー氏の病院にして、兄弟にて之を經營せり、此はミチソダ州ロツチエスター市に在り、市俄古市を距ること、流車にて約五、六時間の里程あり、ロツチエスター市は此病院のために繁榮を來しつゝありといふ、普通の米

人が旅行者と會談の程には、必らずナイヤガラ瀑布を話題として、其天下無比の大瀑布たるを誇るが如く、醫家としての對話中には、(Have you seen already Mays' Ward.) (貴下は既に「ドクトル」マールーの病院を觀られしか)との問を發するを常とする程あり、蓋しかくの如きは所謂米國式にして、他の國に於ては到底見るべからざるものなり (完)

## ○沿海洲歸客談

三十九年以來ハバロフスクに於て開業し、露人間にも大に信用を博し居たる、柴田福男氏は、今回、立退きを命ぜられ此程同地を引上げ歸朝したるが、氏は同地の事情並に今回の事件に就て語る所あり、其大要を近著の露海時報より左に紹介すべし

▲沿海洲に於ける吾醫師 沿海洲には本邦醫師にして開業せるもの日露戰役後には十數名あり、即ち浦鹽に六名、ニコリフスクに二名、ハバロフスクに三名、其他所々に一二名宛あり、其後渡航者増加の氣勢を示したりしが、昨年露國官憲は何を感じてか沿海洲に於ける本邦醫師の開業を禁止し、吾外務省の交渉の結果、從來開業し居るものには日本人に限り治療し得との條件附にて開業を默認し、新渡航者は全然許可せぬ方針に出でたり。のみならず、或は診療所を臨検するとか、藥局を巡視するとか、嚴重なる監視をふし、殆んど迫害に至るべき有様あり、從來の開業者も大に困難を感ずるに至れり。彼の浦鹽に於ける日本共立病院の如き、露國醫師の名義の下に設立して、治療は重に日本醫師にて擔當し、居留民は勿論、大に露國人にも歡迎されたるに、沿海洲知事は之に解散を命ずるに至りたり、斯る有様なれば、本邦醫師は次第に減少し、目下は沿海洲全體にて七名を残すのみぞあり。

▲露國官憲の主張 露國官憲が斯く日本醫師排斥の方針を採るに至りし理

由もあるべけれども、第一は日本醫師を劣等視するに在り、即ち戰役後には本邦の免狀を所有せざる言はゞ賣藥者流が多數入り込み勝手に治療をふしたるを、又一には金錢の外眼中何物もなき素蕪なき人物の入り込みて大に露國人を招く手段の廣告等をふしたるより、之等の爲め本邦醫師の眞實を誤られ、日本醫師は劣等あり、故に日本人を治療するは格別、露國人を治療する事は許す可らずとしたるあり、第二には露國醫師の嫉妬にあり、即ち斯く劣等あるものと混同せられたる者の中にも實際劣等ならぬ者ありて、其技術は遙かに露國の「ドクトル」より優る所より表面何等廣告をふさず且來診者の如きも一應は診療を拒絶するに拘らず、露國醫師の無能を云爲して是非に診療を乞ふもの多き有様なるより自然露國醫師にも影響し、それ等の事情もありたるあるべし。第三には條約に本邦醫師の開業を許すの條文なきのみか、露國の法律上他國醫師の開業を許さぬ事あり居り、唯だ三千の居留民を有せる浦鹽に於てのみは、居留民の爲め特に本邦醫師の開業を許可すとの先例あるのみあれば、其自國法律を楯として、右の如き本邦醫師排斥の舉に出でしあり。

以上の如き主張あるを以つて、露國の文科及醫科大學を卒業し久しく軍醫さき、現今總督府の特設官を勤め居れる某氏の如きは、日本醫師と雖ども大學出身以上の者ならば、特に西比利亞沿海洲に限り開業を許可しても可ありと唱道し居る由、ツマリ内面には如何なる事情あるにせよ、表面に於ては本邦醫師の劣等を理由として排斥せるあり。寧ろ滑稽さといふの外なし其證據は

▲本邦醫師の信用 が如何に高きかに見るも明なり露國の「ドクトル」は勿論露國の醫師試験を受けて開業せる獨、佛人等もあれど、其技術は極めて幼稚あるものにて、本邦に於ては庸醫と目さる者も雖ども能く彼等と拮抗するを得るあり、少しく進歩せし智識を有せる本邦醫師の如きが彼等の群に投せば、眞に之れ鵝群の一鵝にして、忽ち信用を博し得るあり、余(柴田氏)

の如きも最初は露國人の患者を主としたり、上は少將より宣教師、警察署長等の如き上流者が主に来て診察を求めたり、彼等上流者は久しく露國醫師に就きたるも治癒せず、吾に來つて忽ち治癒するより、何等の廣告をふさずさいへども、瞬時にして評判高くなり、次第に患者を増加するに至れるなり、さて氏は四五の實例を語られしが、要するに本邦露は露人間に大信用を博し得るだけ其れ丈け本邦露の技術が進歩せるを證するに足る。露國の上流社會の人物の皆日本の露術は世界に於て獨乙のそれと同樣にして、蓋し世界に於ける第二番の露國ありと稱し居る由

▲唯歎すべきは利己者流也 以上の如く本邦の露術は彼等露人に信用さるゝに拘らず、同地に開業せる人物の中には利己以外に何物もなく、本邦露術の名譽等を辨せず、或は如何はしき廣告をふし或は多額の報酬を貪る者もあり、如斯は獨り邦人の信用を汚損するのみならず、本邦露術の信用を傷くるものにして、之等は實に慨嘆に堪へざるなり。

▲免狀は金次第 最初余の開業免狀下附を願出でしは四十年三月ありしが、其後に同年八月出願せし者が免狀を下附されしに拘らず、先願者たる余には下附なきより種々内情を探れば、後の出願者は三百圓の賄賂を握らせたるありといふ、余は以ての外の事と思ひ、幸ひ沿海洲知事に傳手ありしより面會して此事を詰りしに、直様下附せられたり、彼地の萬事は此筆法にて、醫師の如きも巡查部長等に少しの金を握らせば便を受け、然らざるものは迫害を受けるあり。患者の如きも露國人は此筆法にて吾に望み、一定の代價よりも多額に持參す、彼等は斯くせば早く療治し呉れると信ぜるが故なり。

▲診察料等 余は露國人に對しては自宅初診參圓往診五圓とし、宅診は再診料を徴せず往診は再診後毎回三圓、夜間は五圓、車馬賃は此以外とし、藥價は一日分一種五十錢、手術料は子宮内膜炎の抓把の如き十圓内外ありき、斯くても多數の患者ありたるあり、日本人に對して診察料は一圓、藥價三

割引させり、居留民は下等ふる者のみにて醜業婦、洗濯屋等を主あるものとし、二百名内外なりしかば、日本居留民を目的として、同地方に本邦醫師の成立つわけのものに非ず、是非露國人を得意させざるを得ざるあり。

▲露人診察の禁止 然るに前に述べたる如く露國人の診察は禁止されしかば吾々日本醫師は大に困難を感ずるに至れり、故に露人患者は一應は之を拒絶し、強て病苦を訴ふるものに限り、又は和人紹介ある者に限り、恰も本邦の陸海軍醫が急病人に飛込まれたり又は和人の紹介にて診察する如き程度に於て診察しつゝありしが、之れすら其筋にては非常に嚴重に取締り、時々官吏が突然として來り、診察室藥局等を檢査するにてありき、

▲其結果今世の事件 を生出せしにて、余は今引揚を命ぜられしあり(退去命令には非ず)其理由は第一露人を診察せし事第二許可なくして藥局を設けたる事第三手術室の不潔なる事といふ三理由の下に免狀を取上げられたるあり、免狀なくとも非露者として働けぬにあらねど、斯くては日本醫師の名譽を損するものあれば、同胞は勿論、露國人にも種々引留むる者ありしかど、斷然歸朝する決心をふし居たるに、露國官憲は、免狀なき以上は用事なき筈なれば、引揚ぐべしと申來りたれば、直に引揚げ來りしあり。余が斯く其筋より迫害を受けし動機は、同地の日本人會長を勤め居りしかば、居留民中に余を排斥せんとするものあり、露國警官と結託して斯る難題を持込みしあり、ソハ別問題なれば詳説せざるも、居留同胞が協同和睦せず、互ひに排斥せんとするは吾國民の海外發展上歎息すべき事なり。

▲將來の希望 若し露國人の治療を絕對に禁止せられれば、沿海洲に於ては浦壇を除くの外は、將來日本醫師に開業の見込全く無しといひて可なり、日本居留民が非常に増加すれば格別、然らざる以上は全然絶望あり。余の引揚の決心をなしたるも之がためなり。故に外務省が彼の英國と締結せし如き醫師互惠條約を締結して呉れるか、或は又それ迄の所を臨時貴社の社説の如く、危急の場合は露國人も治療し得るの除外例の下に免狀を交附す



臺灣總督府 二 關東都督府 一 樺太廳 一  
大阪府 三 京都府 一 愛知縣 一  
佐賀縣 一 熊本縣 一  
赤十字社 二

之を一昨年未の現狀に比すれば宮内省海軍省内務省及赤十字社は共に前後同數にて、陸軍省は一人文部省及地方廳は共に各二人を増加せり、文部省所屬中留學生の増加せしは東京醫科大學と新潟醫學專門學校にして、各一人を増す。一昨年末に留學生を有せざりし千葉醫學專門學校は、當期に一人を出だし、前期に二人を有せし仙臺醫學專門學校は一人に減じ、前期に一人を有せし岡山醫範專門學校は此期には一人の留學生を有せず、長崎醫學專門學校は前々期より一人の留學生をも出ださず、前期及今期を通じて同じく一人を有するは金澤醫學專門學校あり。其他此二期共所屬未定の留學生一人あり。地方廳にありては、臺灣總督府の留學生此期に於て一人を増して三人となり、樺太廳始めて一人の留學生を出だせり。熊本縣も亦一人を派出せり。前期と同一數の留學生を有するは大阪の官公費留學生の氏名三人愛知佐賀の各一人にして、京都は此期に一人を減じて一人さあり。(公)職及所屬は左の如し。

宮内省 侍醫 醫學博士 加藤 照磨  
陸軍省 陸軍二等軍醫正 醫學士 佐藤 恒丸  
同 陸軍三等軍醫正 同 稻葉 良太郎  
海軍省 海軍々醫少監 同 川島 慶治  
同 醫學得業士 雨宮 量七郎  
同 醫學得業士 隈 川 基  
内務省 傳染病研究所技師 同 秦 佐八郎  
文部省 東京醫科大學助教授 醫學士 磐瀬 雄一  
同 醫學士 三田 定則

地方廳

臺灣總督府 臺灣總督府醫學學校教諭 學醫士 白杵 才化  
同 助教諭 ドクトル 吉田 坦藏  
同 醫學得業士 小池 巖  
關東都督府 關東都督府技師 同 岩野 俊次  
樺太廳 前樺太廳病院院長 醫學士 尾中 守三  
大阪府 大阪府立高等醫學學校教諭 同 水尾 源太郎  
同 同 同 木下 東作  
同 醫學得業士 和田 豐種  
京都府 京都府立醫學學校教諭 同 角田 隆  
愛知縣 愛知縣立醫學學校教諭 同 岡田 鶴也  
佐賀縣 佐賀縣立病院院長 醫學士 大黒 安三郎  
熊本縣 熊本縣立醫學學校教諭 同 山崎 正薰



赤十字社

東京赤十字社病院醫員

醫學士 吉本清太郎  
同 上野信四郎

第五 出身學校別

留學者と出身學校との關係を叙するは、ある意味に於て其學校の盛衰を卜し得るを以て興味あり。先づ前回とを比較したる留學者出身學校別の統計を示さん。

留學者出身學校別統計表

學校名	四十一年十二月末現在	四十二年六月末現在	増	減
醫學專門學校	三八	四三	五	一
京都大學	六二	六六	四	一
醫學專門學校	一五	一六	一	一
仙臺	二	二	一	一
金澤	六	六	一	一
岡山	一三	一五	二	一
長崎	二	四	二	一
海軍々醫學學校	三	一	二	一
府縣立醫學學校	一六	一八	二	一
京都	七	五	二	一
大阪	五	七	二	一
愛知	四	六	二	一
私立學校	二	三	一	一
慈惠醫學學校	二	三	一	一
開業試驗受験者又は出身學校不明者	二六	二二	一	一
醫師の資格なき者	一	一	一	一

計

一四八

一五六

此統計を通過するに、醫科大學出身の留學生は前年末より五人を増して六十九人となり、相變らず全留學生の半數を有し(四割四分餘)、醫學專門學校出身者も五人を加へて四十三人となり(三割八分餘)、府縣立醫學學校出身者も亦二人を増して十八人となり(一割一分餘)、其増加の率は醫科大學出身者は七分強、醫學專門學校及府縣立醫學學校出身者は一割二三分あり。即以後二者の醫學科の増加著しきを知るに足る。而して大學出身者も他の種類程度の略同じ東京大學別課(二人)海軍々醫學學校(一人)醫學專門學校(四三人)府縣立醫學學校(一八人)及び東京慈惠醫學學校(三人)との出身者数を比較すれば、甲の六十九人に對し乙は六十六人にして僅々三人と云ふ少數の差とふれり。(前回に於ては七人の差)、又五個の醫學專門學校と三個の府縣立醫學學校とに於ける醫學科の増減は、京都に於て二人を減じ、仙臺及金澤に於て同一ふる者、岡山、長崎、大阪、愛知は何れも二人、千葉は一人の増加にして、相變らず千葉と岡山とは絶對的多數を有し、甲は十六人乙は十五人其差僅に一人あり。之に次ぐは大阪の七人、金澤愛知の六人、京都の五人、長崎の四人にして、最少數あるは仙臺の二人あり。

(醫海時報抄)

○北里博士の歐洲視察談

昨年十一月十六日午後一時傳染病研究所講堂に於て見出しの如く博士の觀察談あり集るもの約三四百名堂に溢るゝ許りの盛會ありしが當日博士は非常の好機嫌にて來る人も來る人も今日は「隨分機嫌が好いね」と言はざるものばかりし恐くは斯の如き御機嫌を拜せしは是れ迄でそんじゆそこの關燈のものこそ所謂本能發揮の御相手せざるやさしき人より外かはあかるべしそれは扱て置き當日博士の講演は實に近來の聞き物にして歐洲學界に對す

る縦横の批評と光彩陸離たるの大氣焔を愛嬌深山の口調にて笑はせたる事  
さて何等の無理もなく自ら人を敬服せしめ三時間餘りに渉る有益なる講演  
は恰かも聽衆を酔はしめたるの感ありし

され茲には一般巡禮的行談やその氣焔などは一々紹介するの餘地なけれ  
ども諸般の狀態を綜合するに博士が今回の歐行は充分所謂世界的大學者さ  
して其儀容を張りたるものゝ如く歐洲各國も又博士に對し非常の待遇を興  
へ至る所歡聲沸くの有様ありしは浦鹽港頭の砲聲にても知らるべく而して  
博士が癩會議に於けるは實際に於て指導的世話焼的地位に立ちたるものに  
して博士は固よりソノ氣焔は吐かれざれども事實は即ち事實あるべく思  
惟せらる何と云つても歐洲の檜木舞臺へ押出し「暫」を踏ん張り「成田屋ア」  
と喝采せられて舞臺狭しと潤歩し得るものは本邦學者中唯だ「第一流と  
云ふべし余輩は斯の如き大學者を本國より出したるを光榮とす  
今先づ博士が癩會議に於ける決議事項につき言明せられたる耳寄りの事よ  
り記さんに決議事項中

一、「癩病は人より人に傳染す」との一條あるがこは彼の魚毒説を主張す  
る英國の老學者が餘りにしつこく煩るさければ特に頂門の一針を呈した  
る迄にして別に深かき意味あるにあらずと

二、「鼠の癩樣疾患に對し研究すべき事」鼠に癩樣疾患あるは我國は勿論  
殊に亞米利加に於ては餘程以前より提唱せらるゝ所なれども歐洲學者は是  
等の提唱に注意せざりしと見ゆ博士が其講演を爲すや今更の如く喫驚し然  
らばとて遂に斯の如き條項を加ふるに至れるなりと

三、「癩病には未だ特效藥なし」との斷案的決議に對して彼の有名なる  
「スチン」は討論の結果大多數を以て何等效力なきものとの結論せられたり  
と其他講演中の目ぼしきものを舉ぐれば

四、博士のライト氏訪問談にして氏の有名なる「オプソニン」説は學術上  
面白る事ふれど彼は今や邪路に入り寧ろ滑稽にして常識を缺くの傾向あ

りと而して博士の此ライト氏訪問談は臍の皮をよらせたる事甚だ多かりし  
五、歐洲に於ける癩腫の研究熱は殆んど高潮に達すれども未だ何等の光  
明を認むる能はず所謂勞して功なきの有様寧ろ大に疲かれたるやの感あり  
而して此研究は漢大なる經費を要するを以て我國の現狀にありては之れが  
研究は容易の問題にあらずるべし

六、今回の萬國醫學會に於ては五千餘人の學者集りし事さて宿屋の缺乏  
は甚しきものにて博士の如きは金杉博士の注意ありしにより敏活の行動に  
出でしけれども猶多少の困難を感じたり歐洲の設備を以てして猶ほ斯の如  
し今後我國に於て萬國醫學會にても開催の際には大に注意を要すと

七、近者歐洲の學界に於て注目すべきはエールリッヒの化學的療法あり  
是れ規尼涅と「マラリア」との關係等の理想に基けるものあるが今日既に動  
物試驗に於て「トリパノソーム」に因する疾病及蠱毒等に對し顯著なる效果  
を奏しつゝあれば前途有望のものあるべしと

八、蠱毒に對する研究又大に進み動物感染法の如き既に兎にも之を行ふ  
の域に達し加之「スピロヘーテバリーダ」の純粹培養も殆んど成功せられた  
りとて「デモンストラチオン」せらるる但しこは動物試驗に於て猶充分ならざ  
れども早晚成功の見込ありと追加せられたり

九、從來議論やかましかりし人牛結核の異同論は遂にコッホ氏の勝利に  
歸し人牛結核は全然異なるものなりとの斷案下さるゝに至れり但し默醫側  
にては猶異論を唱ふるものありとされどこは「パン」の問題上止むを得ざる  
べしとて聽衆を笑はせられたり

十、「ツベルクリン」療法の復舊あり「ツベルクリン」は今日再び歐洲に歡  
迎せられ至る所の病院は尙之れが療法を行ひつゝあり而して其用量も驚く  
許りの大量にして其の初むるや固より微量よりすれども増加的遞次を短縮  
し驚く許りの大量に達せしむるにありと而かも結果は佳良にして抗體の發  
生顯著なりと

十一、而してコッホ氏は「アレバート」につき抗體發生の狀況を檢査し得る方法を考案せられたれば今後結核療法は大に進歩すべし

十二、一細菌溶解藥の創見せられたる事にして此藥品は結核菌に作用せざるを以て咯痰より結核菌を分離培養するに於て殊に便宜あるべしと

十三、歐洲に於て一意外の珍事ありそは支那及日本に於て常用する墨を以て細菌其他の染色上に應用したる事にして殊に「スピロヘーテバリーダ」の如きは極めて美しき標本を得べしと但し所謂陰性的染色にして檢體は着色せられずして周圍の着色せらるゝにありし而して斯の如き方法が墨の本家本元に於てせられずして反つて歐洲に於てせられたるは一奇觀ありと

十四、されど歐洲の學界は十六年目に行きて見れば大に進歩し居れども又驚くべき程進歩せざる點あり其の一事を擧ぐれば彼の「デフテリ」血清の如き彼等が使用するものは一定量に含まるゝ免疫單位甚だ低く其改良の意味に於て我國の進歩に及ばざる甚だ遠し故に歐洲と云へば一も二もあく進歩して居る様に思ふけれども事實は是れに反するもの甚だ多し故に諸君も意を強くして可なりと結論せられたり

前記の講演は極めて多趣多味にして三時間有餘の長時に渉りし事として記すべき事は猶ほ多々あれども詳細は十二月發行の細菌學雜誌に登載せらるべければたゞ其梗概を記せしのみ宛に角實に大學者的講演なりし

(日本醫事週報抄)

## ○學窓雜觀

二 芳 生

▲人間は地位に依つて随分勝手な眞似をするもんだ、或る雜誌に「コンナ」とを載せてる得業士がある、「學士稱號の事吾等は最初より馬鹿らしくて物が云へず、何々醫學專門學校學士とぞ」前關白太政大臣の名稱が何の御利益あるべき、最早や日本國一般も大分進歩したればこんふ名稱は一向世

間にも有難く信用されず專門學校の組織が大學とあらざれば、得業士と何の差もなし、又文部省の惡戯も極まれりと云ふべく、全時にこれを有難く思ふて居る母校の先生方の非常識にも呆れたる哉、ツマリこの名稱は臺灣や朝鮮からイザ知らず、世間では「未だ學校を出て間もない無經驗な醫者様」たるを當分の間は表白するに過ぎず、故に論文など出して不利益を稱號を貰ふ者は尙更ら出てざるあり」云々。かと思ふと一方には單に醫學士とのみ記し校名を冠せず世間を押廻つて居る先生もある、先日も靜岡の某旅館の帳面に御丁寧にも醫學士何某二十八歳と記したのであるので、調べて見たら千葉醫事出身であつたそふ

▲殿下行啓の際平井鐵道院總裁や四高の吉村校長等と共に御陪食を賜はつた校長高安博士に對せられ「お前は足が強いな」を尋ねがあつた時博士は餘り強からざる旨言上した處「醫學士は足が重いやうではいけない」と仰せあり博士も恐縮された云ふことだ、又其際地方病について御下問あらせられ博士は佝僂病の事を言上した處「それは確か富山縣であつたな」と御言葉あり又「トラホーム」のことに就ても「貴重なる眼の病を八種傳染病の外に置くは内務省の不都合である」と仰せられたさうだ。

▲大隈伯を訪れた某氏は、頗る醫士の常識なきを論じた、伯は之を聞き徐ろに口を開いて「君のやうに云ふと現代に一人も完全な醫者がいやうぢやが、吾輩の見る所では慥かに二人だけエウ者がある、一人は大學の青山で彼は大藏大臣的の才能がある、今一人は研究所の北里で彼は拓殖大臣とするに適任者だ、然るに此二人が未だ大臣の地位につかず、後藤遞相に一步を輪する所以はまた學用患者を使ふ事が少く、研究が足りまいからだ、後藤は臺灣に於て一万七千からの學用患者を殺して見たからさ」と云ふたので訪客呆然として引下つたさうだ。

▲白河樂翁の花月草紙に既にこんふ事が書いてある、「くすしの心得べきことを語り給へ」と云ふものに、先づ師を撰ぶべし。世にいふ才あるものは學

ぶ所あきく、味はふ所うすし。年老いたる醫士のしかも文あどもよく味はひ治療世にあせども、晝夜殊に奔走する程にもあらぬものに習ふ可し。規矩を守りぬるものは世中の交り心をにせざれば左も右も南も北もと用ふるやうにはあらぬものあり。今云ふはやるさかいふくすしを見てもしるべし、古今の方より俗間の方までなも試み其を心してつかふものはたのしむべし。さて師さしても其師の僻をよく見てわが心にいましむ可し。さてものをもよく習ひ覺て後病家に初めて行けば、こゝぞ大事さ心得て診察は更ふりじりても容易くは盛らずこの心のち／＼も忘る可からず。其うち六ヶしき病あればたゞ心にかりて、よはもあんじものし、あくるまちて行きてみんと思ふ、この心をも忘るべからず。藥興へたるが遂に救ひ難きに至れば、一日二日はもの／＼こゝにもせず心を傷むるあり、この心をも忘るべからずさて其心にも人々自ら感ずていさ年若けれどもせちに心用ひぬ、かの風も怠りぬこゝのつかへも遂に癒ぬと、幼き者の筆さりて書くに、よき事あけれぞ見るものその幼きにしては能書ふりと賞むれば自ら眞の能書さ心得て下達する如く、風の心地怠りしさて賞むるにも及ばざれども年若くして思ふ心から人も珍きを喜ぶ心よりしてはやすをわが心にも慢ずるささし出てきてせちに思ふ心もうすくありぬ。もとよりつたふきにつさむる心もゆるびたれば病多く癒はず又招く人もなし。この時ぞくすし終身の覺悟の定まる時あり、この時よく心得しか名有るくすしとはあるあり。人招れば黄橘の苦に迫りてわが方より規矩をすて、病家にへつらひ又は我道をば次にし酒あどたうべ猿樂やうの事ふとして其れもて人に用ひられん事をほりする類、其餘さま／＼利に走りて遂にわが業に怠るものもあるぞかし。さるに人招かぬ折もわが規矩乱さず潜まりめて文々よくみて心に會得し三年にてもあれいつまでも心を變へず日をあはせてものくひあどして時をまつ。斯くの如きもの時にあへば必ず遂には名ある者さあるあり」

▲日本と獨逸の新年 (Das Neujahr in Japan und Deutschland) 獨逸の新年は暗に初まり日本の新年は日出に初まる。元來 das Neujahr は der erste Tag des neuen Jahres (新歳の第一日) を云ふことであつて日本で云ふ新年とは少し意味が異つて居る。日本で云ふ新年は des neue Jahr で Neujahr ではない。故に Neujahrsmacht は die Nacht vor dem ersten Tage des neuen Jahres で元日の前夜を云ふ、但し日本の除夜は獨逸で Silvestabend を稱し Neujahrsmacht とは云はぬ。これは羅馬法王 Silvester I. (紀元三三五年十二月三十一日に崩す) の命日だから名づけたのである。一年の最終を云ふ所からは Silvestabend を云ひ新年が来る夜と云ふ所からは Neujahrsmacht を稱へるのである。日本では新年は元日だの初日の出だの初鵲だのを云つて夜が明けてから来るやうな心持がするが、獨逸人はもう少し精密で一月一日の午前零時零分零秒が新年の来る時として居る。だから十二月三十一日の午後十二時は除夜の終りであるし元日の始めてもある。除夜の Pruscha (ボンズ酒) を飲んで祝ふうちに午後十二時の鐘が諸方の寺で鳴り出す。この鐘が日本の様か陰氣か百八煩惱を打拂ふ聲ではなく何となく陽氣に聞ゆる、するを密を明けて Prost Neujahr と叫ぶもあるし支那の爆竹の様に小銃をポンポン打ち出すもあり、街路殊に四ツ角には小供や若い者が多人数群つて互に Prost Neujahr! を叫ぶ。これでお正月を迎へた譯である。うれからは靜かに寢床に就いて元日の朝は寢坊をするこゝにきまつて居る。年男が暗いうちに若水を吸む音も聞えず、お爺が神棚で鳴らす拍手も聞えず聞さして聲あしである。かく日本の新年は元日の「明け方に來て」獨逸の新年は「夜中に來る」から Neujahrsmacht と云ふ語があるのだ。

さて日本の「元旦」と云ふ語は Neujahrsmorgenrot 又は Neujahrsmorgen に當る。Tiedge の Hell vom Neujahrsmorgenrote angestrahlt sang, mit dem Sinn frommer Innigkeit, der Bote Wandsbecks durch den

Richard hin. (ランツベックの使の男は櫛の森のこうくさしたふかき元旦の曙光まばゆきに有難き渴仰の念満ちて新歳の歌を唱へ行きぬ) と吟じたるは元旦の拂曉の田舎の景色を目の前に見るやうである、されば元旦の感は日本も獨逸もさして異なる所ない云つてよい。日本では元旦に金銭を拂出すことを忌み嫌ふが獨逸では Neujahrsmorgens 「元日廻はり」と稱へて小學校の先生とか宣教師とか戸々を訪れて貧者病者の爲めに義捐金を集むる習慣がある、するに大抵の家では若干の金を醸出して其年の幸福を祈つて貰ふ。日本の信心家が元旦に恵方参りをするも此意味であらう。年玉は Neujahrsgeschenk に當るが十二月廿四日に「クリスマス」の贈答が済む後だから獨逸では日本の様な性質の年玉はない、また小供も餘り當てにはして居らぬ。又「新年の回禮」は Neujahrskomm, Neujahrbesuch 又は Gratulationsbesuch なども譯すべくあるが獨逸では十二月三十一日に先方へ達する様に Neujahrskarte, Neujahrsbrief を發送するのが普通である、これにも日本と少し違つて居る点がある、日本では大晦日の忙しい最中に新年状が舞い込んで來るに變に思ふが獨逸では是が當り前にあつて居る。と云ふのは新年にあつてしまつてから新年の多福を祈るのは遅である、新年にあらぬ先きにこそ新年の多福を人に祈るべしと考へてある、日本では新年に「あつた」ことを歡び祝ひ獨逸では新年に「あらんことを」を祝ふのである。Neujahrswunsch, Neujahrsgelation は年賀を譯すと雖も其の實は「新年にあつてからの幸福を祈る辭」の義である。之を要するに獨逸の新年は過去と未來との境にありて人をして過去を回顧し未來を慮かしめ何となく ernst して singlich の情を起さしめる、日本のは現在を喜び過去を忘れしむるが如き性質が多くて樂天的である、故に一休が門松や冥土の旅の一里塚と詠んで人を戒めたるが如きは獨逸では無用の言であらう。しかし新年の新年らしくて愉快なるは日本國風の特長であらう、獨逸の如き陰鬱な冬空ではいくら harmlos の日本人でも新年ら

しき新年は迎へられぬのである、我が國土自然の美に富み風土の好良あるはこれ日本の新年の性質を作り出したる一素因と見ても可いだらう。

(von Zeitschrift für deutsche Sprache No. 5, J. 8, X.)

### ○屠蘇の話

屠蘇は人皇五十二代嵯峨天皇の弘仁年中を以て濫賜さふし、元旦にこれを浸せる酒を飲めば一切の時行疫癘を辟け、又は腫物惡疾を禦ぎ一家之を飲めば一里病なしとたいした効を有す。處方例は十餘種あれとも今其二三を左に掲ぐ

- (一) 白朮、桔梗、蜀椒、桂心、大黃、烏頭、菝葜、防風、(各二分)
- (二) 白朮、桂心、(七銖五分)防風(二兩)菝葜(五銖)、蜀椒、桔梗、大黃、(五銖七分)、烏頭(二銖五分)赤小豆(十四枚)
- (三) 白朮、桔梗、山椒、防風(各二分)、肉桂(二分)大黃(一分)(屠蘇方考の本邦屠蘇散これあり)
- (四) 白朮(二兩)桔梗(二兩半)烏頭、附子、細辛(各一兩)

### 醫治効用

烏頭 主成分は「アコニチン」にして猛毒を有し麻睡、鎮痙劑として罕に醫藥に供せらる、附子は之と同質異形体のものなり

大黃、根部を粉末として専ら下劑とし、又時として健胃劑として用ひらる

防風 肉桂、桂心等は一種の健胃強壯劑

白朮、赤朮等は利尿解熱藥、桔梗は一種の強壯藥、菝葜は一種の變質藥、蜀椒は山椒の別名にて昔時小兒の蟲下しとして用ひられたり

即ち烏頭、大黃を除く外は殆んど其効を見ず、而して烏頭及び附子等は久時酒中に浸すときは其有効成分多量に浸出し中毒を惹起したる例尠からず、故に後世の屠蘇には之を除去したり。

(會告)

會 告

○四十一年度十全會費收支決算報告

四十一年度金澤醫學專門學校十全會費別紙ノ通り決算ヲ遂ケ候結果收入増金百拾壹圓壹錢支出殘金六拾七圓貳拾參錢七厘合計金百七拾八圓貳拾四錢七厘ヲ剩餘ス而シテ該金額ハ會則第十六條ニヨリ資金ニ組入スヘキ處四十一年三月二十二日ノ協議會ニ於テ第一回春季陸上運動會費不足額悉皆償還迄毎年度ノ入會金及豫算殘餘金ヲ以テ漸次償還ノ決議ニ基キ今尙償還未済金百貳拾四圓貳拾九錢六厘ナリ因テ本年度入會金百貳拾圓及豫算殘餘金百七拾八圓貳拾四錢七厘合計金貳百九拾八圓貳拾四錢七厘ノ内ヨリ前記未償還額ヲ全部償還シ殘金百七拾參圓九拾五錢壹厘ヲ資金ヘ繰入セリ  
現在資金ハ國庫債券額面百五拾圓並ニ帝國五分利公債証書額面八百圓合計九百五拾圓及金參百貳拾圓拾九錢五厘ナリ尙外ニ「ピア」購入基金九拾參圓六拾四錢貳厘ナリ依テ繰越現金四百拾參圓八拾參錢七厘ナリ  
右報告候也

○明治四十一年度金澤醫學專門學校十全會費收入決算表

科 目	豫算額	收入済額	豫算額ニ比シ 收入額差 増 減	備考
第一款 金澤醫學專門學校十全會	一、四八・三〇〇	一、五九・三〇〇	一一・〇〇〇	—

○明治四十一年度金澤醫學專門學校十全會費支出決算表

科 目	原豫算額	流用増減額 *印ハ減	豫算現額	支出済額	不用額
經 常 部					
第一款 金澤醫學專門學校十全會	一、三〇・三〇〇	—	一、三〇・三〇〇	一、二五・二二五	五・〇七五
第一項 春季陸上運動會	一〇・〇〇〇	—	一〇・〇〇〇	一四・六〇〇	三・四〇〇
第一目 春季陸上運動會	一〇・〇〇〇	—	一〇・〇〇〇	一四・六〇〇	三・四〇〇
第二項 講話部	四・〇〇〇	—	四・〇〇〇	四・〇〇〇	—
第一目 大會費	三・六〇〇	* 五・九七五	三・二二五	三・二二五	—

第一項 特別會員寄付金	一六・八〇〇	一七・四〇〇	六・四〇〇	俸給額多 キニヨル
第一目 職員寄付金	一六・八〇〇	一七・四〇〇	六・四〇〇	入學生多 キニヨル
第二項 通常會員會費	一〇・六〇〇	一・二六・〇〇〇	三・〇〇〇	入學生多 キニヨル
第一目 醫學生會費	九・三〇〇	九・五〇〇	四・〇〇〇	入學生多 キニヨル
第二目 藥學生會費	一・三〇〇	一・四〇〇	一・八〇〇	入學生多 キニヨル
第三項 入 會 金	一三〇・〇〇〇	一四・〇〇〇	二六・〇〇〇	入學生多 キニヨル
第一目 入 會 金	一三〇・〇〇〇	一四・〇〇〇	二六・〇〇〇	入學生多 キニヨル
第四項 利 金	五・五〇〇	六・二〇〇	二五・六〇〇	預金多 キニヨル
第一目 預金利子	五・五〇〇	六・二〇〇	二五・六〇〇	預金多 キニヨル
合 計	一、四八・三〇〇	一、五九・三〇〇	一、二一・〇〇〇	

第十全會雜誌第五十六號

第二目 通賞會費	二〇〇〇	五・八五	七・八五	七・八五	—
第三項 雜誌部	四〇・〇〇	—	四八〇・〇〇	四八八・八五	一・二五
第一目 雜誌費	四四・四〇	四・九五	四五・三五	四五・三五	—
第二目 通信費	一五・六〇	* 二・二五	二・三五	一・二〇	一・二五
第三目 消耗品費	七・〇〇	* 〇・三五	六・七四	六・七四	—
第四目 製本費	一〇・〇〇	〇・三五	一〇・三五	一〇・三五	—
第五目 雜費	一・〇〇	八・二〇	九・二〇	九・二〇	—
第四項 部	七五・〇〇	—	七五・〇〇	七五・〇〇	〇・六二
第一目 ロンテニス	六〇・〇〇	* 一九・八三	四〇・二七	三九・四五	〇・六九
第二目 大會費	一五・〇〇	一九・八三	三九・八三	三九・八三	—
第五項 劍道部	七〇・〇〇	—	七〇・〇〇	六九・九四	〇・〇六
第一目 大會費	三〇・〇〇	三・七〇	三三・七〇	三三・七〇	—
第二目 獎勵費	四〇・〇〇	* 三・七〇	三六・三〇	三六・二四	〇・〇六
第六項 柔道部	七三・〇〇	—	七三・〇〇	七二・八四	〇・一六
第一目 大會費	三三・〇〇	二・六四	三四・六四	三四・六四	—
第二目 獎勵費	四〇・〇〇	* 二・六四	三七・三〇	三七・二〇	〇・一〇
第七項 弓術部	五五・〇〇	〇・六〇	五五・六〇	五五・四六	〇・一四
第一目 大會費	一五・〇〇	* 〇・三六	一四・六四	一四・六四	—
第二目 備品費	三〇・〇〇	五・二五	三五・二五	三五・二五	—
第三目 南山修繕費	五・〇〇	四・四五	〇・五五	〇・四五	〇・一五
第四目 獎勵費	五・〇〇	〇・一〇	五・一〇	五・〇〇	—

明治四十一年度金澤醫學專門學校臨時費支出決算表

臨時部	科目	原豫算額	流用減額	豫算現額	支出濟額	不用額
第八項 會務費	第一目 備品費	九四・五〇	*	一・四五	九五・九五	—
	第二目 印刷費	三・〇〇	* 〇・三〇	二・六九	二・六九	—
	第三目 消耗品費	〇・五〇	* 〇・五〇	—	—	—
	第四目 雜費	五・〇〇	* 三・〇五	八・〇五	八・〇五	—
	第五目 茶話會費	七・〇〇	* 〇・二五	六・七五	六・七五	—
	第九項 學術實習部	六・〇〇	* 〇・五〇	五・五〇	五・五〇	—
	第一目 藥品材料費	八・〇〇	—	八・〇〇	四・〇二	三・九八
	第二目 備品費	五〇・〇〇	—	五〇・〇〇	三九・六〇	一〇・四〇
	第三目 雜費	二〇・〇〇	—	二〇・〇〇	—	二〇・〇〇
	第十項 豫備費	一〇・〇〇	—	一〇・〇〇	〇・六〇	九・四〇
	第一目 豫備費	六四・八四	* 二・〇五	六二・七八	五一・九九	一〇・七九
	第十項 端艇基金	六四・八四	* 二・〇五	六二・七八	五一・九九	一〇・七九
	第一目 端艇基金	一・〇〇	—	一・〇〇	—	一・〇〇
	第十項 借入金償還	一・〇〇	—	一・〇〇	—	一・〇〇
	第一目 借入金償還	一三〇・〇〇	—	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	—
合計		一・三六・三四	—	一・三六・三四	一・三六・三七	—

(會告)

第一款	金澤醫學專門 學校十金會新 營費	一八〇〇〇	一八〇〇〇	一八〇〇〇
第二項	射場雨覆新 設費	一八〇〇〇	一八〇〇〇	一八〇〇〇
第二項	ローンテニス コート新設 費	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇
合計		一八〇〇〇	一八〇〇〇	一八〇〇〇

○四十一年度十金會校外特別會員  
會費收支決算報告

四十一年度十金會校外特別會員會費收支決算ノ結果

本年度收入金額ハ 一、一六九・七二一

ナリ内

自四十二年度會費前納金額 五五二・〇〇〇

至五十年度會費前納金額 一二九・一六一

ナ扣除シ殘金 前年度剩余金ニシテ本年度資金ヘ組入額 四八八・五六〇

ハ本年度實收入金額ナリ 本年度支出濟額ハ 五一・一二五〇

ニシテ收入額ニ比シ 三三・六九〇

ナ不足ス 前年度缺損額ニシテ繰越金ニテ補充ノ分 四〇・二九四

計 金 六二・九八四

ノ缺損ハ會費未納者多キニ因ル故ニ該金額ハ前年度剩余金ニシテ本年度資

金ヘ組入額ヨリ償還ス 資金ハ三十七年度ニ於テ同年度以後ノ前納會費ヲ繰替第三回國庫債券額面

貳百五拾圓ヲ價格金貳百參拾圓五拾錢ニ應募購入シ毎年度ノ剩余金ヲ以テ

漸次償還殘金五拾六圓四拾錢九厘ハ前年度剩余金ニシテ本年度資金組入額

リ悉皆償還ス故ニ現在資金ハ第三回國庫債券額面貳百五拾圓及現金九圓七

拾六錢八厘ナリ依テ繰越金五百六拾壹圓七拾六錢八厘ナリ

右報告候也

○明治四十一年度金澤醫學專門學校  
校外特別會員會費收入決算表

科	目	豫算額	收入濟額	豫算額ニ比シ 收入濟額差	備考
第一款	金澤醫學專門 學校十金會 校外特別會 員會費	一、三六・八六八	一、六九・七二三	一・二七・三七	未納者アリ
第一項	度會費	一、〇〇・〇〇〇	六九・〇〇〇	三・二・四〇〇	シニヨル内
第一目	四十一年 度會費	六〇・〇〇〇	四三・〇〇〇	一六・〇〇〇	參百參拾圓
第二目	前年度未 納會費	一〇〇・〇〇〇	二五・〇〇〇	七五・〇〇〇	本年度以前
第三目	前納會費	三〇〇・〇〇〇	二五・〇〇〇	二七五・〇〇〇	々々々々々々
第二項	利子	三・五八	四・七六〇	九・一八二	未納者アリ
第一目	預金利子	三・五八	四・七六〇	九・一八二	シニヨル
第三項	繰越金	三三・〇〇〇	四八・六六一	一五・六六一	預金多キニ
第一目	繰越金	三三・〇〇〇	四八・六六一	一五・六六一	ヨル
合計		一、三六・八六八	一、六九・七二三	一・二七・三七	内貳百九拾 九圓六拾錢 ハ前納會費 貳百貳拾圓 ハ剩餘金ナ リ



○明治四十一年度金澤醫學專門學校  
校外十全會費支出決算表

科 目	原豫算額	流用増減 額印入減	豫算現額	支出濟額	不用額
第一款 金澤醫學專門學校校外十全會費	七四・五五八		七四・五五八	六四〇・四二一	一〇一・一三七
第一項 會費	五五・三〇〇		五五・三〇〇	五二・二五〇	一四・〇五〇
第一目 雜誌費	四四・六〇〇	*三五・四〇〇	四六・一〇〇	四六・三〇〇	九・八〇〇
第二目 通信費	六六・〇〇〇	二五・四〇〇	九一・四〇〇	九一・四〇〇	
第三目 雜費	一八・〇〇〇		一八・〇〇〇	一三・五〇〇	四・五〇〇
第二項 豫備費	七四・〇〇〇		七四・〇〇〇		七四・〇〇〇
第一目 豫備費	七四・〇〇〇		七四・〇〇〇		七四・〇〇〇
第三項 維持資金入組	一四・九六八		一四・九六八	二九・二六二	三三・七九七
第一目 維持資金入組	一四・九六八		一四・九六八	二九・二六二	三三・七九七
合 計	七四・五五八		七四・五五八	六四〇・四二一	一〇一・一三七

○四十一年度中校外特別會員會費  
收入內譯表

會費年別	年額壹圓 人員金額	年額六拾錢 人員金額	合 計 人員金額
三十八年度會費	三・〇〇〇		三・〇〇〇
三十九年度會費	一四・〇〇〇		一四・〇〇〇
四十年年度會費	二六・〇〇〇		二六・〇〇〇

四十一年度會費	六	六〇〇〇	九六〇〇	七	六六〇〇
四十二年度會費	八	八〇〇〇	二六〇〇	一〇三	九六〇〇
四十三年度會費	七	七〇〇〇	三三〇〇	五	八四〇〇
四十四年度會費	七	七〇〇〇	三三〇〇	六	五・八〇〇
四十五年度會費	一	一〇〇〇	三八〇〇	二四	一四八〇〇
四十六年度會費			四八〇〇	八	四八〇〇
四十七年度會費			一・八〇〇	三	一・八〇〇
四十八年度會費			一・三〇〇	二	一・三〇〇
四十九年度會費			〇・六〇〇	一	〇・六〇〇
五十年度會費			〇・六〇〇	一	〇・六〇〇
合 計	二三	二三・〇〇〇	二二〇	四三	三三・〇〇〇

○自明治四十二年六月二十三日校外十全會費納付調書  
至同年十二月十六日

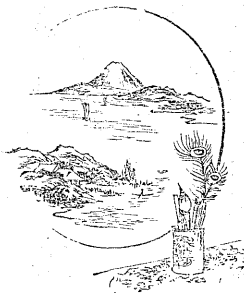
金額	期 限	氏 名
金參圓	自四十四年度五ヶ年分	建部 鈴次 郎君
金參圓	自四十四年度五ヶ年分	小野 澤 庄 桂君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	宮 城 篤 珍君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	杉 本 恒 治君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	本 仙 太 郎君
金參圓	自四十四年度五ヶ年分	赤倉 喜 久 雄君



八

金參圓	自四十四年度三ヶ年分	富久尾	湊君	金參圓	自四十四年度三ヶ年分	成田	高仁君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	吉井直	次君	金參圓	全	關承	五君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	清水末	吉君	金參圓	全	上野	善造君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	英軒	二君	金參圓	全	遠山	繁君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	渡邊宗一	耶君	金參圓	全	村松	貞治君
金貳圓	自四十四年度二ヶ年分	安田三	木君	金參圓	全	田山	退一君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	中山富次	耶君	金參圓	全	鈴木	伊作君
金參圓	全	相馬甲五	耶君	金參圓	全	宮澤	德治君
金參圓	全	西村貞	俊君	金參圓	全	眞館	修平君
金參圓	全	塚本政	次君	金參圓	全	福村	深教君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	富田敦	貴君	金參圓	全	勝部	方策君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	山田有	登君	金參圓	全	堀孝	信君
金參圓	全	柳原	隆君	金參圓	全	春山	盛道君
金參圓	自四十三年度五ヶ年分	山村銚	二君	金參圓	全	清水	義成君
金參圓	自四十七年度三ヶ年分	岡村	晋君	金參圓	全	伊藤	精一君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	高田茂	一君	金參圓	全	中田	德二君
金參圓	全	高澤冠	一君	金參圓	全	栢原	直次郎君
金參圓	全	重松盛	勝君	金參圓	全	梅澤	亮吉君
金參圓	全	平手秀	敏君	金參圓	全	小林	友一君
金參圓	全	天野彦	次君	金參圓	全	太田	卯三郎君
金參圓	全	坂本修	吉君	金參圓	全	田濱	仙次郎君
金參圓	全	若林篤	之君	金參圓	全	山口	登君

齊藤房治君	吉井環次郎君	花岡佐太郎君	加納景成君	大木則雄君	越野義三郎君	岡田剛吉君	田中健次君	谷口長松君	藤岡勝治君
-------	--------	--------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------





# 會員諸君に告ぐ

今後雜報通信の部門を擴張し以て  
普く會員諸氏の消息と行動とを細  
録せむとす依て如何なる短信なり  
とも本會に宛て端書にて通信せら  
れんことを切望す

次回原稿ノ切 一月十五日

次回雜誌發行 二月廿五日

編輯委員